

Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud™ の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2014 年 1 月 17 日

- [Marketing Cloud および共有機能](#)
- [Adobe Analytics](#)
- [Adobe Social](#)
- [Adobe Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud および共有機能

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能および修正点です。

- [Dynamic Tag Management](#)
- [Data Connectors](#)

Dynamic Tag Management

2014 年 1 月リリースの修正点:

- Akamai ホスティングが、すべての Web プロパティのデフォルトの配信方法になりました。2014 年 12 月 31 日に、現在の Amazon S3 ホスティングオプションは廃止されます。2014 年 1 月 15 日以降に作成されるすべての新しい会社には、Akamai が使用されます。この日以前に作成された会社は、Akamai か Amazon S3 かを選択できます。
- ユーザーと Web プロパティのリストが、ページ分割されるようになりました（項目数が 25 を超える場合）。この変更は、ユーザーエクスペリエンスおよびプラットフォームパフォーマンスの改善のために行われました。
- 会社の管理者は、Web プロパティを削除できるようになりました。これを実行する場合は、注意してください。Web プロパティを削除すると、すべてのツール、ルールおよび設定が削除され、元に戻せません。
- カスタムの Adobe Analytics コードを含む複数のルールが正常に実行されるようになりました。以前は、複数のページロードルールが実行され、それらすべてに Adobe Analytics のカスタムコードが含まれていると、1 つのカスタムコードのみが実行されていました。
- ルールのバッチ非アクティブ化が機能するようになりました。ルールのバッチ非アクティブ化が実行されたと UI に表示されても、実際にはライブラリで非アクティブ化されていなか

った問題を修正しました。

- Adobe ID を使用したログイン画面が、marketing.adobe.com のログインページと同じ外観になりました。
- ユーザーのアカウントの設定ページに、承認および発行の通知、メモの作成など、重要でない電子メールをオプトアウトするためのオプションが表示されるようになりました。新しい会社への招待、プロパティおよびパスワードリセットなど、重要な電子メールについては、今までどおり送信されます。

Data Connectors

機能	説明
「一般的な設定」に「引き継ぐ」オプションが追加されました。	<p>（管理者）「一般的な設定」の「設定」タブに「引き継ぐ」オプションが追加されました。</p> <p>この機能をクリックすると、統合の管理者になります。この機能により、必要に応じて統合を削除できます。これは、統合を作成した管理者ユーザーが非管理者ユーザーに変更された場合に便利です。</p>
マッピング用に再利用可能な予約変数。	<p>予約変数が存在する場合、変数のマッピングメニューに予約変数機能が表示されるようになりました。これを選択すると、マッピング用に存在するすべての利用可能な予約変数が表示されます。予約変数が使用中の場合、システムによって、他の統合で使用している変数を再利用しようとしていることと名前を変更しようとしている可能性があることを示す警告が表示されます。</p> <hr/> <p>注意： 共有変数の再利用すると、変数を使用するすべての統合に対して名前の変更が適用されます。</p> <hr/>
予約変数メニュー項目を保持します。	<p>このオプションは、統合を非アクティブ化ポップアップに追加されました。この機能により、予約変数を使用する統合の非アクティブ化時に、Reports & Analytics の関連するメニュー項目を保持できます（以前は、統合によって生成されたレポートメニューは、統合が非アクティブ化されると削除されていました）。</p>

Analytics

Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics の新機能](#)
- 修正点：

- Reports & Analytics
- Report Builder
- Ad Hoc Analysis
- Data Workbench (Analytics Premium)
- Data Warehouse
- クリックストリームデータフィード
- AppMeasurement およびモバイル SDK

Analytics の新機能

データフィードを使用するすべてのお客様への重要なお知らせ： 今後数か月のうちに、多くのデータフィードフィールドの最大長を増やす予定です。これらの変更により、Adobe Analytics に追加機能が提供されますが、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

機能	説明
Data Warehouse の新しい検索エンジンレポート	<p>次の検索エンジンレポートが Data Warehouse で使用できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 検索エンジン - 有料 • 検索エンジン - 自然 • 検索キーワード - 有料 • 検索キーワード - 自然
更新された Data Warehouse レポート	<p>次の Data Warehouse レポートが更新され、Reports & Analytics および Ad Hoc Analysis で使用されるロジックと合致するようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リファラー • 参照ドメイン • リファラータイプ • 検索エンジン - すべて • 検索キーワード - すべて
Tableau の統合	Data Warehouse は、Tableau 形式でデータをエクスポートできるようになりました。

Reports & Analytics

2014 年 1 月リリースの修正点:

- 主要指標レポートの計算指標で間違った合計が表示される問題を修正しました。計算指標は、このレポートの合計に常に「N/A」と表示されるようになりました。これは、計算指標が使用される他のすべてのレポートと一致します。
- Internet Explorer 8 および 9 で、ダッシュボードにフォールアウトレポートが表示されない問題を修正しました。
- リファラータイプと参照ドメインの相関関係がデータ抽出ウィザードで使用できなかった問題を修正しました。
- 分類が適用されたレポートにおいて、子レポートを親レポートでクロス集計できるが親レポートを子レポートでクロス集計できない問題を修正しました。この修正は、バージョン 15 のデータにのみ機能します。
- Internet Explorer 9 または 10 で、新しい BOT ルールが作成されなかった問題を修正しました。
- 数字で始まるレポートスイート ID でデータベースエラーが発生する問題を修正しました。
- データのないトレンドレポートで、配信形式が HTML の予定レポートが配信できない問題を修正しました。
- *s.pageName* 変数にセットされたマルチバイト文字の文字列が、100 バイトで強制的に切り捨てられ、最後の文字が壊れることがある問題を修正しました。この問題により、ページレポートで文字が表示されないことがありました。
- SearchCenter レポートレットがダッシュボードに表示されない問題を修正しました。
- データソースは、すべてのマーケティングチャネルタイプでインポートできるようになりました。以前は、データソースのインポートは、チャネルタイプが「オフライン」のマーケティングチャネルに限定されていました。
- Web ログデータソースは、ログファイルで提供された URL 部分を正しく認識できるようになりました。これにより、URL プレフィックスが正しく認識されない問題が修正されました。
- Firefox の最新バージョン（v22 以降）で動作する ClickMap の新しいバージョンがリリースされました。

[トップ](#)

Report Builder

2014 年 1 月リリースの修正点:

- VBA マクロで、VBA マクロが完了するまで待たずにすぐに返される問題を修正しました。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis

2014 年 1 月リリースの修正点:

- 従来のシングルサインオン (SSO) 機能でログインする非管理者は、レポートの新しい予定を作成できませんでした。レポートを予定しようとする、標準ユーザーは、「Ad Hoc Analysis は、現時点でこのリクエストを送信できません。後でもう一度実行してください。」という内容のエラーが表示されていました。これは修正され、すべてのユーザーが新しいレポート予定を作成できるようになりました。

[トップ](#)

Data Workbench

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

Data Warehouse

2014 年 1 月リリースの修正点:

- トランザクションデータのソースデータ (トランザクション ID を使用してアップロードされたオフラインデータ) は、「訪問回数 - すべての訪問者」および「訪問者数」指標に含まれなくなりました。これは、Reports & Analytics と合致させるために変更されました。
- ページ名ベースのディメンション (次のページ、前のページ、その他) の大文字と小文字の区別は、ページ名 (レポートのページ列) と同じ大文字と小文字の区別設定が使用されるようになりました。
- 複数の値を同時に記録する変数 (リスト Prop やリスト変数) のレポート作成時のパフォーマンスを向上させるための変更が行われました。複数の値を同時に記録したヒットを Data Warehouse で取り出す場合、値同士がクロス集計されてレポートするため、データ量が膨大になることがよくあります。この変更は、レポートに含めることのできる複数值の変数の数を制限するのではなく、ヒットあたりの行数を 1,000 に制限するものです。
- パーティシペーション指標 (イベントパーティシペーションまたは eVar インスタンスパーティシペーション) を含むレポートをトラフィック系変数 (Prop など) でクロス集計できるようになりました。これにより、Ad Hoc Analysis の指標と一致するようになります。以前は、このタイプのレポート設定でレポートされる指標は、パーティシペーション指標ではありませんでした。
- 「値が null」および「ヌルでない」演算子を使用するコンバージョン分類に基づいたセグメントの適用時に、キー値が設定されているが分類値が存在しない行項目が正しくフィルタ

ーされませんでした。「ヌルでない」フィルターが適用された場合、これらの値は除外されていました。「値が null」フィルターが適用された場合、これらの値は含まれていました。これらの行項目は、現在はレポートに含まれる、または除外されるようになりました。

- 「ページでの滞在時間」の計算時に、Data Warehouse で、以前のヒットより古いタイムスタンプのヒットが受信された場合（out-of-order）を認識するようになりました。これが発生した場合、滞在時間がマイナスではなく 0 と見なされるようになりました。

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

データフィードを使用するすべてのお客様への重要なお知らせ： 今後数か月のうちに、多くのデータフィードフィールドの最大長を増やす予定です。これらの変更により、Adobe Analytics に追加機能が提供されますが、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

このリリースでは更新はありません。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

[トップ](#)

Social

2014 年 1 月リリースの機能および修正点です。

新機能および拡張機能

機能	説明
VK のサポート	VK（VKontakte）が、リスニングプロバイダーとしてサポートされます。Facebook に似た VK は、世界中のロシア語を使用するユーザーが主に使用しています。
ctx.ly リンク短縮サービスのサポート	Social では、カスタムドメインに使用する ctx.ly 短縮 URL をサポートするようになりました。
Application Builder で強化されたコードブロック要素のサポート	コードブロック要素機能が強化されました。これらは HTML/CSS および JavaScript で別の入力ボックスになりました。また、Social Application Builder で JavaScript の実行を有効または無効にできるようになりました。

修正点

- 製品のパフォーマンス、操作性および信頼性を向上させるために、多くのバックエンドの修正が行われました。
- 夏時間を採用しない地域のお客様（アリゾナなど）が設定 / 環境設定でタイムゾーンを設定した場合、および投稿やアプリケーションを公開した場合の不一致の問題を修正しました。
- Facebook ページ用の設定を編集した場合に所有者、モデレートとインサイトおよび予測の設定が以前の設定を反映しない問題を修正しました。
- 投稿一覧レポートで個々の投稿を表示する場合のナビゲーションの問題を修正しました。ユーザーが投稿を閉じて投稿一覧レポートに戻ると、ユーザーが以前表示していたモード（リスト表示またはロールアップ表示）でレポートが表示されるようになりました。
- 投稿一覧レポートのロールアップ表示で、YouTube セクションのクリック数列がソートできない問題を修正しました。
- プロパティの詳細レポートの新しいフォロワーに正しい数字が表示されなかった問題を修正しました。
- 期待される動作をより正確に説明するために、ユーザーとグループページ（設定 / Marketing Cloud ユーザーとグループ）の列見出しを「最終ログイン」から「最終訪問」に変更しました。

- あるコンピューターまたはブラウザーから Social にログインし、その後、別のコンピューターまたはブラウザーを使用して同じアカウントにログインした場合の動作を変更しました。以前は、使用されているコンピューターまたはブラウザーにかかわらず、選択されたレポートスイートが自動的に読み込まれていました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

- [Target Standard](#)
- [Target Advanced](#)
- [Search&Promote](#)

Target Standard

Target Standard 1.4（2014 年 1 月 20 リリース）には、次の機能、修正および既知の問題が含まれています。

新機能

機能	説明
売上高上昇を予測	<p>Target では、すべてのユーザーが成功エクスペリエンスを表示する場合に到達する売上高上昇を予測できます。</p> <p>この予測は、テスト期間中の成功エクスペリエンスおよび合計訪問者数によって達成される上昇の量を計算し、テスト中と同じようにトレンドが継続したとして、すべての訪問者が成功エクスペリエンスを表示した場合に達成される上昇を表示します。</p> <p>予測の正確さは、現在のトレンドが継続した場合の売上高の見積もりを含む、多くの要因に左右されます。これらの値は、過去の実績に基づいて予測されます。財務上のアドバイスとして使用しないでください。将来の結果は変わる可能性があります。</p>
取り消し／やり直し	編集セッション中に行った変更を取り消しできます。また、取り消した変更をやり直しすることもできます。

機能	説明
エレメントの移動	ページ上のエレメントを移動できます。エレメントの再配置とは異なり、「移動」オプションは、移動されるエレメント用に場所を空けるために別のエレメントを移動させません。移動を細かく調整するには、矢印キーを使用します。
エレメントのサイズ変更	ページ上のエレメントのサイズを変更できます。 サイズ 変更を選択すると、エレメントの隅にハンドルが表示され、その隅をドラッグしてサイズを変更できます。
オーディエンスの設定時の場所のターゲット化	オーディエンスの作成時に、場所（mbox）を選択して、その場所のパラメーターを指定できます。
リンクのプレビュー	リンクのプレビューは、期待どおりに動作します。

修正点

- ・リンクのプレビューが期待通りに動作していなかった問題を修正しました。

既知の問題

このリリースには、次の既知の問題が含まれています。これらの問題は、今後の更新で修正される予定です。

- ・ Visual Experience Composer を使用して再配置されたエレメントで、クリック追跡が動作しません。このバグが修正されるまで、再配置されたエレメントにクリック追跡を設定しないでください。

トップ

Target Advanced

このリリースで強化された機能は次のとおりです。

新機能

機能	説明
----	----

機能	説明
mbox の応答を圧縮可能	<p>2K より大きいコンテンツを含むすべての mbox の応答は、圧縮されます。2K より小さい応答は、圧縮されません。このオプションは、より小さい値に変更できます。</p> <p>サイズ圧縮は、データによって異なります。</p> <p>この圧縮は、すべての一般的なブラウザで発生します。クライアント側の変更は不要です。</p> <p>mbox.js には変更がないので、更新の必要はありません。</p>
プロファイル属性ページにin-mbox プロファイル属性を更新するためのボタンが追加されました。	<p>プロファイル属性は、自動的に更新されるのを待たなくても、ユーザーが更新できるようになりました。</p>
mbox.js が強化されて、変更後にバージョン番号が増加され、デモストア上の mbox.js が更新されるようになりました。	<p>この強化により、Analytics 上の Target との同期が改善されました。</p>

修正点

このリリースには、次の修正が含まれています。

- display:none が設定されていない場合にクライアントのサイトに保存された動的なオファーが適切に表示されなかった問題を修正しました。
- モバイルデバイスデータベースが更新され、Samsung Galaxy S4 を含む新しいデバイスが適切にターゲット化されるようになりました。
- ドメインに複数のピリオドが含まれているとユーザーが作成できない問題を修正しました。
- マルチバイト文字のオファー名が Adobe Analytics に渡されると読み取れなくなる問題を修正しました。
- Target と Insight (Data Workbench) の統合で、セグメント設定が保存されない問題を修正しました。
- 訪問者のホストの変更にサブドメインの変更が含まれる場合に、一部のパラメーターがリセットされる問題を修正しました。

[トップ](#)

Search&Promote

新機能

機能	説明
ストリーミングディレクトリの追加	インドネシア語およびトルコ語で、ストリーミングディレクトリが追加されました。
レポートの書き出し	レポートデータを CSV / XLS に書き出すことができるようになりました。

修正点

- 選択されたファセット条件以外の推奨領域に結果が追加されない問題を修正しました。
- HTTPS のみで検索できるアカウントの結果ベースのルールを保存できない問題を修正しました。
- 「携帯電話でない」のビジネスルールの設定が機能しなかった問題を修正しました。
- 在庫のフィルター検索を実行しても結果が返ってこなかった問題を修正しました。
- 「サイズ」ファセットオーダーが更新されていなかった問題を修正しました。
- クエリクリーニングページに「カスタム」ルール定義のオプションが追加されました。
- 十分なデータが含まれていない場合に用語レポートがエントリをレポートしていた問題を修正しました。
- 単一のビジネスルールを押すとライブがステージングモードで動作しますが、ライブモードに失敗していた問題を修正しました。
- 「以下を含む」または「以下を除外する」リストのオートコンプリート編集が履歴に保存されず、その結果、元に戻せなかった問題を修正しました。

[Adobe Search&Promote ヘルプ](#)も参照してください。

トップ

Media Manager

Media Manager の新機能および修正点です。

- Audience management
- Advertising Management

Advertising Management のヘルプが、製品の[ヘルプ](#) / [ヘルプコンテンツ](#)で利用できるようになりました。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager の新機能および修正点です。

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

[トップ](#)

重要: このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2014 年 2 月 21 日

- [Marketing Cloud および共有機能](#)
- [Adobe Analytics](#)
- [Adobe Social](#)
- [Adobe Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud および共有機能

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能および修正点です。

- [Collaboration および Sharing Interface](#)
- [Dynamic Tag Management](#)
- [Adobe Mobile サービス](#)
- [Data Connectors](#)

Collaboration および Sharing Interface（フィードおよびボード）

2014 年 2 月 21 日リリースで追加された機能を次に示します。

機能	説明
oEmbed	oEmbed によるコンテンツ埋め込みの互換性が向上しました。 Marketing Cloud ヘルプの コンテンツの埋め込み を参照してください。
データを更新	データの更新が許可されていない場合、カードにあるグラフの データを更新 アイコンが非表示になります。
Marketing Cloud への加入	ソリューションアカウント（Analytics、Social および Target）の Adobe ID とのリンクに関する情報については、「 Marketing Cloud への加入 」を参照してください。

2014 年 2 月リリースの修正点:

- 共有された Analytics レポートにセグメントフィルターを適用できない問題を修正しました。
- ソリューションアカウントがリンクされていない場合でも、ソリューションがリンクされているものとして Marketing Cloud ソリューションページに表示される問題を修正しました。
- アジアの Adobe Target のお客様がリンク用ページの「**Marketing Cloud を続行**」ボタンをクリックできなかった問題を修正しました。
- Youtube ビデオの共有ができない問題を修正しました。

詳しくは、「[既知の問題](#)」を参照してください。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud 使用の手引き](#)」を参照してください。

Dynamic Tag Management

注意: Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。最新のリリース情報については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

詳しくは、[Dynamic Tag Management のヘルプ](#)を参照してください。

Adobe Mobile サービス

Adobe Mobile サービスにより、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。2013 年 10 月 25 日からご提供を開始したのは、英語環境のみとなります。詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

2014 年 2 月リリースの修正点:

- まだ Analytics にマッピングされていない Adobe ID を使用してログインすると、アカウントをマッピングするために Marketing Cloud にリダイレクトされるようになりました。
- 合計レポートで、状況によってグラフが表示されない問題を修正しました。
- キャレット (^) 文字を使用することで、「次の語句で始まる」という条件で変数をフィルターできるようになりました。
- 初めて Target の機能を使用する際に発生することがある問題を修正しました。
- モバイル SDK 設定ファイルにおけるデフォルトのプライバシー設定をオプトインに変更しました（ユーザーがオプトアウトするまでデータを送信します）。
- SDK ドキュメントを修正し、選択が不明の場合の設定値が「optunknown」であるということを示すようにしました。

- ヘルプツールチップの動作を変更し、2 回目のクリックで閉じるようにしました。
- iPad での画面遷移レポートの操作を修正しました。
- 設定画面における出力テキスト（rsid など）を選択できるようにしました。
- 不必要な確認メッセージが表示されないようにしました。

トップ

Data Connectors

2014 年 2 月 21 日リリースで追加された機能を次に示します。

機能	説明
有料キーワードおよび自然キーワードの分類データ	お客様は、パートナーに有料キーワードおよび自然キーワードの分類データへのアクセス権を付与できるようになりました。
オプションの変数の分類	パートナーは、オプションの変数を異なる処理ルールグループに分けることができます。これにより、お客様がオプションの変数への変数のマッピングを指定していない場合に、複数の処理ルール間で相互に影響し合うのを防ぎます。
Silverpop : クライアント独自のトラッキングコード	お客様が Data Connectors で Partner Silverpop 統合をアクティブ化すると、Silverpop からクライアント独自のトラッキングコード（タグ）が提供されます。また、そのタグを Adobe Tag Manager にインポートできます。

Web サービス

Reporting と Admin 1.4 Web サービス API が使用できるようになり、次の機能が強化されました：

- OAuth 認証
- パスのサポート（次 / 前のページ、次 / 前ページのフロー、パスファインダー、フォールアウト）
- 強化された権限
- より記述的なメッセージによる信頼性の高いエラーレポート。レポート API に 50 を超える新しいエラーメッセージが追加されました。
- シンプル化されたレポートの定義および API 全体での一貫性の向上を含む、その他の機能強化。
- より簡単に始められるように洗練されたデフォルト設定。

- 多くのメソッドを大幅に改訂し、使いやすさを向上。
- 数百のバグ修正。

API バージョン 1.3 は引き続きサポートされますが、これらの機能強化を活用するために、1.4 API への移行をお勧めします。

API バージョン 1.2 は非推奨となり（セキュリティの修正のみ提供）、2015 年初頭に提供終了予定です。

トップ

Analytics

Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics の新機能](#)
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [Data Workbench（Analytics Premium）](#)
 - [DataWarehouse](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
 - [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)

Analytics の新機能

データフィードを使用するすべてのお客様への重要なお知らせ：今後数か月のうちに、多くのデータフィードフィールドの最大長を増やす予定です。これらの変更により、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

機能	説明
----	----

機能	説明
処理ルールの強化	<p>処理ルールは、次の新機能で強化されました：</p> <ul style="list-style-type: none"> 各レポートスイートの最大ルール数が 50 から 100 に増加されました。また、UI の強化が行われ、多数のルールを表示する際のパフォーマンスが向上しました。 ルールで「Else」の条件をサポートし、条件が適合しない場合に対処できるようになりました。 レポートスイート間でルールをコピーする場合、対象のレポートスイートのすべてのルールを上書きするのではなく、ルールを追加できます。 コンテキストデータでイベント値を設定する場合、空のコンテキストデータ変数でイベントの値が増加されることがなくなりました。
Data Warehouse の時間別レポート	1 時間前のデータを含む時間別レポートを Data Warehouse でスケジュールできるようになりました。
追加の Adobe Social およびモバイルアプリレポート	Adobe Social が持つプロパティレポートおよび（Distimo データコンテナからの）モバイルアプリストア統合レポートが Reports & Analytics および Report Builder で使用できるようになりました。
Analytics Reporting と Admin 1.4 API	Reporting と Admin Web サービス API に新機能が追加されました。詳しくは、「 Web サービス 」を参照してください。
クリックストリームデータフィードで使用可能なブラウザーおよび OS タイプの追加	ブラウザーおよび OS タイプのデータフィード列が拡張され、モバイルブラウザーおよび OS タイプのデータが含まれるようになりました。また、対応する参照ファイルにも、新しいタイプの詳細が追加されます。
ハートビートビデオ指標	ハートビートビデオ指標が更新されて API 構造がシンプルになり、iOS および Android でのビデオプレイヤーのサポートが追加されました。

機能	説明
Marketing Cloud への加入（アカウントのリンク）	<p>Marketing Cloud に加入することで、各ソリューションアカウント（Analytics、Social、Targetなど）を Adobe ID とリンクできます。加入後は、1 回のログイン（<your company>.marketing.adobe.com）ですべての Adobe Digital Marketing 製品およびサービスにアクセスできます。</p> <p>管理者によって Marketing Cloud のグループにユーザーとして追加されると、Reports & Analytics に「<i>Marketing Cloud に加入</i>」ボタンが表示されます。（既に Marketing Cloud への招待メールを受け取り、アカウントをリンク済みである可能性があります。）</p> <p>詳しくは、「Marketing Cloud への加入」を参照してください。</p> <p>管理者は、「管理者向け - 始めに」を参照してください。</p>

Reports & Analytics

2014 年 2 月リリースの修正点:

- ・ 時間別訪問者数のアラートで、アラート条件に適合していない場合でも、間違っアラートを送信していました。現在は、時間別訪問者数のアラートは、正しく動作します。
- ・ マーケティングチャネル概要レポートの権限の問題を修正しました。
- ・ レポートが数値タイプの分類で並べ替えられ、計算指標を表示している場合に検索が動作しなくなる問題を修正しました。
- ・ 分類レポートに直帰率を追加すると、最後の行項目がレポートに 2 回表示される問題を修正しました。
- ・ 異なる UI 表示言語を選択した後でルールを変数すると、分類ルールビルダーで「使用可能な分類はありません」というエラーが表示され、カスタム変数の名前が変更される問題を修正しました。

[トップ](#)

Report Builder

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis

2014 年 2 月リリースの修正点:

- ・ 終了日が未来の、未来に終了するレポート（「今週」や「今月」など）が間違ったファイル名で追加される問題を修正しました。過去の日付（「先週」や「先月」など）は、期待どおりレポートされていました。現在では、未来と過去の両方の日付範囲が正しく追加され、意図したとおりに動作するようになりました。
- ・ 特定のページ用に作成したレポートが同じ名前で大文字と小文字が異なる場合、例えば「Payday-Server-login」を追加した後で「payday-server-Login」を追加するのは、許可されていませんでした。現在では、レポート名は大文字と小文字が区別され、これら両方のレポートを追加できます。
- ・ サイドパネルで日付が明確に特定されたプロジェクトが開けませんでした。この問題は修正されました。

[トップ](#)

Data Workbench

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

Data Warehouse

2014 年 2 月リリースの修正点:

- ・ UI 言語が英語に設定されていると、一部の日本語文字が正しく表示されなかった問題を修正しました。

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

データフィードを使用するすべてのお客様への重要なお知らせ： 今後数か月のうちに、多くのデータフィードフィールドの最大長を増やす予定です。これらの変更により、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

[トップ](#)

- ・ ブラウザーおよび OS タイプのデータフィード列が拡張され、モバイルブラウザおよび OS タイプのデータが含まれるようになりました。また、対応する参照ファイルにも、新しいタ

イプの詳細が追加されます。

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

このリリースでは更新はありません。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

[トップ](#)

Social 3.2

2014 年 2 月リリースの機能および修正点です。

新機能および拡張機能

機能	説明
WordPress のサポート	WordPress が、リスニングプロバイダーとしてサポートされます。WordPressは、世界最大のブログおよびコンテンツ作成プラットフォームで、7,000万以上のブログの作成に使用されています。WordPress ユーザーは、1 日に 180,000 以上の新しい投稿を作成しています。
リスニングルール	すべてのリスニングルールで、「任意（OR）」演算子の使用がサポートされるようになりました。

機能	説明
リスニングデータの保持期間	Social でのリスニングデータの保持期間が 2 カ月から 2 年へ変更されました。2014 年 1 月 17 日以降、ソーシャルリスニングデータが最大 2 年間アーカイブおよび取得できます。
ソーシャルバズレポートの平均センチメントゲージ	ソーシャルバズレポートに新しいウィジェットが追加され、選択したリスニングルールに平均センチメントを表示できるようになりました。
指標セクター	プロパティの概要および投稿一覧のロールアップビューレポートに表示される指標を選択および並び替えできるようになりました。
投稿のユーザビリティの強化	<p>投稿で強化された機能は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各 Social ユーザーが投稿予測機能の有効または無効を切り替えることができます。 スケジュールワークフローが改善され、スケジュールに従ったコンテンツの投稿（デフォルト）、最適な結果を得るために推奨される時間でのコンテンツの投稿、または即時のコンテンツの投稿がより簡単になりました。 各ユーザーは、リンク短縮化設定を指定できます。投稿での自動インラインリンク短縮化の有効と無効を切り換えたり、すべてのインラインリンクでデフォルトの短縮サービスを使用することを選択したりできます。
バックエンドデータの収集処理を改善	バックエンドが強化され、Social でのバックエンドデータ収集処理の速度と信頼性が向上しました。これらの改善は、ソーシャルバズレポートおよびモデレートモジュールに表示されるデータに影響があります。
コンテンツカレンダーの応答時間を改善	バックエンドの機能強化により、コンテンツカレンダーのリスト表示、月単位の表示、週単位の表示の読み込み時間と応答時間が改善されました。

機能	説明
投稿、コンテンツカレンダーおよび通知電子メールメッセージのエラーメッセージの改善	投稿またはコンテンツカレンダーを使用してコンテンツを投稿する際にユーザーが受け取る可能性のあるエラーメッセージを改善しました。新しいエラーメッセージには、内部エラーおよび外部エラー（ソーシャルプラットフォーム）に関する詳細情報、および問題を解決するための情報（該当する場合）が含まれます。
重要なドキュメントの更新	<p>新製品リリースの成功のためのベストプラクティスを詳細に説明する新しいトピックが追加されました。そこでは、月ごとのメンテナンスウィンドウの前、最中、後の投稿の最適な管理方法について説明しています。</p> <p>新しいトピックには、Adobe Social の各リリースでの新機能について詳しく理解するためのリソースが含まれています。リソースには、機能スポットライト、新機能ガイドおよび手軽なハウストレーニングビデオによる新機能のデモが含まれます。</p>

修正点

- ・パフォーマンス、拡張性、操作性および信頼性を向上させるために、500 以上バックエンドの修正および機能強化が行われました。
- ・Chrome ブラウザーで長時間開いたままにしているとソーシャルバズレポートがタイムアウトする問題を修正しました。
- ・ソーシャルバズレポートと表示名カスタムレポートに表示される日別メンション数が一致しない問題を修正しました。
- ・投稿一覧レポートの投稿に対して表示されるエンゲージメント数とその投稿の投稿の詳細レポートで表示されるエンゲージメント数が一致しないことがある問題を修正しました。
- ・リツイートの投稿の詳細レポートのエンゲージメント数の問題を修正し、元のツイート数を反映するようにしました。
- ・投稿一覧レポートに指標の数が表示されないことがある問題を修正しました。
- ・投稿一覧レポートで Facebook のリンククリック数が正しく表示されない問題を修正しました。
- ・投稿一覧レポートのアクション率指標で、エンゲージメントのない Facebook および Google+ ページの表示方法を変更しました。以前のリリースでは、セルは空欄でした。現在は、「--」が表示されます。
- ・プロパティのロールアップレポートの「いいね！」およびフォロワーの合計数に Facebook および Twitter のプロパティが表示されない問題を修正しました。

- プロパティの概要レポートで、LinkedIn および YouTube のプロパティの列見出しが切り詰められて表示されるフォーマットの問題を修正しました。
- プロパティの概要およびプロパティの詳細レポートの指標を表示すると、LinkedIn プロパティで不一致がある問題を修正しました。
- プロパティのロールアップレポートがモバイルデバイスで正しく表示されない問題を修正しました。
- 投稿一覧および投稿の詳細レポートで、LinkedIn 投稿がタグで適切にフィルターされない問題を修正しました。
- 投稿一覧レポートで、Twitter アカウントのプロパティフィルターの動作を変更しました。ドロップダウンリストに、アカウント名でなく Twitter ハンドル名が表示されるようになりました。
- Adobe Analytics キャンペーンが Social に表示される問題を修正しました。Analytics キャンペーンは、Social で表示されるべきではありません。
- 夏時間を開始すると Social で Facebook インサイトを収集できない問題を修正しました。
- 夏時間の問題が原因で Facebook プロパティ用にエクスポートした投稿日が 1 日ずれる（実際の日付の前日になる）問題を修正しました。
- LinkedIn および Twitter の投稿の順番が、エクスポートした投稿一覧レポートで日付で異なって並び替えられる問題を修正しました。
- Facebook 投稿の作成時に、ユーザーが 9 つ以上の州を対象にできない問題を修正しました。
- 高さの要件を満たしていない Facebook のカバーページ画像をユーザーがアップロードできてしまい、そのために投稿が失敗する問題を修正しました。
- Facebook 写真アルバムが複数回投稿されることがある問題を修正しました。
- ユーザーが投稿の画像アップロード機能を使用して、サポートされていないファイル形式である .pdf ファイルをアップロードできてしまうことが原因で、投稿が失敗する問題を修正しました。
- プレビュー時および投稿後に、LinkedIn 投稿が正しく表示されない問題を修正しました。
- ユーザーが 140 文字を超えるツイートをスケジュールできる問題を修正しました。これらのツイートは、スケジュールされた時間に失敗していました。
- Social での投稿の作成時と Twitter 上でレポートされるツイート内の URL の文字数が一致しない問題を修正しました。
- 「未定義のメソッド 'parse_v3_params'」というメッセージが表示されて投稿が失敗することがある問題を修正しました。
- ユーザーがコンテンツカレンダーの投稿からタグを削除できない問題を修正しました。

- コンテンツカレンダーで投稿を編集する際に、リンクのサムネールとタイトルが表示されない問題を修正しました。
- コンテンツカレンダーの週単位の表示で個々の投稿をクリックして読み込むのにかかる時間が予想以上に長くなる問題を修正しました。
- コンテンツカレンダーの月単位の表示および週単位の表示で、読み込みに予想以上に時間がかかる問題を修正しました。
- 複数レベルの承認ワークフローの投稿が完了するまでに予想以上に時間がかかる問題を修正しました。
- コンテンツカレンダーユーザーインターフェイスのフォーマットの問題を修正しました。
- 投稿およびコンテンツカレンダーで表示される LinkedIn の会社およびグループのロゴの問題を修正しました。
- Facebook ページの所有者による投稿がモデレートでスパムとしてマークされる問題を修正しました。
- ユーザーがコンテストアプリケーションでエントリに投稿した後、共有ストーリーポップアップが表示されない問題を修正しました。
- タイムゾーンフィルターで指定したタイムゾーンの名前に「米国およびカナダ」が含まれている場合に、リスニングルールでデータが収集されない問題を修正しました。
- 非アクティブなリスニングルールのプレビュー機能が正しく機能しない問題を修正しました。
- リスニングルールビルダーの Twitter プレビュー機能の動作を変更し、ユーザーが（例えば「アクティブ」タブから「バルクアップロード」タブに）タブを切り替えたら、非表示にして更新するようにしました。
- リスニングルールで、エンタープライズプロバイダーが一致する語句で収集できない問題を修正しました。
- リスニングルールのバルクアップロードを実行すると、アップロードエラーになる（行数が 1 行ずれる）問題を修正しました。
- 承認ワークフローユーザーインターフェイスのフォーマットの問題を修正しました。
- プロパティ（例えば、設定 / Facebook ページ）の設定時に、所有者ドロップダウンリストで名前が切り詰められて表示される問題を修正しました。
- 以前 Social から削除されたユーザーが、現在のユーザーをエクスポートしたレポート（設定 / ユーザーとグループ / 「ユーザー」タブ / エクスポート）に表示される問題を修正しました。
- Google+ ページの所有者を変更するための適切な権限を持たないユーザーがページの所有者を変更しようとするエラーになる問題を修正しました。ユーザーが適切な権限を持っていない場合、ユーザーインターフェイスで所有者を変更できないようになりました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Advanced 3.9

このリリースで強化された機能は次のとおりです。

強化された機能	説明
rawbox のリクエストでの Cross Origin Resource Sharing (CORS) のサポートを追加	CORS フィルターは rawbox 呼び出しでのみ有効です。
キャンペーン作成 API でのキャンペーンレベルのインプレッションの制限を許可	ユーザーが指定回数キャンペーンを表示した場合にキャンペーンを除外する機能を追加しました。
Internet Explorer 11 のターゲットをサポート	Internet Explorer 11 でブラウザーのターゲット化が正しく機能するようになりました。

修正点

このリリースには、次の修正が含まれています。

- ・同じ上昇率の計算が *訪問者* と *訪問* で表示される不具合を修正しました。 *訪問者* 数が正しく、 *訪問* 数は間違っていました。 *訪問* が表示されていました。
- ・ mbox の使用状況レポートに非アクティブ化された mbox が表示されるエラーを修正しました。
- ・ ログイン電子メールアドレスが変更できないエラーを修正しました。
- ・ 場所 / 管理ページで、ログイン mbox 名が重なって表示されるユーザーインターフェイスの不具合を修正しました。
- ・ デフォルトのフォーマットに合致しない pclid が拒否される問題を解決しました。現在は、これらの pclid は許可されます。
- ・ AJAX mbox 内に配信されると、オファー内のダブルバイト文字が正しく表示されませんでした。

Target Standard 1.5

次の Target Standard の機能は、2014 年 2 月 25 日にリリースされます。

機能	説明
----	----

機能	説明
プレビュー、シミュレーション、およびテスト検証：アクティビティの競合	<p>Target Standard では、アクティビティの競合のリストが提供されるようになりました。アクティビティの競合は、複数のアクティビティで同じページにコンテンツを配信するように設定されると発生します。アクティビティの競合が発生した場合、異なるアクティビティを入力したことが原因で、期待したコンテンツがページに表示されないことがあります。</p> <p>アクティビティに競合が含まれる場合、アクティビティの概要ページに「競合」タブが表示されます。このタブを開くと、競合しているアクティビティのリストが表示されます。リストのアクティビティをクリックして、そのアクティビティの概要ページを表示します。</p>
新しいターゲットオプション：プロフィール、ユーザー	プロフィールおよびユーザーのパラメーターをターゲットにできるようになりました。
要素の追加 / 挿入	エクスペリエンスエディターで既存のエクスペリエンスに要素を追加できます。

[トップ](#)

Media Manager

Media Manager の新機能および修正点です。

Audience Management DIL 4.8

2014 年 2 月 7 日更新

- DIL 4.8 がリリースされ、AppMeasurement for JavaScript ライブラリの互換性の問題が修正されました。また、Analytics のお客様は、AppMeasurement for JavaScript のバージョン 1.2.2 に更新する必要があります（この変更は、お客様の H コードには影響しません）。
- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager の新機能および修正点です。

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

[トップ](#)

重要: このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

更新日: **2014 年 3 月 14 日**

- [Marketing Cloud および共有機能](#)
- [Adobe Analytics](#)
- [Adobe Social](#)
- [Adobe Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud および共有機能

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能および修正点です。

- [Collaboration および Sharing Interface](#)
- [Adobe Mobile サービス](#)
- [Data Connectors](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Collaboration および Sharing Interface（フィードおよびボード）

バージョン 14.3.1 は、速度、安定性およびセキュリティに重点を置いたメンテナンスリリースです。主な新機能は含まれていません。

修正点

- アバター画像を削除する機能を追加しました。
- Adobe Media Manager アカウントのリンクを解除できない問題を修正しました。

既知の問題

- Marketing Cloud のアセットでの画像の削除で、その画像が Adobe Target Essentials で使用されていても警告が表示されません。
- Analytics からカードを更新すると、展開されたカードでグラフが空になることがあります。
- すべての権限および権限付与の変更を有効にするには、ユーザーはログアウトしてからログインし直す必要があります。

- ログイン時に「このアカウントを記憶する」が選択されていない場合、ユーザーは 15 分後にログアウトされます。
- Analytics ソリューションランディングページでフォーマットエラーが表示されます。
- アセットカード表示のコメントリンクをクリックできません。
- 多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが遅くなる可能性があります。
- Adobe Target ログインが複数の Target サーバーで使える場合、Marketing Cloud は Adobe Target にリンクできません。
- Marketing Cloud へのログインに、1 秒以上かかります。
- アセットにカスタムタグを追加した後、その他のメタデータの変更が保持されません。
- Marketing Cloud でユーザーが作成された場合、Adobe Media Manager でユーザーが自動的に作成されません。
- 新しいユーザーを追加するためのコンボボックスのオプションが、入力中、一時的に消えます。
- Media Manager から共有したデータが、Marketing Cloud で誤って表示されます。
- Flickr 画像の共有に失敗します。
- Analytics からトレンドレポートに適用したフィルターは、Marketing Cloud のカードに適用されません。
- ユーザー管理で行ったグループおよび権限付与の変更は、新しくログインした後でのみ有効になります。
- Search&Promote リンクが「組織と製品へのアクセス」から利用できません。
- 削除したカードを表示から消すために、ユーザーがボードを更新する必要があります。
- 一部の Excel または CSV ファイルは、ボードにアップロードできません。
- Adobe Media Manager シミュレーションカードが、正しくレンダリングされません。
- 一部の PNG ファイルは、カードにレンダリングできません。
- ベータフィードバックが送信できません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud 使用の手引き](#)」を参照してください。

Adobe Mobile サービス

Adobe Mobile サービスにより、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。2013 年 10 月 25 日からご提供を開始したのは、

英語環境のみとなります。詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

2014 年 3 月 14 日リリースの修正点:

- Target Standard ユーザーのサポートが追加されました。
- Target で、開始日と終了日のタイムゾーンが変更される問題を修正しました。
- 「最近 30 日間」を今日より前の 30 日間に変更しました（以前は、この設定には今日も含まれていました）。
- レポートでのフィルタリングのパフォーマンスを向上しました。
- 重なっていた UI 要素のレイアウトを改善しました。
- パスレポートの表示の問題を修正しました。
- 折れ線グラフおよび棒グラフで発生するスクロールの問題を修正しました。
- Target アクティビティ画面に戻る前の Target オーディエンスの検証を追加しました。
- グラフ内で小さい値を表示する方法を改善しました。
- フィルタリングされたレポートの見出しとして、変数名でなく、「未定義」が間違って表示されていた問題を修正しました。
- 折れ線グラフで、時間単位の精度が選択され、不完全なデータが存在する場合に発生する表示の問題を修正しました。
- グラフをカスタマイズしていると、画面遷移メニュー項目が選択されていない状態になる問題を修正しました。

[トップ](#)

Data Connectors

このリリースでは更新はありません。

Dynamic Tag Management

Dynamic Tag Management の機能および修正点:

2014 年 3 月 12 日

- アップロードの完了後にテストファイル（ftp_test.txt）が FTP/SFTP サーバーに残っていた問題を修正しました。このファイルは、ユーザーの資格情報の検証機能をテストするためにのみ使用され、実際に DTM で必要なものではないので、現在は、アップロードが完了すると削除されます。
- FTP/SFTP のカスタムポートが保存されない問題を修正しました。

2014 年 3 月 7 日

機能	説明
SFTP のサポートを追加しました。	DTM で、セキュア FTP（SFTP）を使用したクライアントのサーバーへの発行されたファイルの転送をサポートするようになりました。
階層区切り文字のサポートを追加しました。	現在は、Adobe Analytics にデータを送信するルールで階層が使用されている場合、区切り文字を指定できるようになりました。（以前は、すべての階層はコンマ区切りで、その他の区切り文字はカスタムコードを使用する必要がありました。）

修正点:

- 古い IE ブラウザーでの SVG 画像の問題を修正しました。古い IE ブラウザー（IE バージョン 9 より前）で SVG 画像をクリックするとエラーになり、ブラウザーがクラッシュすることもありました。
- 直接呼び出しルールでのカスタムリンクの問題を修正しました。直接呼び出しルールでカスタムリンクを使用すると、ブラウザーで JavaScript エラーが発生していました。
- ルール条件がデータ要素の間違った名前を参照する問題を修正しました。ユーザーがデータ要素の名前を変更して、そのデータ要素がルール条件で参照されている場合、そのルールは、データ要素に対して最も新しく指定された名前を使用しようとしていました。この問題は、名前の変更がまだ発行されていなくても発生していました。
- HREF 属性のない要素をクリックされるとエラーが発生する問題を修正しました。この問題は、ページ上のクリックされたすべての要素を自動的に追跡しようとする、DTM エンジンの「リンカーリンク」機能に関するものです。HREF のない要素で、エラーが発生していました。現在は、「リンカーリンク」コードは、クリックを追跡する前に、要素がアンカータグであることをチェックします。

Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。これまでのリリースノートについては、[「Dynamic Tag Management の新機能」](#)を参照してください。

Analytics

Analytics の新機能および修正点です。

米 Yahoo.com による検索キーワード提供終了への対応

Yahoo.com では、最近、自然検索経由でサイト流入時のリファラー URL 内に格納されている検索キーワードを含めないよう仕様変更が実施されました。この変更の結果、Yahoo.com からの検索の一部は識別されず、レポートされる Yahoo .com からの検索の数が減少しました。

Adobe Analytics は、2014 年 3 月 21 日に Yahoo からの検索を正しく識別するように変更されます。この日以降、Yahoo からの検索数が元のレベルに戻り、Yahoo によるキーワードの削除の結果としてトラフィックソースレポートでの「使用できないキーワード」のインスタンスが増加することが確認できるようになります。詳しくは、「[トラフィックソースレポートで使用できないキーワード](#)」を参照してください。

Adobe Analytics Web ユーザーインターフェイスでの Internet Explorer 8 のサポート

2014 年 4 月 18 日以降、Internet Explorer 8 は、Adobe Analytics Web ユーザーインターフェイスのユーザーに対するサポート対象の Web ブラウザーではなくなります。これにより、アドビは、古いブラウザ（IE 8 およびそれ以前のバージョンなど）で利用できない、最新の Web テクノロジーを活用した新しい機能を追加し続けることができます。この変更は、Adobe Analytics 内の IE 8 Web ユーザーの測定には影響しません。また、この変更は、Firefox、Chrome、IE 9 以降、およびその他の最新ブラウザには影響しません。アドビでは、これらのブラウザのいずれかを Adobe Analytics で使用することを推奨します。

データフィード列の拡張

アドビでは、現在、多くのデータフィードフィールドのサイズの最大長を増やしています。フィールドサイズを増やすことにより、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。以前、2014 年 4 月に予定されていた列の拡張は延期されました。この拡張が再スケジュールされたら、リリースノートでお知らせいたします。

- [Reports & Analytics](#)
- [Report Builder](#)
- [Ad Hoc Analysis](#)
- [Data Workbench（Analytics Premium）](#)
- [DataWarehouse](#)
- [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)

Reports & Analytics

修正点

2014 年 3 月 14 日リリースの修正点:

- ・ コマース指標の標準化をオンにした場合、指定された指標ではなく、訪問回数に基づいて標準化（正規化）が行なわれていました。標準化の要素は、現在では、すべてのコマースイベントに対して、訪問回数要素を使用する代わりに、指標ごとに計算されます。
- ・ 直帰率などのグローバルな計算指標は、レポートスイートの合計数レポートレットで使用できませんでした。現在は、企業サマリー、レポートスイートサマリー、および指標ゲージの各レポートレットタイプで使用できます。
- ・ 発行ウィジェットは、Reports & Analytics のカレンダーを間違えて処理していました。デプロイされた発行ウィジェットに正しいタイムゾーンが適用されるように修正されました。
- ・ 名前のないブックマークおよびダッシュボードレポートレットを編集できませんでした。現在では、システムが名前のないレポートにデフォルトの名前「Unnamed Report」を割り当てます。この名前は編集できます。
- ・ 韓国語および簡体字中国語で 2 桁表記の年を使用すると発生した日付の形式の問題は、他のロケールのように 4 桁表記の年を使用することで修正しました。
- ・ ダッシュボードレポートレットで、レポート範囲に 30 日間しか表示されませんでした。現在では、ひと月の 31 日間がすべて表示されます。
- ・ クロス集計フィルターウィンドウに文字化けした日本語の文字が表示されていたのを修正しました。
- ・ フルレポートとは異なり、コンバージョンファネルレポートで、ダッシュボードにコンバージョンが表示されませんでした。これは修正され、すべてのファネルレポートレットでサマリデータのオンとオフを切り替えられるようになりました（**レイアウト**／レンチアイコン）。
- ・ リアルタイムレポートで通貨イベントの値が小数点を表示できるようになりました。
- ・ 地域 / 米国の州レポートに米国の州以外が表示される問題を修正しました。
- ・ トランザクション ID データソースのアップロードが原因で訪問者数が増加する問題を修正しました。トランザクション ID のアップロードで、訪問者数を増加しなくなりました。
- ・ 次のページおよび前のページレポートで、レポートの最後のページの後に追加のレポートページが表示される問題を修正しました。
- ・ 現在のデータが、モバイル SDK で収集された一部のライフサイクル指標に返されていなかった問題を修正しました。
- ・ ブラウザーの幅でページ名を分類できない問題を修正しました。

トップ

Report Builder

このリリースでは修正はありません。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis メンテナンスリリース

2014 年 3 月 14 日リリースの修正点:

- Ad Hoc Analysis のレポートで、レポートの行の約 1 % に空白のセルを表示していましたが、MS Excel にエクスポートした場合、この空白のセルが「n/a」として表示されるか、無限大の記号が表示されていました。この空白セルの値は、実際の数字でないと判断されていました。この問題は修正され、現在は、Ad Hoc Analysis は、非数値を「N/A」としてレポートします。これは、Reports & Analytics から生成されたレポートと同じです。
- 「なし」の行項目が分類されていても正しく表示されない問題を修正しました。分類された「なし」の行項目は、現在は、Reports & Analytics から生成されたレポートと同じように表示されます。

Data Workbench

3 月のリリースでは修正はありません。

[トップ](#)

Data Warehouse

2014 年 3 月 14 日リリースの修正点:

- ステータスに「完了」と表示されても、レポートが送信されていないことがある問題を修正しました。
- 評価基準が原因で Data Warehouse と Ad Hoc Analysis の間で一貫したデータを返さなかった問題を修正しました。
- 「次のいずれかを 含む」または「次のすべてを 含む」を使用するセグメントルールが正しく処理されない問題を修正しました。
- 検索キーワードで、「::empty::」が「キーワードを使用できません」の代わりに表示される問題を修正しました。
- Ad Hoc Analysis と Data Warehouse の間のリクエストでデータに相違がある問題を修正しました。この問題は、パーティシペーション売上レポートおよび顧客忠誠度レポートで発生していました。

注意: バージョン 14 からの Data Warehouse アクセスは、今後のリリースで削除されます。 [詳細情報](#)

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

データフィードを使用するすべてのお客様への重要なお知らせ： 今後数か月のうちに、多くのデータフィードフィールドの最大長を増やす予定です。これらの変更により、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

1.2.4

- ビデオのハートビートに関する問題を修正しました。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

[トップ](#)

Social 3.2.1

Social 3.2.1 リリースの機能および修正点です。

新機能**および**拡張機能

機能	説明
----	----

機能	説明
モデレート概要ダッシュボード	<p>モデレート概要ダッシュボードでは、組織のモデレートの取り組みを完全に把握できます。チームの個々のメンバーのモデレート統計を表示でき、上がってきた問題をチームが解決するのにかかった時間を確認したり、問題が上がってくるのが1日の内のどの時間かを特定したり、解決した問題と未解決の問題の件数を比較したりといったことができます。</p>
統合モデレート	<p>強化されたマルチプラットフォームモデレート機能を使用すると、Facebook や Twitter、LinkedIn から入ってくるコンテンツ、および Adobe Experience Manager によるオンサイトのソーシャルコミュニティから入ってくるコンテンツをモデレートできます。統合モデレート機能を使用すると、1つのダッシュボードで左右に並べて表示して、カスタマイズされたモデレートフィードを作成できます。自動削除ルールを使用すると、設定されたキーワードに基づいて、所有する Facebook ページに投稿された不適切なコンテンツを自動的に削除できます。</p> <hr/> <p>注意： 従来の Twitter モデレートツールは、廃止されました。統合モデレートツールを使用して Twitter コンテンツをモデレートしてください。従来の Facebook モデレートツールは廃止予定ですが、まだ左側のナビゲーションメニューからアクセスできます。統合モデレートの Facebook モデレートの新しいワークフローに慣れたら、Social アカウントマネージャーにご連絡いただき、従来の Facebook モデレートツールを構成から削除してください。両方のモデレートツールを同時に使用しないでください。アカウント管理者がモデレートツール移行ガイドを参考にしてどちらのツールを使用するかを決定する必要があります。その他の質問がある場合は、Social のアカウントマネージャーにお問い合わせください。</p> <hr/>

機能	説明
ソーシャルバズレポートの機能強化	<p>ソーシャルバズレポートには、次の機能強化が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センチメントの調整：ソーシャルバズレポートからの投稿のセンチメントを手動で上書きします。センチメントの調整により、特定のレポートスイートのセンチメントアルゴリズムをフィードし、時間と共に特定のクライアントのニーズに対してアルゴリズムを洗練させ、より正確なものにします。 ・ 作成者ウィジェット：ソーシャルバズレポートの作成者ウィジェットには、上位の作成者のリストが含まれています。このウィジェットは、現在設定されているフィルターに従います。この機能により、リスニングルールでキャプチャされたコンテンツにどの作成者が最も多くメンションしているかを確認できます。 ・ 投稿の詳細：投稿を展開して、各投稿の詳細とメタデータを表示します。 ・ 新しいフィルター：感情、Klout スコア、および国によって Social Buzz レポートをフィルタリングできます。
ソーシャルユーザープロフィール	<p>Social でモデレート履歴および各プロフィールの内部メモを使用して、関わりのある人の複数のソーシャルネットワーク表示を取得します。</p>
ルールビルダーの機能強化	<p>ルールビルダーが機能強化され、リスニングルールをより直感的に作成できるようになりました。「プラットフォーム」セクションが「収集日」セクションの上に表示されるようになり、ワークフローがより効率的になりました。さらに、「基本」タブ（以前の名前は「詳細」）がデフォルトになり、これによって、Boolean ロジックを使用してリスニングルールを作成できます。</p>
すばやい選択のためのソーシャルプロパティセクター	<p>投稿のソーシャルプロパティ選択ウィジェットに、過去 30 日間で最も頻繁に投稿したプロパティが表示されます。この機能により、ユーザーにとって最も重要なプロパティに対するコンテンツをすばやく見つけて投稿できます。</p>

機能	説明
URL に対する短縮 URL 機能	自動短縮化がオフの場合、短縮 URL 機能により、投稿者は、投稿およびコンテンツカレンダーから簡単にリンクを短縮できます。短縮 URL 機能は、投稿内のすべてのリンクの URL の短縮化を手動でトリガーし、デフォルトでは、最後に使用した短縮サービスが選択されます。ユーザーは、最後に使用した短縮サービスに優先して使用するサービスを指定できます。
Adobe Labs: ソーシャルバズの感情ウィジェット	新しい感情ウィジェットを試すことができます。ソーシャルバズレポートの感情ホイールには、各感情カテゴリで取得された投稿の割合を表示するホイールグラフが含まれます。
所有するソーシャルのインサイト	一部の会社で、LinkedIn および Google+ の所有するソーシャルのインサイトが利用できます。詳細については、担当のアカウントマネージャーにお問い合わせください。

修正点

上記に説明した新機能および機能強化に加えて、Social 3.2.1 には、パフォーマンス、拡張性、操作性および信頼性を向上させることに重点を置いた機能強化および修正点があります。これに関するバックエンドの修正および機能強化は、260 以上に及びます。次に、お客様から報告された、より重要な問題を解決する修正点を示します。

- ・マーケティング概要ダッシュボードの「投稿一覧」セクションの表示の問題を修正しました。現在は、列見出しのラベルが正しく表示されるようになっています。
- ・キャンペーンウィジェットがマーケティング概要ダッシュボードに読み込めない問題を修正しました。
- ・ダウンロードした投稿一覧レポートで「投稿者」列が表示されない問題を修正しました。
- ・投稿一覧レポートと投稿の詳細レポートの間に、投稿に含まれるリンクに不一致がある問題を修正しました。
- ・投稿一覧レポートと投稿の詳細レポートの間に、リーチ指標の表示が異なる問題を修正しました。
- ・一部のツイートのデータが投稿一覧レポートのエクスポートファイルに含まれない問題を修正しました。
- ・Google+ ページの「リーチ」を「フォロワー」に変更しました（投稿一覧レポート、投稿の詳細レポート、およびそれぞれのエクスポートファイル）。
- ・投稿一覧レポートの「リンククリック数」および「リンククリック数（個別）」の値が一致しない問題を修正しました。

- ・ 投稿一覧レポートおよびそのエクスポートファイルで、ツイートが重複して表示される問題を修正しました。
- ・ 現在は、投稿一覧レポートの各投稿の最初の行には、コンテンツが投稿されたプロパティの名前が含まれています。
- ・ 投稿一覧レポートの上部に、フィルターされたプロパティの名前が表示されない問題を修正しました。現在は、個別のプロパティの名前が正しく表示され、適切なプラットフォームのアイコン（Twitter、Facebook、その他）が各プロパティ名の隣に表示されます。
- ・ 投稿一覧ロールアップレポートの LinkedIn プロパティに空白の行が表示される問題を修正しました。
- ・ 投稿の詳細レポートで LinkedIn 投稿の合計エンゲージメント数が表示されない問題を修正しました。
- ・ 投稿一覧ロールアップレポートと投稿の詳細レポートの間でエンゲージメント数が一致しない問題を修正しました。
- ・ 選択した日付範囲で、YouTube および LinkedIn プラットフォームへの投稿がなかった場合の、YouTube および LinkedIn プロパティに関するプロパティの詳細レポートの表示の問題を修正しました。現在は、上位の投稿ウィジェットが右側に表示され、そこから新しい投稿を作成できます。
- ・ 選択した日付範囲で、Twitter アカウトに投稿がなかった場合にそのアカウントのプロパティの詳細ページでエラーが発生する問題を修正しました。
- ・ 投稿の詳細レポートで、同じブラウザーセッション中にユーザーが会社を変更すると、異なる会社からの投稿が表示されることがある問題を修正しました。
- ・ 一貫性を維持できるように、Analytics および投稿モジュールでフィルター項目が記録されます。
- ・ 選択した指標の名前と一致するように、競合者の分析レポートのグラフのラベルを変更しました。例えば、「アクションを投稿」は「*投稿のエンゲージメント(公開)*」と表示され、同じように指標セクターにも表示されます。
- ・ ユーザーが新しい競合者を追加できない（設定 / 競合者のページ）問題を修正しました。現在は、有効なプロパティの情報を入力した後、「保存」ボタンが有効になります。
- ・ Facebook のアルバムの写真が Social のプレビューで表示される順番とは異なる問題を修正しました。
- ・ ユーザーが URL を使用して画像をアップロードしようとするエラーが発生することがある問題を修正しました。
- ・ YouTube ビデオへのリンクを投稿すると Social のプレビューと Google+ の実際の投稿が異なる問題を修正しました。

- 「未定義のメソッド 'parse_v3_params'」というメッセージが表示されて投稿が失敗することがある問題を修正しました。
- LinkedIn を含む複数のプラットフォームに投稿したコンテンツのマスター投稿で、「削除」オプションが間違って表示される問題を修正しました。
- キャンペーンの詳細レポートで、リンクを含むツイートが分類されず、正しく表示されない問題を修正しました。
- 投稿で、ユーザーがドラフトからテンプレートを作成するとメッセージが繰り返し表示される問題を修正しました。新しいメッセージは、実行するアクションをより正確に説明しています。
- 左側のナビゲーションの設定の下に Google+ ページメニュー項目が表示されない問題を修正しました。
- 一部のリスニングルール変数が切り詰められて表示され、正しく機能しなかった問題を修正しました。
- Twitter アカウントページ（設定 / Twitter アカウント）から Twitter アカウントに対するフォロワー数が削除されました。所有する各 Twitter アカウントに対するフォロワー数はプロパティページ（設定 / プロパティ）で表示できます。
- ユーザーが Facebook アカウントにリンクされている唯一の管理者である場合、Social からそのアカウントを削除できなかった問題を修正しました。
- レポートスイートに名前がない場合に設定 / Facebook ページにアクセスするとエラーが発生する問題を修正しました。
- Google+ ページの管理者から役割を削除した場合の、そのページの所有権の機能の仕方を変更しました。現在は、管理者はページ所有者として表示され、管理者であるユーザーは誰でもそのページの設定を変更できます。
- Analytics 管理ツールの権限 / 所有権セクションで「所有者」または「すべて」を選択する場合のユーザーの問題を修正しました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Advanced 3.9.1

2014 年 3 月 14 日リリースの新情報:

強化された機能	説明
---------	----

強化された機能	説明
mbox.js の改善	mbox.js で、Target Standard 用のカスタムのグローバル mbox 名の使用をサポートするようになりました。

修正点

このリリースには、次の修正が含まれています。

- 一部の製品ページで mbox.js が失敗する問題を修正しました。

Target Standard 1.6

2014 年 3 月 14 日リリースの新情報:

機能	説明
ローカライズバージョンを使用可能	Target Standard は、フランス語、ドイツ語、日本語およびスペイン語にローカライズされています。
シンプル化された実装	Target Standard は、より簡単に実装できるように改善されました。

修正点

このリリースには、次のバグ修正が含まれています。

- 「アイテムを削除」および「HTML を編集」が機能しないことがある問題を修正しました。

既知の問題

このリリースには、次の既知の問題が含まれています。この問題は、今後の更新で修正される予定です。

- 結果はゴールにのみ基づいて処理され、選択した指標に基づいた変更が行われません。
- Visual Experience Composer を使用して再配置されたエレメントで、クリック追跡が動作しません。このバグが修正されるまで、再配置されたエレメントにクリック追跡を設定しないでください。
- Target Advanced でジオロケーションが無効な場合に Target Standard で地理オーディエンスが作成されると、同期エラーが発生します。
- 画像が CSS で参照されている場合、その画像を置き換えることができません。

[トップ](#)

Media Manager

Media Manager の新機能および修正点です。

Audience Management DIL 4.8

2014 年 2 月 7 日更新

- DIL 4.8 がリリースされ、AppMeasurement for JavaScript ライブラリの互換性の問題が修正されました。また、Analytics のお客様は、AppMeasurement for JavaScript のバージョン 1.2.2 に更新する必要があります（この変更は、お客様の H コードには影響しません）。
- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

[トップ](#)

Experience Manager

最新リリースの情報については、次を参照してください。

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

[トップ](#)

重要: このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

更新日: 2014 年 4 月 18 日

- [Marketing Cloud および共有機能](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud および共有機能

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能および修正点です。

- [Collaboration と Sharing Interface](#)
- [Mobile Services 2.0](#)
- [Data Connectors](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Collaboration と Sharing Interface (フィードとボード)

機能

機能	説明
----	----

機能	説明
ヘルプトピックからカードを作成	<p>Adobe Marketing Cloud に共有機能を有効にした後、ブラウザーのブックマークツールバーで、マイクロサイト URL からヘルプページを共有できるようになりました。</p> <p>ヘルプトピックを共有するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Cloud で、「ツール」をクリックします。 2. 「Adobe Marketing Cloud で共有」ボタンをブックマークツールバーにドラッグします。 3. ヘルプページに移動して（またはこのページにとどまったまま）、ブラウザーのブックマークツールバーに配置された「Adobe Marketing Cloud で共有」をクリックします。 <p>この手順により、Marketing Cloud で確認できるカードが作成されます。</p>

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud 使用の手引き](#)」を参照してください。

Adobe Mobile Services 2.0

Adobe Mobile Services により、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

Mobile Services 2.0 の機能

機能	説明
アプリ獲得分析	<p>Mobile Services / 設定 / ダウンロード計測用リンク / 新規作成</p> <p>ユーザーが Apple App Store や Google Play からアプリを直接ダウンロードできるアプリストアリンクを作成できます。作成したリンクは、ダウンロードの成功イベントを設定できます。</p> <p>Reports & Analytics では、管理ツール / レポートスイート / モバイル管理 / モバイルアプリケーションレポート で App Reports 3.0 に更新すると、モバイル獲得追跡用にダウンロードリンクに自動付与されたトラッキングコードが通常のトラッキングコードレポートに表示されるようになります。</p>

機能	説明
アクションベースのパスレポート	アプリ内のアクションも計測している場合は、画面遷移に加えてアクション名を単位としたパスレポートを実行できるようになります。
サンバーストによるオーディエンスの視覚化	Mobile Services / デバイス / デバイスタイプ サンバーストチャートと呼ばれる新しいタイプの視覚化により、ターゲティングすべきオーディエンスセグメントを見つけやすくなりました。この視覚化では、デバイスタイプの分類が円の角度で表され、選択した指標や、指標間のパフォーマンスの違いが高さで示されます。
Marketing Cloud への共有	Mobile 2.0 で、Marketing Cloud カードへのレポートの共有がサポートされました。 「 Analytics レポートの Marketing Cloud への共有 」を参照してください。
ライフタイム値レポート	アプリ内の主要なアクティビティを選択し、値を割り当てて、時間と共に合計値を累計します。ユーザーのライフタイム値に基づいた測定やターゲティングが可能になります。
改善された初期設定	Mobile Services / カスタムデータコンテンツ 管理ツールインターフェイスにアクセスせずに、prop、eVar、event をコンテキストデータ変数にマッピングできるようになりました。 カスタムデータコンテンツページで、これらの基本的なマッピングを設定できます。ここで設定したマッピングは、 処理ルール での設定と連動します。
モバイルアプリ用の Mobile Services SDK	<ul style="list-style-type: none"> • アプリ獲得分析 • ヒットのバッチ処理 • iOS 用の iBeacon のサポート • ライフタイム値

詳しくは、[Mobile の新機能](#)を参照してください。

修正点

- ・ カスタムデータコンテンツページで管理権限が認識されなかった問題を修正しました。
- ・ 定着フィルターで「市区町村」を適用するとデータが返されなかった問題を修正しました。
- ・ トレンドレポートの割合の動作を改善しました。以前は、割合は、列の合計（全時間範囲の値の合計）に基づいていました。現在は、行の時間枠の指標の合計に基づいています。

トップ

Data Connectors

2014 年 4 月 18 日の更新での新機能は次のとおりです。

機能	説明
アップグレードされた JavaScript プラグイン	Data Connectors 統合（DoubleClick for Advertisers、Sizmek、Adform、Atlas、Pointroll および Facebook）で生成された JavaScript プラグインがアップグレードされました。Adobe Analytics の新しい JavaScript ライブラリ、AppMeasurement.js と互換性があります。

トップ

Dynamic Tag Management

Dynamic Tag Management の機能および修正点：

2014 年 4 月 9 日

- ・ 外観を向上させるために、パスワードを忘れた場合のページのスタイルを修正しました。
- ・ 承認および発行されたルールを条件をステージング用ライブラリから削除すると、本番用ライブラリから削除されていた問題を修正しました。
- ・ 表示されているルールが 3 つ未満の場合に、ルールリストページのアクションメニューの下が切れていた問題を修正しました。
- ・ データ要素ページの**データ要素**を作成ボタンの配置を修正しました。
- ・ スケジュールページの新しい**スケジュール**を作成ボタンの配置を修正しました。
- ・ 一部のみの発行ページで、長いルール名が切れていた問題を修正しました。
- ・ Adobe Analytics 変数値を削除すると、UI が壊れることがあり、修正のためにページを更新する必要があった問題を修正しました。

2014 年 4 月 4 日

機能	説明
Google Universal Analytics のサポート	Google Universal Analytics をツールとして追加できるようになりました。
Google Analytics から Google Universal Analytics へのアップグレード	既存のすべての GA 用タグを Google Universal Analytics に自動変換するために、Airlock JS ライブラリが統合されました。

修正点

- Adobe Analytics ツール設定で、「既存の**ページコードがある**」ボックスが有効になっている場合に、特定のシナリオでクリックが追跡されない問題を修正しました。
- ステージングへの配信のパフォーマンスを改善
- しました。 *linkTrackVars* と *linkTrackEvents* が、既存の値（例えば *s_code* 内のそれらのセット）に追加されるのではなく、ルールによって上書きされていた問題を修正しました。
- データ要素を編集する場合に、データ要素名での特殊文字（角括弧など）の使用が原因で例外が発生する問題を修正しました。
- ライブラリを大量にダウンロードするための非常に長い共有暗号鍵（Shared Secret）が原因で例外（500 Server Error として表示される）が発生する問題を修正しました。
- *cookieLifetime* 変数が、正しくセットされないことがある問題を修正しました。

注意: Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。これまでと最新のリリースノート、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

トップ

Analytics

Analytics の新機能および修正点です。

米 Yahoo.com による検索キーワード提供終了への対応

Yahoo.com では、最近、自然検索経由でサイト流入時のリファラー URL 内に格納されている検索キーワードを含めないよう仕様変更が実施されました。この変更の結果、Yahoo.com からの検索の一部は識別されず、レポートされる Yahoo .com からの検索の数が減少しました。

Adobe Analytics は、2014 年 3 月 21 日に Yahoo からの検索を正しく識別するように変更されました。この日以降、Yahoo からの検索数が元のレベルに戻り、Yahoo によるキーワードの削除の結

果としてトラフィックソースレポートでの「使用できないキーワード」のインスタンスが増加しています。詳しくは、「[トラフィックソースレポートで使用できないキーワード](#)」を参照してください。

Adobe Analytics Web ユーザーインターフェイスでの Internet Explorer 8 のサポート

Internet Explorer 8 は、Adobe Analytics Web ユーザーインターフェイスのユーザーに対してサポートされる Web ブラウザーではなくなりました。これにより、アドビは、古いブラウザー（IE 8 およびそれ以前のバージョンなど）で利用できない、最新の Web テクノロジーを活用した新しい機能を追加し続けることができます。この変更は、Adobe Analytics 内の IE 8 Web ユーザーの測定には影響しません。また、この変更は、Firefox、Chrome、IE 9 以降、およびその他の最新ブラウザーには影響しません。アドビでは、これらのブラウザーのいずれかを Adobe Analytics で使用することを推奨します。

データフィード列の拡張

アドビでは、現在、多くのデータフィードフィールドのサイズの最大長を増やしています。フィールドサイズを増やすことにより、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。以前、2014 年 4 月に予定されていた列の拡張は延期されました。この拡張が再スケジュールされた場合は、リリースノートでお知らせいたします。

- [Analytics の新機能](#)
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [Data Workbench（Analytics Premium）](#)
 - [DataWarehouse](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
 - [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)

Analytics の新機能

機能	説明
----	----

機能	説明
<p>Adobe Analytics によって拡張された Adobe Target のレポート</p>	<p>Analytics によって拡張されたレポートを有効にすると、Target ユーザーは、Reports & Analytics で次の 2 つの新しいレポートを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Target／アクティビティ • Target／エクスペリエンス <p>また、Data Warehouse で次の 3 つの新しいレポートを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Target アクティビティ • Target エクスペリエンス • Target アクティビティ／エクスペリエンス <p>生の Target アクションデータフィールドは、クリックストリームデータフィールドおよび Data Workbench でも使用できます。</p> <p>詳しくは、「Target」を参照してください。</p>

機能	説明
Ad Hoc Analysis の新規エンゲージメント指標およびマーケティングチャネルのラストタッチインスタンス指標	<p>マーケティングチャネルのパフォーマンスに追加のインサイトを提供するため、次の 2 つの新しい指標が Ad Hoc Analysis に追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規エンゲージメント：ファーストタッチチャネルが設定されると（ファーストタッチチャネルのインスタンス）、新規エンゲージメントがカウントされます。訪問者が新しいか 30 日間（管理ツールにて期間の変更が可能）アクセスがない場合、サイトにアクセスすると、新規エンゲージメントがカウントされます。アクセスのない期間は、マーケティングチャネルマネージャーで設定できます。 ・ 指標およびマーケティングチャネルのラストタッチインスタンス：マーケティングチャネルレポートでラストタッチマーケティングチャネルが設定されると、インスタンスがカウントされます。マーケティングチャネルが設定されない限り、インスタンスはカウントされません。例えば、直接アクセスおよび内部からのアクセスは、以前に設定したチャネルを上書きしないように設定されることがよくありますが、その場合、<i>facebook.com</i> からアクセスした後でサイトに直接アクセスしても、ラストタッチインスタンスはカウントされません。
Ad Hoc Analysis のクリックスルー指標の名称変更	この指標が示す内容を明確にするために、指標の名称が「クリックスルー」から「キャンペーンクリックスルー」に変更されました。
Marketing Cloud 訪問者 ID	Marketing Cloud ID を使用して訪問者 ID サービスを実装すると、Data Warehouse は、Marketing Cloud 訪問者 ID をレポート用およびセグメント用の内訳の 1 列として表示します。この列は、ユーザーインターフェイスで「 <i>Marketing Cloud 訪問者 ID</i> 」と呼ばれます。Marketing Cloud 訪問者 ID は、クリックストリームデータフィードおよび Data Workbench でも使用できます。

機能	説明
Data Workbench のマスターマーケティングプロファイル	<p>4 月のリリースでは、Data Workbench が更新され、データフィードが拡張されて、Adobe Marketing Cloud のマスターマーケティングプロファイルが活用されるようになります。2014 年 4 月 22 日から 2014 年 5 月 31 日の間に行われる 4 月のリリース以降、すべての Data Workbench ユーザーは、この新しいデータフィード形式に移行する必要があります。</p> <p>追加の更新情報については、Data Workbench の 4 月リリースのリリースノートを参照してください。</p>

Reports & Analytics

修正点

2014 年 4 月 18 日リリースの修正点:

- ・カスタムコンバージョン変数による分類を適用すると、検索テキストがクリアされなかった問題を修正しました。この問題が原因で、フィルターされた分類レポートで正しくないデータがグラフに表示されていました。
- ・次のカスタムトラフィックフローレポートが CSV 形式でスケジュール配信された場合に、次のフロー項目が配信されたレポートから削除された問題を修正しました。
- ・主要指標レポートで、縦棒グラフ（積み重ね縦棒グラフ）を使用している場合に、週末がハイライトされなかった問題を修正しました。
- ・スケジュールされたダッシュボードで、空のレポートレットが含まれていることがある問題を修正しました。今**すぐ**送信オプションを使用した場合は、正しく送信されていました。
- ・日付**の**比較機能を使用して変更列で並べ替えた場合に、レポートページ間を移動して一部の行項目が再ランク付けされると、再計算が発生していましたが、修正によりこの再計算が発生する頻度が少なくなりました。
- ・階層レポートで現在**のデータ**を表示設定を有効にすると、次の**レベル**を表示ボタンが表示されないことがある問題を修正しました。
- ・まれに、ClickMap ページ指標で、サイト全体の売上高指標およびページパーティシペーション指標にゼロが表示されることがある問題を修正しました。
- ・ソーシャルネットワークのリストが更新され、*answers.yahoo.com*、*avforums.com*、*friendsreunited.co.uk*、*mumsnet.com*、*yelp.co.uk* の各ドメインがソーシャルネットワークとして認識されるようになりました。
- ・フルパスレポートで、2 つのパス間でパス指標を分割すると、同じパスが 2 回リストされていた問題を修正しました。現在は、これらのパスは単一のパスとして正しくレポートされます。

- ・ ページビュー数レポートで、まれに予測行が表示されないことがある問題を修正しました。
- ・ 数値の分類の内訳が更新され、レポートフィルターを正しく認識するようになりました。
- ・ 現在の**データ**を表示設定を有効にした場合に年別のレポートで発生していた問題を修正しました。この問題により、ページビュー数指標の合計が、ランク表示とトレンド表示で異なっていたレポートされていました。
- ・ オペレーティングシステムレポートが更新され、Mac OS のバージョンをリリースバージョンで区別するようになりました。これらの OS は、現在は、*[major version].[minor version].[update]* としてレポートされます（例：10.9.2）。

[トップ](#)

Report Builder

このリリースでは修正はありません。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis メンテナンスリリース

2014 年 4 月 18 日リリースの修正点：

- ・ 再来訪レポートで、合計訪問数に正しくない合計数が表示されていた問題を修正しました。
- ・ 合致する行項目の一部で、「次を 含まない」フィルターが動作しなかった問題を修正しました。
- ・ 「検索キーワード - 自然」に基づくセグメントがデータを返さなかった問題を修正しました。
- ・ eVar インスタンスがイベントとしてフォールアウトに追加された場合にフォールアウトレポートが正しく動作しなかった問題を修正しました。
- ・ リスト変数が内訳と共に使用された場合に、間違った分類を表示していた問題を修正しました。
- ・ いくつかのインスタンスにあるプロジェクトが Ad Hoc Analysis に読み込まれなかった問題を修正しました。
- ・ 次のカスタムトラフィックフローレポートがスケジュールされた配信として csv で送信された場合に発生していた問題を修正しました。この問題では、レポートの子要素が表示されず、レポートの内訳が表示されませんでした。

Data Workbench

2014 年 4 月 18 日リリースの修正点：

4 月のリリースでは、Data Workbench が更新され、データフィードが拡張されて、Adobe Marketing Cloud のマスターマーケティングプロファイルが活用されるようになります。2014 年 4 月 22 日から 2014 年 5 月 31 日の間に、すべての Data Workbench ユーザーは、この新しいデータフィード形式に移行する必要があります。

Adobe Analytics のお客様の全体像を提供する、マスターマーケティングプロファイルが導入されました。この新しいサービスは Adobe Marketing Cloud 内で利用でき、様々な分析ツールの値を使用して Analytics 内のこれらの機能の基盤を構築できます。新しいデータフィードおよびグローバル訪問者 ID に適合させるためのその他の拡張と共に、新しい Marketing Cloud 訪問者 ID がデータフィードに追加されます。

追加の更新情報については、[Data Workbench の 4 月リリースのリリースノート](#)を参照してください。

トップ

Data Warehouse

2014 年 4 月 18 日リリースの修正点:

- ・ レポート用およびセグメント用の内訳の 1 列として、Marketing Cloud 訪問者 ID が追加されました。この列は、ユーザーインターフェイスで「*Marketing Cloud 訪問者 ID*」と呼ばれます。
- ・ Reports & Analytics で、リファラータイプ指標、およびリファラータイプに基づくセグメントが一致しない問題を修正しました。
- ・ 訪問者コンテナセグメントで、訪問者が順序に関係なく処理されると、一部の訪問者が正しく含まれない問題を修正しました。これは、モバイルアプリでオフラインデータが有効で、以前の訪問からのヒットが、その後の訪問が既に収集された後に送信された場合に発生することがありました。
- ・ 複数のリファラータイプの内訳が含まれている場合に、一部のレポートのリクエストが失敗する問題を修正しました。
- ・ 「次のいずれかを含む」セグメント演算子が、複数の値を持つディメンション（例：リスト変数）に適用された場合に、データを返さなかった問題を修正しました。
- ・ イベントの負の小数値が間違って四捨五入されていた問題を修正しました。これらのイベントのレポートは、現在は、Reports & Analytics と一致します。
- ・ 指標を含まない大きなレポートが生成されないことがある問題を修正しました。
- ・ 文字列以外の値にパーティシペーションを表示すると、レポートに無効な値が表示される問題を修正しました。
- ・ スケジュールされたレポートの名前にダッシュ文字が含まれていると、アンダースコアに変更されていた問題を修正しました。現在、これらのレポートにはダッシュが正しく含まれて

います。

注意: バージョン 14 からの Data Warehouse アクセスは、今後のリリースで削除されます。[詳細情報](#)

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

データフィードを使用するすべてのお客様への重要なお知らせ: 今後数か月のうちに、多くのデータフィードフィールドの最大長を増やす予定です。これらの変更により、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

- Marketing Cloud 訪問者 ID および Target アクション列をデータフィードで 사용할 수 있게 되었습니다. Marketing Cloud 訪問者 ID には 방문자 ID 서비스를実装する必要があります、Target アクション에는 Adobe Analytics によって 확장された Adobe Target의 레포트를実装する必要があります.

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

1.3

- Marketing Cloud 訪問者 ID 서비스가サポート됩니다.

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java

- PHP
- Symbian

トップ

Social 3.2.2

Social 3.2.2 リリースの機能および修正点です。

新機能および拡張機能

機能	説明
投稿者のデフォルトキャンペーン	レポートスイート用のデフォルトのキャンペーンを設定します。ユーザーが投稿またはコンテンツカレンダーで新しい投稿を作成すると、デフォルトキャンペーンを使用して、キャンペーンオプションが事前設定されます。この設定により、投稿とガバナンスを合理化します。他のキャンペーンが使用可能な場合、ユーザーは、デフォルトキャンペーンを上書きできます。
URL の自動短縮化	デフォルトのリンク短縮サービスを指定します。デフォルトのリンク短縮サービスは、ユーザーが手動でデフォルトの短縮サービスを上書きしない限り、投稿のすべてのリンクの短縮化に使用されます。
Facebook モデレートの機能強化	<p>プライベートメッセージ：所有する Facebook ページに投稿されたプライベートメッセージのみを表示するモデレートフィードを作成します。</p> <p>オーディエンス：指定した Facebook オーディエンスのユーザーから所有する Facebook ページに投稿されたコンテンツのみを表示するモデレートフィードを作成します。</p>
ソーシャルバズレポートの機能強化	<p>新しいフィルター：フォロワー（Twitter のみ）、Klout スコア、言語、および地域情報（国、地域、市区町村）で、ソーシャルバズレポートをフィルターします。</p> <p>地域別の投稿レポートレットの機能強化：積み重ねランクグラフが、マップの下に表示されるようになりました。また、マップまたはグラフをクリックすると、特定の地域の詳細を表示できます。</p>
投稿のクイック検索	投稿を使用してプロパティ、グループまたはオーディエンスを検索ボックスに入力し始めると、投稿コンテンツが絞り込まれます。

機能	説明
顧客アラートシステム	顧客アラートシステムにより最新の状態が保持されます。この機能により、Social 製品内から関連性の高いタイムリーなコミュニケーションが可能になります。通知には、Social システムの更新や障害などの情報を含めることができます。

修正点

Social 3.2.2 リリースの修正点:

- ・ソーシャルキャンペーンレポートの検索ボックスが正常に機能しない問題を修正しました。
- ・ソーシャルキャンペーンレポートにキャンペーンが2回表示されることがある問題を修正しました。
- ・投稿のパフォーマンスレポートレット（マーケティングの概要ダッシュボードおよび投稿一覧レポート）で、YouTube および LinkedIn 投稿のポップアップに日付のタイムスタンプが表示されない問題を修正しました。
- ・現在は、投稿の詳細レポートのコメントレポートレットで、YouTube ビデオの作成者名をクリックすると、その作成者の YouTube チャンネルに正しくリンクされます。
- ・投稿の詳細レポートの YouTube ビデオコメントは、YouTube での動作と同じように、新着順（最新が最初）に表示されます。
- ・LinkedIn 投稿の投稿の詳細レポートで、コメント数が表示されるようになりました。
- ・ユーザーが Excel ファイルにレポートをエクスポートすると、様々なサービス（例えば、YouTube や LinkedIn）への呼び出しが行われます。これらのサービスの1つが使用できない場合、エクスポートが正常に処理されません。現在は、「プラットフォームの1つのサービスが使用できないので、エクスポートはダウンロードに失敗しました。後でもう一度実行してください。」という内容のエラーが表示されます。
- ・投稿の詳細ページのプロパティ名をクリックすると、そのプロパティのプロパティの概要ページにリンクされるようになりました。
- ・モデレートフィードで投稿を更新すると、すべての投稿が読み込めなくなる問題を修正しました。
- ・ダイレクトメッセージモデレートフィードをフィルターできない問題を修正しました。
- ・複数の投稿に失敗した場合の投稿およびコンテンツカレンダーのエラーメッセージが強化されました。
- ・投稿の投稿予測機能で、コンテンツ投稿に最適な時間を推奨する際に、スケジュールされた投稿が考慮されるようになりました。特定の時間に投稿するようにスケジュールされた投稿がある場合に、Social は、他の投稿に対して同じ投稿時間を推奨しません。

- ・「未定義のメソッド 'parse_v3_params'」というメッセージが表示されて投稿が失敗することがある問題を修正しました。
- ・投稿のプレビューパネルで画像が正しくフォーマットされない問題を修正しました。
- ・投稿で、最もよく使用されるリストに間違ったオーディエンスが表示されることがある問題を修正しました。
- ・投稿で、最もよく使用されるリストに間違った順番でプロパティが表示される問題を修正しました。現在、プロパティは使用される順（最も頻繁に使用されるものから少ない頻度で使用されるものの順）に表示されます。
- ・投稿で、プロパティリストが正しく表示されない問題を修正しました。
- ・Suspend PostsページのSocial プロパティを選択リストに YouTube および Sina Weibo のプロパティが表示されない問題を修正しました。
- ・ユーザーが特定の国のツイートをターゲット設定できなかった問題を修正しました。
- ・Social で、ユーザーが投稿にリンクを入力していて、それを短縮化していない場合、警告メッセージが表示されるようになりました。
- ・ツイートのリンクがキャンペーンを正しく参照できない問題を修正しました。
- ・バウンディングボックスなど、地理に関するフィルターを含むリスニングルールを作成中、ユーザーが無効な条件を入力すると、エラーメッセージが表示されるようになりました。このメッセージは、ユーザーが「基本」または「ビルダー」タブを使用してルールを作成すると表示されます。
- ・ユーザーが複数のリスニングルールを削除できなかった問題を修正しました。
- ・ユーザーが Socialでそのページにリンクされている唯一の管理者である場合、Facebook アカウントを削除できなかった問題を修正しました。
- ・ユーザーが新しいユーザーグループを作成すると、緑色の成功メッセージが表示されます。以前のリリースでは、誤って黄色の警告メッセージが表示されていました。
- ・新しい Facebook オーディエンスを作成中、「保存」ボタンをダブルクリックしても、2つのオーディエンスが作成されなくなりました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Advanced 3.10

2014 年 4 月 18 日リリースの機能:

機能および拡張機能	説明
-----------	----

機能および拡張機能	説明
<p>Adobe Analytics によって拡張された Adobe Target のレポート</p>	<p>Adobe Analytics のお客様は、テストの設定処理で、Analytics をデフォルトのレポートソースとして選択できます。結果のフィルターに使用するすべての成功指標またはオーディエンスを選択する必要はなくなりました。レポート内で、Analytics で定義された成功指標またはオーディエンスセグメントを選択でき、拡張フィルターおよび最適化された結果の詳細な分析のために、過去に遡ってレポートに適用できます。</p> <hr/> <p>注意: この機能へのアクセスをリクエストするには、 http://www.adobe.com/go/audiences_jp にアクセスしてください。</p> <hr/>
<p>マスターマーケティングプロファイルのリアルタイムオーディエンス</p>	<p>ソリューション間で使用するために、訪問者 ID とデータを単一の実行可能なプロファイルに統合するマスターマーケティングプロファイルを活用します。Adobe Analytics でセグメント作成処理中に「Marketing Cloud で使用できるようにする」チェックボックスをオンにすると、Adobe Target のカスタムオーディエンスライブラリ内でセグメントを使用できるようになります。Analytics またはオーディエンス管理で作成したセグメントは、Target の対象訪問者に対して使用できます。</p> <hr/> <p>注意: この機能へのアクセスをリクエストするには、 http://www.adobe.com/go/audiences_jp にアクセスしてください。</p> <hr/>
<p>mbox 使用状況情報の期間の延長</p>	<p>以前は、mbox 使用状況の統計は 6 か月前まで表示できました。この制限は、13 か月（今月とその前の 12 か月）まで延長されました。</p>

2014 年 4 月 18 日リリースの修正点:

- Adobe Analytics のユーザー名が Target に関連づけられていない問題を修正しました。
- 日本語で例外エラーダイアログが間違っってローカライズされていた問題を修正しました。

Target Standard 1.7

2014 年 4 月 22 日リリースの機能:

機能	説明
Adobe Analytics によって拡張された Adobe Target のレポート	<p>Adobe Analytics のお客様は、テストの設定処理で、Analytics をデフォルトのレポートソースとして選択できます。結果のフィルターに使用するすべての成功指標またはオーディエンスを選択する必要はなくなりました。レポート内で、Analytics で定義された成功指標またはオーディエンスセグメントを選択でき、拡張フィルターおよび最適化された結果の詳細な分析のために、過去に遡ってレポートに適用できます。</p> <p>注意: この機能へのアクセスをリクエストするには、 http://www.adobe.com/go/audiences_jp にアクセスしてください。</p>

機能	説明
<p>マスターマーケティングプロファイルのリアルタイムオーディエンス</p>	<p>ソリューション間で使用するために、訪問者 ID とデータを単一の実行可能なプロファイルに統合するマスターマーケティングプロファイルを活用します。Adobe Analytics でセグメント作成処理中に「Marketing Cloud で使用できるようにする」チェックボックスをオンにすると、Adobe Target のカスタムオーディエンスライブラリ内でセグメントを使用できるようになります。Analytics またはオーディエンス管理で作成したセグメントは、Target の対象訪問者に対して使用できます。</p> <p>注意: この機能へのアクセスをリクエストするには、 http://www.adobe.com/go/audiences_jp にアクセスしてください。</p>
<p>エクスペリエンスのターゲット化アクティビティタイプ</p>	<p>異なるオーディエンスに対する異なるエクスペリエンスを 1 つのアクティビティでターゲット化します。</p> <p>注意: これは、Target Classic のランディングページキャンペーンと似たような機能を提供します。</p>
<p>複数ページのテスト</p>	<p>Web ページのセットに対するテストまたはターゲット化アクティビティの実行を選択します。現在は、すべての製品ページに対してテストを実行したり、サイトのすべてのページの全体的なナビゲーションを変更したりできます。シンプルなルールビルダーを使用して、ページのどのグループを含めるかを指定します。</p>

修正点

2014 年 4 月 22 日リリースの修正点:

- Edge で target.js を圧縮できない問題を修正しました。

- ・レポートで、アクティビティ行のコンバージョン数が A/B アクティビティに表示されなかった問題を修正しました。
- ・データを含むエクスペリエンスが削除されると、レポートが表示されなくなっていた問題を修正しました。

既知の問題

このリリースには、次の既知の問題が含まれています。この問題は、今後の更新で修正される予定です。

- ・ Visual Experience Composer を使用して再配置されたエレメントで、クリックの追跡が動作しません。このバグが修正されるまで、再配置されたエレメントにクリックの追跡を設定しないでください。
- ・ Target Advanced でジオロケーションが無効な場合に Target Standard で地理オーディエンスが作成されると、同期エラーが発生します。
- ・ 画像が CSS で参照されている場合、その画像を置き換えることができません。

トップ

Search&Promote 8.13.0

2014 年 4 月 10 日に、次の機能がリリースされました。

機能	説明
完全テーブル一致を含む動的ファセットのサポート	お客様によっては、多くの「SKU レベル」属性を持ち、動的ファセットを使用して選択および表示したい場合があります。その場合、オプションで、各動的ファセットフィールドを静的アカウント設定の最大 1 つのテーブル名に関連付けることができます。こうしたテーブルのリレーションシップは、検索時に、その検索に関連する動的ファセットフィールドに適用できます。

トップ

修正点

2014 年 4 月 10 日リリースの修正点:

- ・ データ表示の説明フィールドが変更され、<search-description> タグの代わりに <search-display-field> タグが使用されるようになりました。
- ・ Index Connector に、プライマリキーに 2 つ以上のフィールドを連結する機能が追加されました。

- AttributeLoader-Regen-Enabled スクリプトの `attributeloader-regen.pl` が変更され、HTML エンコードされた値でなくなりました。
- 「範囲検索」クエリーのインデックス時間と検索時間の空白文字の処理が一致するようになりました。
- 動的ファセットを有効にすると、ビジネスルールの追加がエラーになることがあった問題を修正しました。
- JavaScript エラーにより、設定 / **SPIN** / **IndexConnector** の定義を追加または編集できなかった問題を修正しました。
- ビジネスルールの作成時に時間を選択していると、ビジネスルールが保存された後、GMT タイムゾーンがデフォルトに設定されて表示されていた問題を修正しました。ビジネスルールの保存後、アカウントのタイムゾーンで表示され、実施されていました。
- ステージでのビジネスルールの並び替えが正しく動作していなかった問題を修正しました。
- 検索パフォーマンスレポートが強化され、電子メール配信のレポートをスケジュールできるようになりました。
- ビジネスルールのスケジュールが修正され、自動的に夏時間に変更されるようになりました。
- 多数の動的ファセットフィールドが定義された場合に、主要な検索の応答時間が遅くなっていた問題を修正しました。
- 正しくない範囲インデックスエラーが発生していた問題を修正しました。
- 北米以外のデータセンターの Scene7 アクセスが切断されていた問題を修正しました。
- SPIN XPath 検証関数が誤検知エラーを返していた問題を修正しました。
- SPIN の有効化 / 無効化の操作の後、ユーザーがメンバーセンターログインページにリダイレクトされていた問題を修正しました。

トップ

Media Manager

Media Manager の新機能および修正点です。

- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

トップ

Campaign

キャンペーンは、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって1対1のメッセージを届けるための直感的で自動化された方法です。

ヘルプおよびサポートについては、[Adobe キャンペーンエクストラネット](#)にサインインしてください。

[トップ](#)

Experience Manager

最新リリースの情報については、次を参照してください。

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

[トップ](#)

重要: このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Adobe Marketing Cloud の最新リリースおよびメンテナンスリリース情報について説明します。

リリース日: 2014 年 5 月 23 日

月ごとのリリースの 1 週間前にリリースノートを受け取るには、[Adobe Priority Product Update](#) に登録してください。

- [Marketing Cloud および共有機能](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud と共有サービス

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能・修正点です。

- [Mobile Services 2.0](#)
- [Data Connectors](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Adobe Mobile サービス

Adobe Mobile Services により、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

修正点

- プリセット「最近の 30 日間」に選択肢として「今日」が含まれるようになりました。
- 日本の地域レポートで発生していたフィルタリングの問題を修正しました。
- 初回起動コホートレポートを表示すると日付範囲がリセットされていた問題を修正しました。
- すべての国のアプリストアが検索できない問題を修正しました。
- 複数の地域をフィルターするとデータが返されなかった問題を修正しました。

- ソフトウェア開発キットのダウンロードで文字化けしていた Unicode 文字を修正しました。
- ターゲットアクティビティページのヘルプのツールチップを修正しました。

詳しくは、「[Mobile の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Data Connectors

機能	説明
REST API のサポート	Data Connectors API で REST がサポートされるようになりました。

[トップ](#)

Dynamic Tag Management

Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。これまでと最新のリリースノート、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Analytics

Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics の新機能](#)
- [Analytics Premium の新機能](#)
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [Data Workbench \(Analytics Premium\)](#)
 - [DataWarehouse](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)
- [Analytics Web サービス \(SOAP および REST API\)](#)

Analytics の新機能

機能	説明
----	----

機能	説明
<p>Analytics 全体で統合されたセグメントの管理と作成</p>	<p>Analytics インターフェイス全体およびレポートスイート全体でセグメントが作成、管理および使用されるようになりました。</p> <p>新しいセグメントビルダーインターフェイスにより、シンプルなセグメント、ネストされたセグメント、順次セグメントを作成できます。複数のセグメントでロジックが重複しないように、複数のセグメントを単一のレポートに適用できるようになりました。</p> <p>新しいセグメントマネージャーにより、セグメントを簡単に管理、承認、共有およびタグ付けできます。セグメントは、Marketing Cloud に公開して、Analytics でのターゲティングで使用できます。</p>
<p>強化された予定レポートの管理</p>	<p>優れたキュー管理と高度なフィルター機能が予定レポートで使用できるようになりました。管理者レベルのユーザーは、組織のすべてのレポートを表示、管理およびフィルターできます。</p>
<p>強化された Web UI ナビゲーション</p>	<p>Web UI は、フライアウトメニューからスライディングメニューに変更されました。また、新しいスライディングメニューでは、すべての Marketing Cloud ソリューションのメニューに簡単にアクセスできます。</p>
<p>レポート用のカスタム説明テキスト</p>	<p>Reports & Analytics で、すべてのカスタムディメンション（prop / eVar）および指標（events）に短い説明文を追加できるようになりました。これらのディメンションは、レポート上部とメニューホバー時に表示され、レポート閲覧者がデータを理解するのに役立ちます。</p>

機能	説明
Report Builder 5.0	<p>Report Builder 5.0 には、次のような新機能が導入されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合セグメント化およびセル内のセグメント切替メニューをサポート ・ データブロックの保護、インタラクティブコントロール、Excel の機能を使用した Report Builder の呼び出しなど、ビジネスユーザー向けのワークブックの作成をサポートするための複数の機能 ・ より効率的な編集のために、すべてのレポートリクエストを停止し、ワークブックのオフライン編集を可能にするオフラインモード ・ Report Builder 内でのパスレポートおよびフォールアウトレポートのサポートを追加 ・ ダッシュボードおよびブックマークの読み込みにより、ユーザーは Reports & Analytics のダッシュボードとブックマークを Report Builder リクエストとして読み込み可能 ・ 「登録解除」リンク（社内メーリングリストを利用する場合に便利）と、ワークブックのスケジュールでマクロを使用できる機能を含む予定レポートの強化
新しい OS タイプレポート	既存のオペレーティングシステムレポートをオペレーティングシステムのタイプ（Microsoft Windows、Apple Macintosh、UNIX など）別にまとめた新しいレポートが追加されました。
計算指標の統計計算	Ad Hoc Analysis では、計算指標を作成する際に統計および論理関数が利用可能になりました。関数には、平均、標準偏差、クロス集計、絶対値、if ステートメント、その他多数が含まれます。

Analytics Premium の新機能

「[Analytics の新機能](#)」に記載されている機能に加え、Analytics Premium には、次の新機能が追加されます。

機能	説明
Analytics ライブストリーム	すべてのカスタムおよび標準変数（ヒットあたり 300 変数以上）から選択したデータを、収集後、数秒以内にストリーミング配信できます。
ディシジョンツリー	潜在的な関係や特定の結果を予測分析で表すディシジョンツリーを使用して、オーディエンスの特徴とエンゲージメントを評価します。

機能	説明
ファインダーパネル	ワークスペースまたはクライアントコンソールの左側のサイドバーからアクセスできるファインダーパネルの新しいセットを使用して、ディメンション、指標、フィルターにアクセスし、視覚化に直接適用します。
標準レポートタイプ	ページビュー数、訪問者数、トラフィック、キャンペーン、参照ドメインなど、Adobe Analytics で使用される従来のレポートに Data Workbench 内からアクセスします。
密度マップ	正方形のマップ上のサイズと色の変化を用いた長方形単位として、比較値を表示します。要素は、各値の密度を示すために、左上から右下、最大から最小、明から暗の順に並べられます。
属性プロファイル	新しい規則に基づく属性プロファイルを使用して、属性イベントをすばやく分析し、コンバージョンや売上に導く Web ページのファーストタッチまたはラストタッチ、キャンペーン、またはその他のイベントに責任を割り当てます。

Analytics Premium のその他の更新を確認するには、「[Data Workbench 6.2 リリースノート](#)」の新機能の節を参照してください。

Reports & Analytics

修正点

- ・モバイルデバイスレポートで、直帰率が指標として表示されなかった問題を修正しました。
- ・縦レイアウトで表示されるダッシュボードに 30 日または 31 日の代わりに 28 日のみが表示される問題を修正しました。
- ・初回購入までの日数レポートおよび 前回購入と次の購入までの日数レポートで、レポート出力に「日」が重複して表示されていた問題を修正しました。
- ・レポートのメモのタイムゾーンがデフォルトで米国山岳部標準時になっていた問題を修正しました。現在は、レポートスイートのタイムゾーンがデフォルトになります。
- ・ダッシュボードに時間単位の精度のオプションが表示されていなかった問題を修正しました。
- ・CSV レポートが配信されないことがある問題を修正しました。この問題は、特定のセグメントでレポートを実行して電子メールで配信する際に、CSV ファイルの名前をセグメントと同じ名前に変更すると発生していました。
- ・ダウンロードされたダッシュボードに不完全なメモが表示される問題を修正しました。
- ・PDF ファイルのテキストに白い線が含まれ、文字の上部が欠ける問題を修正しました。

- ユーザーグループを編集しようとする「リクエストに無効なレポート ID が含まれています」というエラーが発生する問題を修正しました。
- Reports & Analytics の新しいユーザー用のログイン URL がデータセンター専用ではなくなり、一般的な <http://my.omniture.com/login> になりました。
- 「それ以外の場合、次の手順を実行します」セクションから項目を削除した後、処理ルールを保存すると、削除した項目が元に戻っている問題を修正しました。
- 次の公開ウィジェットの問題を修正しました。
 - 公開ウィジェットが更新されなかった問題を修正しました。
 - 公開ウィジェットがプレビューでのみ動作し、本番環境では動作しなかった問題を修正しました。
 - 公開ウィジェットで、フィルタリングされたレポートレットのすべての値が表示されず、1 つの値のみ表示されていた問題を修正しました。
- アラートを編集するためにログインすると、選択したアラートが空白になっていた問題を修正しました。
- 管理コンソールで特定のレポートスイートのアプリレポートを有効にしようとした際に失敗していた問題を修正しました。
- 分類を削除しようとするエラーが発生していた問題を修正しました。
- ページビューレポートの年別のレポートで予測行が表示されなかった問題を修正しました。
- 月単位の精度の年別再来訪レポートのフォーマットの問題を修正しました。

トップ

Report Builder

修正点

- データを手動で更新した場合はフィルタリングオプションが動作していましたが、スケジューラーを使用して受け取った場合は動作していなかった問題を修正しました。
- 製品で分類されたページレポートが「なし」を返していた問題を修正しました。
- トラッキングコードでページを分類していた場合に、無効なエレメントエラーが返されていた問題を修正しました。
- 複数のコンバージョンイベント指標で任意の地理セグメントレポートを実行するとデータを返さなかった問題を修正しました。
- カスタムイベント指標で任意の地理セグメントレポートを実行するとデータを返さなかった問題を修正しました。
- .pdf ファイルでワークブックの配信をスケジュールできず、常に Excel ワークブックで配信されていた問題を修正しました。

- 目的の時間で時間別予定レポートを作成できなかった問題を修正しました。
- モバイルアプリディメンションで App Store ID レポートしか使用できなかった問題を修正しました。現在は、このディメンションでさらに 10 種類のレポートを利用できます。
- 分類でフィルターすると、Reports & Analytics にはデータが表示されるが、Report Builder には表示されなかった問題を修正しました。選択されたフィルターフォームに、Report Builder リクエストで選択されたエレメントおよび指標に基づいて値が入力されるようになりました。
- Report Builder の予定レポートマネージャーに受信者を追加できなかった問題を修正しました。「選択されているワークブック形式は Adobe Report Builder のスケジューリング機能でサポートされていません」というエラーが発生していました。
- 個別訪問者指標でリファラタイプディメンションを使用してサイトセクションレポートを実行すると、エラーが発生してデータが返されなかった問題を修正しました。
- eVar レポートのフィルターに、使用可能なすべての行項目が表示されていなかった問題を修正しました。
- 行項目が変数で扱うには長すぎる場合に Report Builder が読み取れない行項目を含むレポートを生成していた問題を修正しました。項目がマルチバイト文字の途中で切れていました。
- API リクエストにデータが含まれているにもかかわらず、Report Builder のリクエストがリクエストされたデータを返さなかった問題を修正しました。
- 複数の指標でカスタムトラフィックディメンションを含むページレポートを実行すると、データが表示されなかった問題を修正しました。ただし、指標として「ページビュー数」のみを選択している場合は、データが表示されていました。
- PDF 形式でレポートをスケジュールした場合、電子メール送信でレポートが添付されていなかった問題を修正しました。
- 地理セグメント - 国レポート用にイベントを取り込むと、Report Builder がゼロを返していた問題を修正しました。
- トレンドレポートのフォーマットの問題を修正しました。
- Report Builder にログインすると、Excel で名前を付けて保存 / PDF に保存を実行できなかった問題を修正しました。Report Builder にログインしていない場合は、この操作が可能でした。
- 月単位の精度で移行日にまたがるレポートのフォーマットの問題を修正しました。
- 月単位の精度のパーティシペーション指標を含む Report Builder リクエストでデータを返さなかった問題を修正しました。
- Report Builder を使用していると、Microsoft Office 2013 でコピー／ペーストができなかった問題を修正しました。
- 「標準 - コマース」指標リストで訪問者数指標が使用できなかった問題を修正しました。

- ・ 英語以外のロケールで、リクエストウィザードの**フィルター / リストから**選択で要素を指定して訪問回数レポートを実行すると、データを返さなかった問題を修正しました。ローカライズされた要素名がクエリー条件として直接送信されていました。
- ・ 参照ドメインで分類された prop がデータを返さなかった問題を修正しました。
- ・ Report Builder で地理セグメント - 国レポートに「製品表示カスタム（イベント 7）」を追加するとデータを返さなかった問題を修正しました。
- ・ 予定レポートで間違った開始日が含まれていた問題を修正しました。
- ・ 訪問者**プロフィール** / 地理特性 - 米国 **DMA**レポートで、ライフサイクル指標を取り込まず、データを返さなかった問題を修正しました。
- ・ Report Builder で、時間別レポートが断続的に失敗していた問題を修正しました。
- ・ これらの分類レポートは、Report Builder では使用できませんでした。
 - ・ モバイルアプリ／ライフサイクルレポート／ライフサイクル変数 / 初回起動日レポート
 - ・ ビデオ／ビデオ変数 / ビデオ／ビデオ
- ・ キーワードを Report Builder に読み込むと間違っ変換されていた問題を修正しました。
- ・ レポートを手動でスケジュールすると期待どおりにデータが設定されるのに対して、予定レポートが部分的なデータを返していた問題を修正しました。
- ・ 集計以外の精度を選択すると、売上高を含む地域 - 国レポートがデータを返さなかった問題を修正しました。
- ・ 予定レポートですべてのリクエストが適切に更新されなかった問題を修正しました。
- ・ ハイフンを使用した名前のユーザーがアップロードしたライブラリワークブックをダウンロードできなかった問題を修正しました。

トップ

Ad Hoc Analysis

修正点

このリリースでは、次の問題を修正しました。

- ・ Ad Hoc Analysis インストールに新しい .jar ファイルが追加されました。このため、起動するには .jnlp ファイルを更新する必要があります。
- ・ ディメンションパネルにツールチップテキストが追加され、ディメンションの元の親を特定できるようになりました。2つのディメンションが同じ名前を持つ場合、ディメンションにマウスポインターを置くと、その元を特定でき、同じ名前の他のディメンションと区別できます。

- ・マルチバイト文字で始まる名前の予定レポートが実行に失敗していた問題を修正しました。

Data Workbench

修正点

- ・検索エンジンによるクエリー検索語の変更に対処するようにビジュアルサイトルックアップファイルが更新されました。
- ・データを変換する際に、Insight Transform.cfg ファイルに正しいタイムゾーンパラメーターを指定する必要があります。Data Workbench 6.2 について詳しくは、「[アップグレード要件](#)」を参照してください。
- ・ワークスペースの読み込み時に読み込みが成功した場合でも表示されるクライアントワークステーションのエラーメッセージを修正しました。
- ・レポートサーバーで「投稿」コマンドが実行できるようになりました。
- ・簡体字中国語のクライアントユーザーインターフェイスのエラーを修正しました。
- ・Adobe Analytics ではデータフィードが更新、拡張されて、Data Workbench が強化され、Adobe Marketing Cloud に統合されるマスターマーケティングプロファイルが活用されます。2014 年 4 月 22 日までに、Data Workbench のすべてのユーザーはこの移行のために環境の準備を行う必要がありました。

Adobe Analytics のお客様の全体像を提供する、マスターマーケティングプロファイルが導入されました。この新しいサービスは Adobe Marketing Cloud 内で利用でき、様々な分析ツールの値を使用して Analytics 内のこれらの機能の基盤を構築できます。新しいデータフィードおよびグローバル訪問者 ID に適合させるためのその他の拡張と共に、新しい Marketing Cloud 訪問者 ID がデータフィードに追加されます。

その他のリリース情報については、「[Data Workbench 6.2 の更新](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Data Warehouse

修正点

- ・状況によって、参照ドメインディメンションが Reports & Analytics と一致しないことがある問題を修正しました。
- ・売上高パーティシペーション指標を使用して、異なる日付 / 時間で取り込むと、異なる売上結果を返す問題を修正しました。
- ・管理者以外のユーザーがスケジュール済みの Data Warehouse リクエストをキャンセルできていた問題を修正しました。

- Data Warehouse にアクセスしようとするネットワークの加速機能がタイムアウトする問題を修正しました。
- Data Warehouse がレポートと分類で *post_tnt*（キャンペーン、手法、およびキャンペーン／手法）の分類を再追加していた問題を修正しました。

注意: バージョン 14 からの Data Warehouse アクセスは、このリリースで削除されます。[詳細情報](#)

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

データフィード列の拡張

アドビでは、現在、多くのデータフィードフィールドのサイズの最大長を増やしています。フィールドサイズを増やすことにより、Adobe Analytics に追加機能が提供されます。ただし、大きくなったフィールドは、データフィードを取り込むお客様の ETL（抽出（extract）、転送（transform）、ロード（load））処理に影響を与える可能性があります。この変更に備えるために、すべてのお客様は、「[データフィード列の拡張](#)」で説明されている変更を行う必要があります。

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

1.3.1

- JavaScript 版 AppMeasurement の *s_gi* 関数が、H コードの *s_gi* を使用して作成されたインスタンスを正しく検索できなかった問題を修正しました。この問題は、JavaScript 版 AppMeasurement および H コードが同じページの別のインスタンスで存在し、インスタンスの検索にレポートスイートで *s_gi* が使用されているデュアルタグ実装にのみ影響します。

JavaScript H コード（レガシー）

H.27

- [Marketing Cloud 訪問者 ID サービス](#) がサポートされます。
- [Target と Analytics の統合](#) がサポートされます。

Marketing Cloud 訪問者 ID サービス

1.2.2

- cookie を記述する際の「.no」および「.us」などの2文字のトップレベルドメインの処理を修正しました。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

トップ

Analytics Web サービス（SOAP および REST API）

更新

- レポート API 1.4 でリアルタイムレポートをサポートするようになりました。
- レポート API 1.4 で Analytics 概要レポートをサポートするようになりました。
- レポートリクエストでは、elementDataEncoding パラメーターを使用する要素名で UTF-8 以外の文字をサポートするようになりました。
- Data Connectors API で REST リクエストをサポートするようになりました。
- Data Warehouse API で、Analytics 統合セグメント化機能と互換性のあるセグメントの作成をサポートするようになりました。Data Warehouse API を使用して作成されたセグメントを編集できるのは Data Warehouse API のみという制限があります。これらのセグメントをセグメントビルダーインターフェイスで編集した場合、変更は API に反映されません。

Social

Social 3.3 リリースの新機能および修正点です。

新機能および拡張機能

機能	説明
----	----

機能	説明
グローバルレポートスイートのサポート	Social では、組織の様々なプロパティ全体の集計表示を提供するグローバルレポートスイートをサポートするようになりました。
統合モデレート機能強化	<p>統合モデレートに加えられた機能強化を次に示します。</p> <p>自動通知ルール：所有する Facebook ページに指定した語を含むコンテンツが投稿された場合に通知メッセージを 1 つ以上の電子メールアドレスに自動的に送信するモデレートルールを作成します。</p> <p>Twitter 会話のフィード：フィードを設定または編集して、個別のツイートおよびそのコメントのモデレートを促進します。</p> <p>投稿のタイプフィルター：投稿のタイプによって投稿を表示する Facebook または Twitter のモデレートフィードを作成します。Facebook の場合、「投稿」および「コメント／返信」でフィルタリングできます。Twitter の場合、「ツイート」、「返信」および「リツイート」でフィルタリングできます。</p> <p>ソーシャルユーザープロフィール：Social は、異なるプラットフォーム（Facebook、Twitter および LinkedIn）にわたるユーザーの様々なソーシャルユーザープロフィールに自動的に接続して、統合ソーシャルプロフィールを作成できます。この設定を有効にするには、担当の Social アカウントマネージャーにお問い合わせいただく必要があります。また、ユーザーの作成者ページが強化され、感情およびセンチメントの情報が表示されるようになりました。</p> <p>モデレート履歴レポートのエクスポート：モデレートの概要ダッシュボードからダウンロードできる Microsoft Excel ファイルに、指定された期間内に実行された各モデレート操作に関する詳細情報を表示するモデレート操作履歴シートが含まれるようになりました。</p> <p>タイムスタンプの強化：ツイートのタイムスタンプの上にマウスポインターを置いて、完全なタイムスタンプを表示したり、コンテンツをキャプチャするリスニングルールを表示したりできます。また、タイムスタンプをクリックすると、Twitter を開いてコンテンツを表示できます。</p>
電子メールでのレポートの送信	1 つ以上の電子メールアドレスに、即座に、またはスケジュールに従って Microsoft Excel 形式でレポートを送信できます。

機能	説明
投稿プレビューでの投稿の編集	投稿者のプレビューパネルですべてのプラットフォーム（Facebook、Twitter、Google+ など）の投稿を編集できるようになりました。
Social ホームページの設定	Social にログインするたびに自動的に表示されるデフォルトのホームページを設定できます。Social へのログイン時または「環境設定」に表示されるポップアップからデフォルトのホームページを設定できます。

修正点、機能拡張および非推奨の機能

上記に説明した新機能および機能強化に加えて、Social 3.3 には、パフォーマンス、拡張性、操作性および信頼性を向上させることに重点を置いた機能強化および修正点があります。これに関するバックエンドの修正および機能強化は、460 以上に及びます。次に、お客様から報告された、より重要な問題を解決する修正点を示します。

- コンテンツカレンダーおよび投稿の SWF を共有機能が非推奨となりました。
- LinkedIn では、会社は LinkedIn でネイティブに使用しているグループに投稿することを推奨しています。Social でサポートする LinkedIn グループは非推奨となります。
- マーケティング概要ダッシュボードの「混在コンテンツ」の警告の問題を修正しました。
- ユーザーがソーシャルバズレポートのセンチメントを更新できなかった問題を修正しました。
- ソーシャルバズレポートで、夏時間への変更が原因で Facebook の日付が正しく表示されない場合がある問題を修正しました。
- ソーシャルキャンペーンレポートの一部の指標データが正しくない場合がある問題を修正しました。
- ソーシャルキャンペーンレポートでキャンペーンを検索すると、検索結果に検索語を含まないキャンペーンが表示されていた問題を修正しました。どのキャンペーン名にも検索語が含まれない場合は、何も表示されなくなりました。
- 競合相手の分析レポートのグラフに表示される投稿のエンゲージメントの指標が一致しなかった問題を修正しました。
- プロパティレポートのロールアップ表示とプロパティの詳細レポートの指標の数値が一致しなかった問題を修正しました。
- 年齢確認のページのプロパティおよび投稿レポートに画像が表示されるようになりました。

- ・タイムスタンプが、LinkedIn および YouTube 投稿の投稿一覧レポート上に表示されない問題を修正しました。
- ・投稿の詳細レポートのドーナツグラフに Twitter の返信が表示されない問題を修正しました。
- ・ソーシャルキャンペーンレポートに一部のキャンペーンが 2 回表示されていた問題を修正しました。
- ・投稿の詳細レポートで YouTube チャンネル名が正しく表示されなかった問題を修正しました。
- ・YouTube エンゲージメント指標のツールチップを変更し、登録者を計算に含めないようにしました。
- ・Social で大きいレポートをダウンロードできなかった問題を修正しました。
- ・現在は、ダウンロードされたレポートの地域のターゲットデータは、切り捨てられません。
- ・競合相手の分析レポートのダウンロードされた Excel ファイルの新しいページの「いいね！」およびページへの「いいね！」の合計の列のラベルの問題を修正しました。
- ・ユーザーが140 文字を超える Facebook 投稿のドラフトを作成して、投稿前にターゲットプラットフォームを Twitter に切り替えた場合に投稿で発生した問題を修正しました。Twitter の 140 文字の制限に準拠するためにユーザーがすべてのテキストを消去しても、ツイートに含まれる文字が多すぎるというエラーが表示されていました。
- ・ユーザーが同じコンテンツを 2 回投稿しようとする则表示されるエラーメッセージを修正しました。以前は「ソーシャルネットワークに問題が発生している」というメッセージでしたが、現在は、投稿が重複しているというエラーメッセージが表示されます。
- ・Facebook ページで再認証が必要な場合に送信される通知電子メールに、ページ名が含まれるようになりました。
- ・投稿が強化されて、失敗した投稿を即座に再試行し、必要に応じて 7 分でなく 15 分間再試行するようになりました。
- ・Windows で実行している Chrome ブラウザーで発生していた問題を修正しました。この問題により、ユーザーは、Excel からコピーしたリンクを手動で短縮化した後、テキストを入力できなくなっていました。
- ・Windows で実行する Internet Explorer 11 を使用している場合に、ユーザーが Word からテキストをコピーして投稿に貼り付けることができなかった問題を修正しました。
- ・Social で Twitter 投稿にアニメーション GIF を許可できていたために、「media_ids パラメーターが無効です」というエラーメッセージが表示されていた問題を修正しました。Twitter では、アニメーション GIF はサポートされていません。
- ・Facebook がブロックしているサイトへのリンクを含む投稿に失敗した場合に表示されるエラーメッセージおよび送信される電子メールメッセージを変更しました。

- リンクを含む Facebook 投稿が Facebook エラー 206 で失敗する問題を修正しました。
- Google+ 投稿が「接続が拒否された」または「バックエンドエラー」というメッセージが表示されて失敗する問題を修正しました。
- Google+ 投稿が失敗した場合にその理由を説明するためにユーザーに送信される電子メールのメッセージを変更しました。
- 投稿で、プロパティが追加されてから削除してもターゲットのリストに残っている問題を修正しました。
- 投稿のプロパティおよびオーディエンスのリストが読み込めない、また、ユーザーがプロパティおよびオーディエンスを選択解除できない問題を修正しました。
- 投稿で、ドラフトの投稿の読み込みが遅かった問題を修正しました。
- 投稿が強化され、Facebook 投稿でより大きなリンクのサムネイルを投稿できるようになりました。現在は、サムネイルは Social からリンクを投稿する場合や Facebook を使用して直接リンクを投稿する場合と同じです。
- 「自動短縮しても文字数の上限を超過している」というエラーメッセージが表示されてリンクを含むツイートに失敗する問題を修正しました。
- Social で、YouTube ビデオアナリティクスでレート制限をヒットできない問題を修正しました。
- URL にパイプ (|) を含むリンクを短縮できない問題を修正しました。
- 名前にハイフン (-) を含むルール変数が失敗していた問題を修正しました。
- 失敗の原因をよりの確に説明するために、リスニングルールのバルクアップロードに失敗した場合に表示されるエラーメッセージを変更しました。
- アプリケーションの郵便番号フォーム要素を使用する場合、実行時にアポストロフィ (') が表示される問題を修正しました。
- Social で Twitter アカウントを再認証すると、承認者が自動的に追加されていた問題を修正しました。
- ページグループの作成に成功すると、Social に緑色のバッジが表示されるようになりました。
- 多くのユーザーを含む Social からユーザーがユーザーグループを削除できなかった問題を修正しました。
- リストの次のユーザーグループにソーシャルプロパティの所有権を付与するために、ソーシャルプロパティの所有権と共にユーザーグループを削除する場合に発生していた問題を修正しました。
- SSL エラーのためにユーザーがメタデータを SAINT に送信できなかった問題を修正しました。

- 投稿にアプリケーションに関連付けられたキャンペーントラッキングが含まれる場合に Adobe Analytics が無効なアプリケーションエラーを表示することがありますが、この問題の原因を開発者が特定できるようにする機能が追加されました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Standard

修正点:

- エクスペリエンスのプレビューが期待どおり動作していなかった問題を修正しました。

トップ

Search&Promote 8.14.0

修正点

- `sqlite_open` に失敗する場合、古い SQLite データベースファイルが退避され、新しいファイルが最初から作成されます。
- 同じ検索が繰り返されると、主要な検索結果が異なっていた問題を修正しました。
- 検索結果ごとに多くのフィールドが出力される場合のテンプレート処理のパフォーマンスが向上しました。
- ビジネスルールの履歴にメモが追加されました。
- インデックス作成処理時に、結果ベースのトリガーおよびアクションのプレビューインデックス再生成フェーズのパフォーマンスが時間の経過と共に着実に低下する問題を修正しました。
- **SPIN キャッシュをリセット**オプションがいいえ/次回に実行のブール型から、いいえ/常に/次回に実行の 3 つの選択肢に変更されました。

トップ

Media Manager

Media Manager の新機能および修正点です。

- Data Integration Library (DIL) が更新され (バージョン 4.9)、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。

- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

[トップ](#)

Campaign

Campaign の新機能および修正点です。

Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。

ヘルプおよびサポートについては、[Adobe キャンペーンエクストラネット](#)にサインインしてください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager の新機能および修正点です。

最新リリースの情報については、次を参照してください。

- [Adobe Experience Manager](#)
- [Scene7 Publishing System リリースノート](#)

[トップ](#)

重要: このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Marketing Cloud 14.6; Social 3.3.1; Analytics - 訪問者 ID サービスの CNAME サポート、処理ルール内の条件付きアクションなど

ご案内: 「[Adobe Priority Product Update](#)」（英語）では、メンテナンスリリースにて追加されるソリューションの新機能および修正内容の情報をメールでお届けしております。購読をご希望の場合は、以下のサイトにて必要事項をご記入ください。

リリース日: 2014 年 6 月 20 日

- [Marketing Cloud と共有サービス](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud と共有サービス

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能・修正点です。

- [Marketing Cloud のインターフェイス](#)
- [Mobile Services 2.0](#)
- [Data Connectors](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Marketing Cloud 14.6.1

Adobe Marketing Cloud のコラボレーションおよび共有インターフェイスの新機能、修正点、既知の問題

機能改善

機能	説明
オーディエンスライブラリの「保存」ボタン	オーディエンス の作成時に、「新しいオーディエンスの作成」ページの必須フィールドがすべて入力されるまで「保存」ボタンが有効になりません。

既知の問題

- Marketing Cloud から削除されたファイルが Digital Asset Management から削除されません。
- ファイルをアップロードしたほうが、ドラッグ&ドロップよりも多くのファイルタイプを使用できます。最も良い結果を得るには、「アセット」を使用してアップロードしてください。
- Search&Promote リンクが「組織と製品へのアクセス」ページから利用できません。
- Analytics からトレンドレポートに適用したフィルターが、Marketing Cloud のカードに適用されません。
- 一部のユーザーは、オーディエンス管理アカウントを Marketing Cloud アカウントにリンクできません。
- 無操作状態が 15 分間続くとログアウトします。また、ある場所でログアウトすると、Marketing Cloud からログアウトします。
- 一部の PNG ファイルは、カードにレンダリングできません。
- 多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが遅くなる可能性があります。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud はじめに](#)」を参照してください。

トップ

Adobe Mobile サービス

このリリースでは更新はありません。

最新の情報について詳しくは、[Adobe Mobile Services の新機能](#)に関するページを参照してください。

トップ

Data Connectors

機能	説明
アップグレードされた JavaScript プラグインと AppMeasurement との互換性	実稼動およびベータ版で使用可能な統合用の data connectors JavaScript プラグインが AppMeasurement ライブラリと互換性を持つようになりました。

修正点

- 統合の設定を編集するときに、セグメントルールが二重に作成される問題を修正しました。

[トップ](#)

Dynamic Tag Management

最新および過去のリリースノート、ヘルプ、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Analytics

Adobe Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics の新機能](#)
- [Analytics Premium の新機能](#)
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [Data Workbench \(Analytics Premium\)](#)
 - [DataWarehouse](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)
- [Analytics Web サービス \(SOAP および REST API\)](#)

Analytics の新機能

機能	説明
処理ルール内の条件付きアクション	<p>処理ルール内で実行される任意のアクションに、そのルールをトリガーする全体条件に加えて、アクションごとに独自の条件を設定できるようになりました。</p> <p>この更新により、1つのルール内に複数の変数やイベントを設定したり、類似アクションを1つのルールにまとめることが可能になります。この変更により、設定可能な変数やイベントの数が、処理ルールの最大数によって制限されることはなくなります。</p>

機能	説明
訪問者 ID サービスの CNAME サポート	Analytics のサーバーに自社ドメインの CNAME と SSL 証明書を割り当てている ファーストパーティ cookie 実装 の場合でも、「s_vi」cookie に替わる新方式である訪問者 ID サービスを利用できるようになりました。CNAME がサポートされたことにより、1 つのレポートスイートで複数のサブドメインからデータを収集する企業が、状況によって複数ドメインにまたがる訪問者 ID を追跡可能になります。
訪問者 ID サービスの猶予期間	<p>訪問者 ID サービスの導入時に、複数の JavaScript ファイルから 1 つのレポートスイートにデータを送信する方式を採用している企業が、全ファイルを同時に更新するのではなく、段階的に更新するための設定可能期間を要求できるようになりました。</p> <p>この猶予期間を有効にすると、新規訪問者が、共有の Marketing Cloud ID のみを受け取るのではなく、引き続き Analytics ID を受け取るようになります。</p>
クリックストリームデータフィードで OS タイプが利用可能に	<p>クリックストリームデータフィードを利用して、現在「os」列を受信しているお客様は、2014 年 6 月 20 日より自動的に OS タイプに関する追加の参照ファイルを受信できるようになります。</p> <p>OS タイプにより、既存の OS 参照内の項目をオペレーティングシステムのタイプ（Microsoft Windows、Apple Macintosh、UNIX など）にまとめて、レポートをシンプル化できます。</p> <hr/> <p>重要: 現在「OS」列を受信している場合は、2014 年 6 月 20 日までに、この追加の参照ファイルを受信できるようにプロセスの準備をしておく必要があります。</p> <hr/>

Analytics Premium の新機能

「[Analytics の新機能](#)」に記載されている機能に加え、Analytics Premium には、次の新機能が追加されます。

機能	説明
Analytics ライブストリームで緯度と経度をサポート	<p>Analytics ライブストリームで緯度と経度のフィールドが使用可能になりました。緯度と経度は IP アドレスから割り出されます。</p> <p>ライブストリームデータをグラフ化すると、データ上に現れる市の緯度と経度を参照しなくても、アクティビティを地図上に簡単にプロットできます。</p>

Reports & Analytics

修正点

- ・ ページレポートで、日付の比較機能が平均滞在時間指標と適切に連動していなかった問題を修正しました。
- ・ 「**モバイル / デバイス**」レポートの内容が画面上とダウンロード版で一致していなかった問題を修正しました。画面上では非モバイルデバイスが「モバイル以外」と表示されるのに対し、ダウンロード版では「指定なし」と表示されていました。これはダウンロード版の .pdf および .csv ファイルでのみ確認されていた問題です。
- ・ モバイルレポートで、バウンス（直帰）指標が指標リストのオプションとして表示されなかった問題を修正しました。
- ・ マーケティングチャネルの分類がドロップダウンリストに 2 回表示される問題（ファーストタッチとラストタッチ）を修正しました。この問題のため、ファーストタッチレポートとラストタッチレポートの区別ができない状態になっていました。
- ・ 顧客がアラートを編集できませんでした。
- ・ **お気に入り / ターゲット / ターゲットの管理**でレポートを編集して保存した後に、そのレポートへのアクセスが拒否される問題を修正しました。
- ・ .csv 形式のレポートのフォーマットの問題を修正しました。
- ・ ダッシュボードレイアウトページの「**コンテンツの追加**」領域からブックマーク付きレポートを追加しようとするときに、そのブックマークがダッシュボードに追加する選択肢として表示されない問題を修正しました。
- ・ それぞれ異なるレポートスイート通貨を使用する 2 つのレポートスイートを比較するときに、2 つ目のレポートスイートの数値が 1 つ目のレポートスイートと同じ通貨に変換されない問題を修正しました。
- ・ ダッシュボード全体の日付範囲が個々のレポートレットの日付範囲と一致しない問題を修正しました。
- ・ ダッシュボードを削除しても、その週別レポートが引き続き提供される問題を修正しました。以前はこの問題のために、スケジュールを編集しようとしても、スケジュールマネージャー内では見つからないという状況が発生していました。
- ・ 日付範囲を変更するとフォールアウトレポートのインターフェイス上の変数値が変更される問題を修正しました。
- ・ **管理ツール / ユーザー管理 / Ad Hoc Analysis ユーザーの管理**のメッセージが正しく翻訳されていない問題を修正しました。
- ・ Reports & Analytics のレポートにリンクしたときのリダイレクトエラーの問題を修正しました。

- Internet Explorer 9 でダッシュボードのレイアウト機能が正しく機能しない問題を修正しました。

[トップ](#)

Report Builder

修正点

- Report Builder v5.0 が Charles や Fiddler などの Web デバッグツールの同時使用に対応していなかった問題を修正しました。
- 空のセグメントパラメーターを含むリクエストを実行すると、対応する予定タスクが失敗する問題を修正しました。
- パーセント指標が値の 100 倍として表示される問題を修正しました。
- 「電子メールに登録解除リンクを表示しない」オプションが機能しない問題を修正しました。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis

更新はありません。

Data Workbench

更新はありません。

最新のリリース情報については、[Data Workbench 6.2 の更新情報](#)を参照してください。

[トップ](#)

Data Warehouse

修正点

- 入口ページレポートで Reports & Analytics と Data Warehouse に同じセグメントを使用しているのに結果が異なる問題を修正しました。
- 「検索キーワード - すべて」がレポートされない問題を修正しました。
- Data Warehouse API からページ URL 変数が見えない問題を修正しました。
- 複数のネストした訪問コンテナまたは訪問者コンテナを含むセグメントを data warehouse で使用できない問題を修正しました。

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

[Analytics の新機能](#)を参照してください。

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript H コード（レガシー）

H.27.1

- Analytics と Target の統合に関し、一部のページで ID が重複する問題を修正しました。
Analytics と Target の統合で H コードを使用しているお客様は、データ消失の可能性を防ぐために、必ずこのバージョンにアップグレードしてください。

Marketing Cloud 訪問者 ID サービス

1.3

- Analytics の既存のファーストパーティのデータコレクションホスト名（cname）を Marketing Cloud 訪問者 ID サービスに使用できるようになりました。

[Analytics の新機能](#)を参照してください。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

[トップ](#)

Analytics Web サービス（SOAP および REST API）

更新

- `Segments.Get` と `Segments.Delete` がバージョン 1.4 に追加されました。
- レポートスイートのビデオ設定を取得および設定するために、`ReportSuite.GetVideoSettings` と `ReportSuite.SaveVideoSettings` が追加されました。
- ビデオ設定で `ReportSuite.GetSettings` が再び使用できるようになりました。

Social 3.3.1

Adobe Social の新機能および修正点です。

修正点および強化された機能

Social 3.3.1 では、パフォーマンス、拡張性、操作性、信頼性に重点を置いて機能強化と修正が行われました。これらの領域において、400 件以上に及ぶバックエンドの修正および機能強化が行われています。次に、お客様から報告された重要な問題を解決するために加えられた修正を示します。

- 更新後に表示されるマーケティングの概要ダッシュボード上のカスタム日付範囲に不一致が生じる問題を修正しました。ダッシュボードはカレンダーで選択された日付範囲に従いますが、カスタム範囲に表示される日付範囲が一致しないという問題がありました。最新のバージョンでは両方の日付が一致します。
- Facebook で作成された投稿に関する投稿一覧のロールアップ表示で、リンククリック数に「N/A」と表示される問題を修正しました。
- タグでフィルタリングしたときに、指定のタグを含まない YouTube 動画が投稿一覧レポートに表示される問題を修正しました。
- 投稿一覧レポートと投稿の詳細レポートに表示されるタイムゾーンが一貫しない問題を修正しました。
- ダウンロードした投稿一覧レポートが YouTube アカウントで選択したフィルターに従わない問題を修正しました。
- ユーザーのタイムゾーンのオフセットが YouTube 動画の投稿の詳細レポートの表示ページに正しく表示されない問題を修正しました。
- 投稿の詳細レポートの数値がネイティブな YouTube の数値と一致するように、Social でのビュー数指標の収集およびレポート方法を変更しました。
- YouTube プロパティに関するプロパティレポートのロールアップ表示とプロパティの詳細レポートに表示される指標の数値が一致しない問題を修正しました。
- 競合相手の分析レポートで一部の日付が重なってしまう表示上の問題を修正しました。

- 同じ名前を持つ2つの競合相手のページのデータが競合相手の分析レポートで1行にまとめられてしまう問題を修正しました。
- ソーシャルキャンペーンレポートが、レポートをリストビューモードで表示できるように強化されました。
- ユーザーがソーシャルキャンペーンレポートをダウンロードできない問題を修正しました。
- 新しいページの「いいね!」指標が競合相手の分析レポートおよびダウンロードされたレポートと一致しない問題を修正しました。
- Google+ ページおよび Twitter アカウントのプロパティレポートに上下の変更矢印が表示されない問題を修正しました。
- プロパティの詳細レポートの投稿のパフォーマンスセクションにエンゲージメントデータが表示されない問題を修正しました。
- Social が LinkedIn ページのプロパティの詳細レポートの非従業員のフォロワー指標に nil 値を送信する問題を修正しました。
- コンテンツカレンダーで投稿を編集する際にリンクタイトルが表示されない問題を修正しました。
- コンテンツカレンダーのテンプレートリストの読み込みに時間がかかる問題を修正しました。
- Facebook の投稿が危険または暴言と見なされて投稿が失敗したときにコンテンツカレンダーに表示されるエラーメッセージを改良しました。
- 発行者で投稿テキストの改行が無視される問題を修正しました。
- 発行者で、LinkedIn の投稿で画像リンクが正しく表示されているにもかかわらず画像のサムネイルが表示されない問題を修正しました。
- 発行者およびコンテンツカレンダーから Facebook の動画にサムネイルを追加できるようになりました。
- 短縮 URL が関連付けられた画像を含んでいる投稿が失敗する問題を修正しました。
- リンク短縮機能を、外部のリンク短縮サービスが利用できない場合はデフォルトで ctx.ly を使用するように改良しました。ctx.ly が利用できない場合は、リンクを短縮せずに投稿を行います。
- ダウンロード可能なモデレーションレポートを改良し、アクション時間およびコンテンツ時間列のデータにタイムゾーンが含まれるようにしました。
- 詳細の表示で、Facebook のプライベートメッセージに関する情報がモデレートフィードに表示されない問題を修正しました。
- モデレーション機能を改良し、非表示にされている Facebook の投稿がフィード内に表示されるようにしました。

- モデレートフィードを更新すると、すべての投稿を読み込めなくなる問題を修正しました。
- モデレーショングループの権限に、「統合モデレート統計にアクセスおよびエクスポートできます」、「統合モデレート設定を編集できます」、「統合モデレートを使用できます」などの権限を追加しました。
- ユーザーとグループのエクスポートファイルを改良し、詳しい権限情報が表示されるようにしました。
- Sina Weibo、YouTube、または LinkedIn アカウントの設定手順で画像をアップロードするときに発生する画像表示の問題を修正しました。
- ユーザーが所有する Facebook ページを、自身がそのページの所有権グループに属していない場合でも競合相手として追加できるようになりました。
- Social トラッキングコードのキャンペーンデータが分類アップロードファイルに追加されない問題を修正しました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Premium

Adobe Target Premium は、導入を簡略化し、操作性を高め、最適化を自動化し、売上高に大きな影響を与えます。

Target Premium は次の機能を含む新しい Adobe Target ライセンスです。

- Adobe Target Standard のワークフローと自動パーソナライゼーション機能の組み合わせ（Adobe Marketing Cloud では「Adobe Target Premium」と表示）
- Mobile App Optimization
- Adobe Target Classic のワークフロー
- Adobe Recommendations

オプションとして、Target Premium と一緒に Adobe Search&Promote 機能を購入可能です。

Adobe Target Standard

機能	説明
----	----

機能	説明
自動パーソナライゼーション	<p>自動パーソナライゼーションは、より良いデジタルエクスペリエンスを実現するために、エクスペリエンスのパーソナライズとコンバージョン率の向上を推進する高度な機械学習アルゴリズムを提供します。</p> <hr/> <p>注意： 自動パーソナライゼーションは Target Premium ソリューションの一部です。Target Premium ライセンスのない Target Standard には含まれません。Target Premium ライセンスをお持ちの場合は、Adobe Marketing Cloud 内の Target Premium カードが Target Standard カードに置き換えられます。</p> <hr/> <p>マーケティング担当者が 1 つのファイルをサイトに実装すると、任意のコンテンツをクリックして、その領域の追加のコンテンツオプションを視覚的に作成および選択できるようになります。その後は、モデリングシステムが各訪問者に関して持っているすべての行動データに基づいて、コンテンツのどの要素を配信するかをそれぞれのケースで自動的に判断します。この機能により、訪問者ごとにパーソナライズしたエクスペリエンスを提供することができます。マーケティング担当者は、テストを実行し、結果を分析し、それを踏まえて推奨結果を配信するという手順を踏まなくても、最適化による上昇を実感できます。</p> <p>自動パーソナライゼーションの主な機能を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2 種類の機械学習アルゴリズム： <ul style="list-style-type: none"> • デシジョンツリーアンサンブル • 残差分散モデル • 1 行のコード実装と WYSIWYG のコンテンツ編集機能 • Master Marketing Profile への接続により高度な訪問者行動データをシームレスに収集 <p>Master Marketing Profile と Target の連携については、Adobe Target 統合ガイドの「Master Marketing Profile とリアルタイムオーディエンス」を参照してください。</p>
1 つのページで複数のアクティビティに対応	1 つの Target 対応ページに複数のアクティビティを含めることができます。

修正点

- 削除された共有オーディエンスがオーディエンスリストに引き続き表示される問題を修正しました。
- Internet Explorer 10 で予期しない保存ダイアログボックスが表示される問題を修正しました。
- キャンペーン保存時の同期エラーを修正しました。
- エクスペリエンスのオーディエンスがレポートに表示されない問題を修正しました。
- 一部のアクティビティでエクスペリエンス B が表示されないエラーを修正しました。
- Target および Analytics の指標リストが一致しない問題を修正しました。
- ユーザーのグローバル mbox を、Target Standard で HTML コンテンツを配信するために使用される mbox として指定できる問題を修正しました。グローバル mbox をこのような形で使用すると、コンテンツの配信や、1 つのリクエストで 1 つのページに複数のキャンペーンを配信できる Target Classic の機能に悪影響が及びます。
- 削除した項目が引き続き表示されるエラーを修正しました。

Target Classic

このリリースから、Target Advanced の名称が Target Classic に変更になりました。

修正点

- mboxDebug が安全でないリクエストを作成する問題を修正しました。
- あるアカウントの mbox が別のアカウントで表示される問題を修正しました。
- トップレベルドメインの文字数が 2 文字のサイトに不正な cookie が送信される問題を修正しました。
- Target と Analytics が同じ DMA リストを使用しない問題を修正しました。
- 特定の条件下で訪問者の行動プロファイルパラメーターのリストの並べ替えができない問題を修正しました。
- 監査レポートに最近のデータが表示されない問題を修正しました。
- mbox を Internet Explorer 10 のデフォルト設定で表示する際の問題を修正しました。

トップ

Search&Promote 8.15.0

新機能

機能	説明
----	----

機能	説明
フレーズステミング	フレーズ内の同義語のステミングがサポートされるようになりました。Adobe Search&Promote でこの機能を有効にして使用するには、アドビのテクニカルアカウントマネージャーにお問い合わせください。

修正点

- ・ガイド付き検索の全体的なパフォーマンスが向上しました。
- ・属性ローダーが 404 エラーをスローする問題を修正しました。
- ・SPIN が大きすぎるテンプレートを生成しようとした場合に警告が表示される問題を修正しました。
- ・中国語、韓国語、日本語の形態素解析機能が更新されました。

トップ

Media Manager

Adobe Media Manager の新機能および修正点です。

Adobe Media Manager は、検索、表示およびソーシャル広告に対する変更の影響を正確に予測します。キャンペーンの管理や自動化に役立ち、他の影響の大きいイニシアチブのためにリソースが解放されます。

- ・Data Integration Library（DIL）が更新され（バージョン 4.9）、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。
- ・[Audience Management のリリースノート](#)。
- ・Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

トップ

Campaign

Adobe Campaign の新機能および修正点です。

Adobe Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。顧客の習慣や好みによって特定されたエクスペリエンスを利用して、顧客が欲しいものを予測できるようになりました。

製品ドキュメントについては、「[Adobe Campaign のドキュメント](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager および Scene7 の新機能および修正点です。

Adobe Experience Manager は、Web サイトの作成、管理、開発および公開を可能にする、エンタープライズ Web コンテンツ管理システムです。

製品ドキュメントについては、以下を参照してください。

- リリースノート：「[Adobe Experience Manager 6.0 リリースノート](#)」
- ヘルプホーム：[Adobe Experience Manager ヘルプホーム](#)
- Scene7 Publishing System：「[Scene7 Publishing System リリースノート](#)」

[トップ](#)

重要：このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Mobile Services: 刷新されたメニュー、概要レポートおよび購入系イベント用のコンテキストマッピングがリリースされます。**Dynamic Tag Management:** 管理者用の監査ログと日本語 UI を利用できます。**Analytics:** 異常値検出レポートにセグメントを適用できるようになります。**Reports & Analytics** のフォールアウトレポートからセグメントを作成できます。

ご案内: 「[Adobe Priority Product Update](#)」（英語）では、メンテナンスリリースにて追加されるソリューションの新機能および修正内容の情報をメールでお届けしております。購読をご希望の場合は、以下のサイトにて必要事項をご記入ください。

リリース日: 2014 年 7 月 18 日

- [Marketing Cloud と共有サービス](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud と共有サービス

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能・修正点です。

- [Marketing Cloud のインターフェイス](#)
- [Mobile Services 2.0](#)
- [Data Connectors](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Marketing Cloud 14.7.1

Adobe Marketing Cloud のコラボレーションおよび共有インターフェイスの新機能、既知の問題および修正点です。

既知の問題

- Marketing Cloud から削除されたファイルが Digital Asset Management から削除されません。
- 一部の Exchange ユーザーは、コメント内のユーザー名を検索して、わかりやすい名前の代わりに長い文字列の ID にすることができます。
- 一部の .png ファイルは、カードにレンダリングできません。

- ファイルをアップロードしたほうが、ドラッグ&ドロップよりも多くのファイルタイプを使用できます。最も良い結果を得るには、「アセット」を使用してアップロードしてください。
- Search&Promote リンクが「組織と製品へのアクセス」ページから利用できません。
- Exchange ユーザーは、エクスペリエンスを改善するために Cookie を消去する必要があります。
- 多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが遅くなる可能性があります。
- Marketing Cloud でコンテンツが共有されていない場合、Creative Cloud コンテンツが一部のユーザーのフォルダーから削除されることがあります。
- 無操作状態が 15 分間続くとログアウトします。また、ある場所でログアウトすると、Marketing Cloud からログアウトします。
- 一部のユーザーは、Audience Management アカウントを Marketing Cloud にリンクできない可能性があります。
- Exchange ユーザーは、言語セレクトターで英語のみ表示できます。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud はじめに](#)」を参照してください。

トップ

Adobe Mobile Services

2014 年 7 月 18 日の新機能および修正点には、主にメニューの合理化と様々なレポートの概要レポートへの統合が含まれています。カスタムデータ設定でのマッピングに、新しい標準変数および指標ページを利用できます。

機能	説明
新しいすべてのアプリメニュー	左上のアプリセレクトターメニューに すべて という項目が追加されました。また、このセレクトターにアプリ名を入力すると、部分一致で簡単にアプリを検索できます。
新しいアプリ設定を管理メニュー	設定は、アプリ設定を管理メニューに変更されました。このメニューは、使用方法、獲得、および場所 という 3 つのサブメニューで再構成され、合理化されました。

機能	説明
すべてのアプリの概要	<p>「すべてのアプリ」を選択すると、次のメニューを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概要: 各アプリの主要指標に関するレポートを表示します。 ・ アプリを管理: アプリを管理ページを表示します。 ・ Target のアクティビティを管理: Target アカウントにログインしてAdobe Target アクティビティを作成できます。
概要レポート	<p>メニューの合理化に加えて、多くのレポートが概要レポートに統合されました。</p> <p>例えば、国、地域、市区町村のレポートは、ロケーション / 概要レポートに統合され、国や地域などで分類できるサンバーストチャートが表示されます。</p>
アプリの情報の変更	<p>アプリの情報ページは、以前は設定 / <アプリ名> の設定 にありましたが、アプリ設定を管理というメニューをクリックすることでアクセスできるようになりました。</p> <p>設定画面は内容によってページ分割され、左のメニューからアクセスできます。これらのページは、次のように名前が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「カスタムデータ設定」は、「変数および指標を管理」になりました。（新機能です。詳しくは、後述の「標準変数および指標」を参照してください。） ・ 「ダウンロード計測用リンク」は、「ダウンロード計測用リンクを管理」になりました。 ・ 「目標地点」は、「目標地点を管理」になりました。

機能	説明
アプリ設定を管理 / 変数および指標を管理	<p>以前のカスタムデータ設定ページ（現在の 変数および指標を管理ページ）は、拡張されて、コンテキストデータマッピング用の3つのタブが含まれるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準変数および指標：（新機能）Product 関連の変数および指標（買い物かごや購入）のコンテキストデータマッピングを指定できます。また、Mobile Services での変数および指標の表示を有効または無効にすることができます。 カスタム変数：Analytics プロパティをテキスト値およびマッピングさせたいコンテキストデータ変数にマッピングできます。（新機能ではありません。） カスタム指標：マッピングさせたいコンテキストデータ指標イベントを選択できます。（新機能です。）
使用状況 / アクションパス	<p>ランク付けされたアクションレポートにパス情報が表示されるようになりました。（「カスタマイズ」をクリックしてランクレポートを表示します。）</p>
言語サポート	<p>フランス語、中国語、ドイツ語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語がサポートされるようになりました。</p>

その他の機能の情報および過去のリリースノートについて詳しくは、「[Mobile の新機能](#)」を参照してください。

改善点と修正点

- レポートスイートを作成する場合、**レポートスイート ID** フィールドに会社のプレフィックスが自動的に表示されるようになりました。この改善により、ID を入力する必要がなくなり、レポートスイートにプレフィックスを二重に追加してしまう可能性が減ります。
- iOS デバイスのダウンロード計測用リンクをコピーできるようになりました。
- バルクアップロードは、Safari 5 および IE 9 およびそれ以前のバージョンでサポートされなくなりました。
- ほとんどの設定ページで、操作をキャンセルするオプションが追加されました。
- ロケーションマップが マップ に名称変更されました。
- 郵便番号は、デフォルトではメニューに表示されなくなりました。また、カスタマイズパネルを使用して実行する場合、マップとして表示されなくなりました。

- ・ 詳細のラベルをより明確にしました（さらに詳細を表示 | 詳細を一部非表示にする）。
- ・ ブラウザーの印刷機能を使用する場合のレポートの表示方法を改善しました。
- ・ パスワードマネージャーの互換性を改善しました。
- ・ 変更者または 作成者の情報を、ダウンロード計測用リンクページに追加しました。
- ・ 現在のレポートをサポートしないアプリに切り替えた場合のメッセージを改善しました。
- ・ カスタムデータ設定ページの JavaScript エラーを修正しました。
- ・ ページの読み込み中、少しの間、ページタイトルに「未定義」と表示されていた問題を修正しました。
- ・ マルチランクレポートの一部にデータがない場合にエラーが発生していた問題を修正しました。
- ・ 目標地点ページの検証メッセージおよびインターフェイスのクリーンアップを修正しました。
- ・ カスタムデータコンテンツの保存時に発生していたエラーを修正しました。
- ・ 目標地点ページで発生していた Firefox がフリーズする問題を修正しました。
- ・ すべてのアプリの概要で正しい通貨記号が使用されない問題を修正しました。
- ・ ランクレポートのインスタンス指標の合計で発生していた問題を修正しました。
- ・ アプリ設定を管理ページでキャンセルすると、不適切なポップアップが表示されていた問題を修正しました。
- ・ カスタマイズパネルでランクレポートにパスを切り替えると発生していた問題を修正しました。
- ・ アプリを管理ページの「選択項目を削除」ボタンのバグを修正しました。
- ・ 主要指標が適切に保存されなかった問題を修正しました。

[トップ](#)

Data Connectors

修正点

- ・ 統合設定を編集すると、重複したセグメントルールが作成されていた問題を修正しました。
- ・ Data Connectors で、カスタムセグメントを電子メールマーケティング統合に追加できない問題を修正しました。

[トップ](#)

Dynamic Tag Management

2014 年 7 月 25 日

7 月 25 日に予定されている Adobe Analytics の機能に関する最新情報については、次を参照してください。

[将来に備える - 7 月 25 日に予定されているリリースに関する情報](#)

2014 年 7 月 11 日

2014 年 7 月 11 日に予定されている機能および修正点です。

機能	説明
管理者用の監査ログ	<p>左側のパネルにある「ログ」をクリックして、監査ログページを表示します。</p> <p>管理者は、ログインカンパニー内で行われたすべてのアクティビティおよびアクセスした Web プロパティのリストを表示、フィルタリング、書き出しできます。この機能は、監査およびトラブルシューティングの両方の目的に役立ちます。</p> <p>例えば、次のオプションで表示およびフィルタリングできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• ログイン成功• アカウント名• IP アドレス• 会社• Web プロパティ（および作成者と作成日時の確認）• 役割、およびその他 <p>ログデータを .csv に書き出すこともできます。</p>
言語セクター	<p>Dynamic Tag Management は、Marketing Cloud の他の機能と同じ言語（英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、韓国語、ポルトガル語、日本語、繁体字中国語、簡体字中国語）で使えるようになりました。</p> <p>「アカウントの設定」で、言語メニューをクリックして言語を指定します。</p>

機能	説明
Adobe Target ツールの同期読み込み	<p>この機能を有効にするには、次を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Target ツール設定ページに移動します。 2. 「Adobe Target ライブラリを同期的に読み込む」を有効にします。 <hr/> <p>メモ： この値は、Adobe Target ツールの新しいインスタンスに対してデフォルトで有効になります。また、ツールの既存のインスタンスに対して、デフォルトで無効になります。</p> <hr/> <p>Adobe Target ツールの既存のインスタンスは、設定が <i>同期</i> に変更されるまでは、引き続き非同期で読み込まれます。</p>

修正点

- ・プロパティを無効にしてから有効にすると、プロパティの再有効化時に、承認キューの項目がシステムによって自動的に発行されていた問題を修正しました。
- ・管理者用に、「埋め込み」タブにメッセージを追加しました。このメッセージは、「発行」が明示的にクリックされない限り、実稼動環境にコードが発行されないことを示すリマインダーです。この修正は、まだ公開していないために、本番用ライブラリで *404 未検出エラー* が表示されたユーザーが混乱するのを避けるために行われました。
- ・大文字と小文字が異なる同じユーザーで、登録が重複する可能性がある問題を修正しました。（例：user@DOMAIN.com と user@domain.com）
- ・特定の変数またはプロパティを削除した後、Adobe Analytics で *eVar* または *prop* の値を再追加または編集できない問題を修正しました。
- ・承認されたツールまたは発行されたツールを拒否してからツールを更新しても、新しいエントリが承認キューに生成されなかった問題を修正しました。
- ・Adobe Analytics で、「常に追跡」および「追跡しない」のツール設定オプションがライブラリに正しい値を生成せず、データ収集の効果がなかった問題を修正しました。
- ・無効な正規表現を入力すると、インターフェイスが壊れ、ページを再読み込みする必要があった問題を修正しました。
- ・Google Analytics イベントタグで、「すべてのフィールドに入力してください」エラーがルールに表示されても、ルールを保存できない、または追加の編集ができず、ページを再読み込みする必要があった問題を修正しました。

Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。最新および過去のリリースノート、ヘルプ、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

ださい。

[トップ](#)

Analytics

Adobe Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics の新機能](#)
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [Data Workbench \(Analytics Premium\)](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)

Analytics の新機能

機能	説明
ログイン失敗時の変更	ログインプロセスで、何回か失敗した後、ユーザーをロックする代わりに、パスワードの再入力を試みるまでの待機時間がより長くなります。5 回目の入力では 15 秒かかります。この待ち時間は、失敗するたびに倍になります（最大 120 秒）。
異常値検出レポートへのセグメントの適用機能	異常値検出に新しいセグメントセレクターが追加されました。セグメントが異常値検出レポートに適用できるようになりました。
Reports & Analytics : フォールアウトレポートからのセグメントの作成機能	「フォールアウトパスからセグメントを作成」リンクがセグメントビルダーに移動するフォールアウトレポートに追加されました。リンクをクリックすると、フォールアウトレポートからチェックポイントを使用する、連続するセグメント定義が自動的に作成されます。

バーチャルフォーカスグループレポート

今後のリリースで、バーチャルフォーカスグループレポートが Ad Hoc Analysis から削除されます。

Analytics Premium の新機能

Data Workbench 6.2.1 のリリースで、「[Analytics の新機能](#)」に記載されている機能に加え、Analytics Premium には、次の新機能が追加されます。

新機能	説明
テキストおよび折り返し テキストの垂直スクロールバー	テキストおよび折り返しテキストボックスに垂直スクロールバーが表示されるようになりました。
ワークトップ上のサムネールの並べ替え	ワークトップ上の名前の並べ替えで大文字と小文字を区別しなくなり、アルファベット順で ABCDcd ではなく、ABCcDd になります。
親ディメンションに基づいたディメンションの検索	ファインダーパネルで、「ディメンション」タブを右クリックして、ディメンションタイプ／親でをクリックして選択できるようになりました。トップレベルの可算ディメンションが表示されます。これらの親ディメンションのうちの1つを選択すると、従属ディメンションの一覧が検索結果に表示されます。
外部アプリケーションを開くことを確認するダイアログ	<p>Data Workbench で初めて外部ファイルを開く際に、ダイアログボックスが表示されるようになりました。例えば、メモ帳を使用してテキストファイルを初めて開く場合です。</p> <p>また、これにより、クライアントがインストールされたフォルダーに InsightSES.dat というローカルファイルが作成されます。</p>
ツールバーのボタンへの変更	<p>insight.cfg ファイルの Toolbar Icons 引数を false に変更することで、Data Workbench 6.2 で提供される新しいツールバーアイコンの使用をオプトアウトできます。</p> <div><pre>Toolbar Icons = bool: false</pre></div> <p>この変更を有効にするには、クライアントを再起動する必要があります。</p>

新機能	説明
スコアリングとディシジョンツリーのビジュアライゼーションのリセットオプション	<p>傾向スコア（ビジュアライゼーション／予測分析 / スコアリング／モデルビューア）およびディシジョンツリー（ビジュアライゼーション／予測分析 / 分類 / ディシジョンツリービルダー）ビジュアライゼーションで、2つのリセットオプションが使用できるようになりました。</p> <p>モデルをリセット — モデルを消去しますが、設定と入力は維持します。「Go」ボタンが選択可能になります。</p> <p>すべてリセット — すべての設定をリセットします（以前の設計）。</p>

Analytics Premium の Data Workbench のその他の更新を確認するには、「[Data Workbench 6.2.1 リリースノート](#)」の新機能の節を参照してください。

Reports & Analytics

修正点

- モバイルアプリ／アプリアクティビティレポート／アクション名レポートにフィルターを適用できない問題を修正しました。現在は、このレポートに期待どおりにフィルターが適用されます。
- 最小・最大値を表示するように設定されたレポートスイートサマリダッシュボードの計算指標で、選択した日付範囲外の高い日付または低い日付をレポートすることがある問題を修正しました。現在は、計算指標は、これらのダッシュボードで選択した日付範囲内の高い日付または低い日付をレポートします。
- 再来訪レポートが修正され、同じ日に発生した再来訪が含まれるようになりました。
- オペレーティングシステムレポートで、一部のバージョンが2回表示される問題を修正しました。
- イベント 50 以上でヒンジイベントの数値 2 分類を修正しました。
- 新しいセグメントが Adobe Analytics および Adobe Campaign data connector で使用できない問題を修正しました。現在は、新しいセグメントが data connector の設定 / 「データ設定」タブに、期待どおりに表示されます。
- 直帰数指標が、時間外のトラフィックレポートによってサポートされるようになりました。
- 平均ページの深さ指標で、間違ったページを含む可能性があり、その結果、一部の環境で高く表示されることがある問題を修正しました。このリリース以降、この指標が減少していることがあります。
- カスタムレポートで日付範囲を変更すると発生していた問題を修正しました。カスタムレポート名からデフォルトのレポート名に変更されました。

- ・「リファラータイプ」レポートを「参照ドメイン」でクロス集計できなかった問題を修正しました。
- ・ダウンロードしたダッシュボードレポートで、フォールアウトレポートの書式の問題を修正しました。
- ・マーケティングチャネル処理ルールの位置を変更しようとするが発生していた問題を修正しました。
- ・Reports & Analytics 内の任意のレポートへのリンクを開こうとするが発生していたリダイレクトのエラーを修正しました。
- ・ユーザーが管理ツールからスケジュールレポートに受信者の電子メールを追加できなかった問題を修正しました。

[トップ](#)

Report Builder

修正点

- ・内訳レポートで、モバイル／デバイスタイプ「その他」の精度にデータが表示されなかった問題を修正しました。
- ・行ラベルとして指標ヘッダーを持つ多次元リクエストで、最初の次元のすべての項目が返されなかった問題を修正しました。
- ・Report Builder リクエストを含む Excel ファイルを Excel で保存できなかった問題を修正しました。これは、ヌルのラベルを持つレポートスイートにアクセスできる会社にログインした後にのみ発生していました。
- ・ハイフンを使用した名前のユーザーが共有ライブラリのワークブックをダウンロードできなかった問題を修正しました。
- ・セグメントの下にリストされた「アクセスできない/削除されたセグメント」を含む Report Builder リクエストの編集の問題を修正しました。この結果、エラーメッセージが表示されていました。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis

修正点

- ・Ad Hoc Analysis の仮想フォーカスグループは、10 月のリリースで削除されます。VFG レポートの上部に、この機能が将来削除されるという通知が表示され、VFG レポートアイコンの上にマウスポインターを置くと、レポート画面にツールチップが表示されます。

Data Workbench

修正点

- 従来の**トラフィックプロファイル**内の**ブラウザー**および**オペレーティングシステム**参照ファイル（例: Lookups\Traffic\Browsers.txt）が更新されなかった問題を修正しました。代わりに、**トラフィックプロファイル**の設定が DeviceAtlas バンドル（Lookups\DeviceAtlas\DeviceAtlas.bundle）を利用してこの設定情報を提供します。
- Data Workbench 6.2.1は、32 ビットクライアントアプリケーションのダウンロードを提供する最後のリリースになります。将来のすべてのクライアントアプリケーションのダウンロードは 64 ビットとなり、引き続き Windows 7 またはそれ以降が必要となります。6.1 リリースから開始される 64 ビットアプリケーションの導入により、32 ビットアプリケーションのメモリの制限に対処します。

メモ : Data Workbench クライアントアプリケーションの 32 ビットバージョンは、クラスタリングおよびスコアリング機能を使用する予測モデルを実行すると、メモリ制限に関連する潜在的な問題が発生する可能性があります。

新機能、更新、およびその他のリリース情報については、「[Analytics Premium](#)」を参照してください。

トップ

クリックストリームデータフィード

このリリースでは更新はありません。

トップ

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

このリリースでは更新はありません。

JavaScript H コード（レガシー）

このリリースでは更新はありません。

Marketing Cloud 訪問者 ID サービス

このリリースでは更新はありません。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

トップ

Social

Adobe Social 3.3.2 での修正点および強化された機能

修正点および強化された機能

Social 3.3.2 では、パフォーマンス、拡張性、操作性、信頼性に重点を置いて機能強化と修正が行われました。これに関するバックエンドの修正および機能強化は、150 近くに及びます。次に、お客様から報告された重要な問題を解決するために加えられた修正を示します。

- Adobe Analytics で、サイト KPI と共に所有されている Social プロパティおよび投稿 KPI を評価する機能が追加されました。このデータは、Analytics ダッシュボードに統合したり、Report Builder に取り込んだり、Ad Hoc Analysis および Data Warehouse で使用したりできます。
- アカウントがシンガポールのデータセンターを使用している場合に、ソーシャルバズレポートの関連キーワードレポートレットが読み込めない問題を修正しました。
- ソーシャルバズレポートを書き出そうとすると、「ファイル形式またはファイル拡張子が無効」というエラーメッセージが表示される問題を修正しました。
- ソーシャルバズレポートからデータを書き出した後、エラーメッセージが表示されたり、ファイルが開けなくなる問題を修正しました。
- ユーザーがソーシャルバズレポートのセンチメントを更新できなかった問題を修正しました。
- アカウントに多くのキャンペーンが含まれる場合に、マーケティングの概要ダッシュボードのキャンペーンレポートレットが読み込めない問題を修正しました。
- Facebook フォトアルバムまたは Facebook のカバー写真の投稿を表示するための、コンテンツカレンダーの「投稿を表示」をクリックできない問題を修正しました。

- コンテンツカレンダーが強化され、リスト表示、月単位の表示、または週単位の表示からプラットフォーム（Facebook、Twitter、Google+ など）上の投稿を表示できるようになりました。
- 投稿およびコンテンツカレンダーが強化され、Twitter 上のアニメーション .gifs がサポートされるようになりました。
- コンテンツカレンダーで特定のフィルターが適用されなかった問題を修正しました。例えば、ユーザーが 1 つまたは複数のプロパティを指定し、次に承認待ちフィルターを指定した場合、コンテンツカレンダーには、ソーシャルプロパティフィルターで選択された以外のプロパティの投稿が表示されていました。
- 投稿およびコンテンツカレンダーが強化され、関連するソーシャルプロパティが再認証される必要があるため、投稿が失敗したことを示すアイコンが表示されるようになりました。ユーザーは、このアイコンの上にマウスカースルを重ねることで、プロパティを認証するためのメッセージとリンクを表示できます。
- 最新の Twitter ライブラリに更新され、すべてのドメインが正しく短縮化されるようになりました（文字数が正確になりました）。
- ハッシュタグが Twitter プレビューで追加されたにもかかわらず、Facebook および Google+ の投稿で表示されていた問題を修正しました。
- リスニングルールのバルク削除機能で、検索結果を反映していなかった問題を修正しました。例えば、ユーザーがアクティブなルールページ（設定 / **リスニングルール** / **アクティブ**）で検索語を指定し、返されるすべてのリスニングルールを選択するためにリストの上部のチェックボックスを選択して、「削除」をクリックしても、期待するより多くのルールが削除されていました。
- 新しく作成したリスニングルールのデータ収集が開始されるまでの遅延が、期待するより長かった問題を修正しました。
- Facebook 投稿がキャンペーンに関連付けられているにもかかわらず、トラッキングコードが分類インポーター（SAINT）イベントに送信されていなかった問題を修正しました。

トップ

Media Manager

Adobe Media Manager の新機能および修正点です。

Adobe Media Manager は、検索、表示およびソーシャル広告に対する変更の影響を正確に予測します。キャンペーンの管理や自動化に役立ち、他の影響の大きいイニシアチブのためにリソースが解放されます。

- Data Integration Library（DIL）が更新され（バージョン 4.9）、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。

あります。

- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

[トップ](#)

Campaign

Adobe Campaign の新機能および修正点です。

Adobe Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。顧客の習慣や好みによって特定されたエクスペリエンスを利用して、顧客が欲しいものを予測できるようになりました。

製品ドキュメントについては、「[Adobe Campaign のドキュメント](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager および Scene7 の新機能および修正点です。

Adobe Experience Manager は、Web サイトの作成、管理、開発および公開を可能にする、エンタープライズ Web コンテンツ管理システムです。

製品ドキュメントについては、以下を参照してください。

- リリースノート：「[Adobe Experience Manager 6.0 リリースノート](#)」
- ヘルプホーム：[Adobe Experience Manager ヘルプホーム](#)
- Scene7 Publishing System: 「[Scene7 Publishing System リリースノート](#)」

[トップ](#)

重要：このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386

Marketing Cloud リリースノート

まとめ：Adobe Social 3.3.3 リリース。Dynamic Tag Management - Marketing Cloud ID サービス対応。Marketing Cloud およびソリューションの修正と改善。

ご案内：「[Adobe Priority Product Update](#)」（英語）では、メンテナンスリリースにて追加されるソリューションの新機能および修正内容の情報をメールでお届けしております。購読をご希望の場合は、以下のサイトにて必要事項をご記入ください。

リリース日：2014 年 8 月 22 日

- [Marketing Cloud と共有サービス](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

Marketing Cloud と共有サービス

Adobe Marketing Cloud および共有機能の新機能・修正点です。

- [Marketing Cloud のインターフェイス](#)
- [Mobile Services 2.0](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Marketing Cloud 14.8.1

Adobe Marketing Cloud のコラボレーションおよび共有インターフェイスの新機能および修正点です。

機能	説明
Mobile Services	左側のナビゲーションから Adobe Mobile Services にアクセスできるようになりました。

機能	説明
新しいドキュメント URL	Marketing Cloud ヘルプのランディングページは、次の URL に変更されました。 https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/mcloud/ ブックマークしている場合は更新してください。

既知の問題

- ・ユーザー管理で行ったグループおよび権限付与の変更は、新しくログインした後でのみ有効になります。
- ・PDF からカードを作成してボードに共有することができない場合があります。
- ・ボードへのアセットのアップロードで問題が発生する場合があります。
- ・Target から Marketing Cloud にログインできない場合があります。
- ・Audience Management で、Marketing Cloud にログインできない場合があります。
- ・古くなったアセットに関するエラー通知を受信する代わりに、そのアセットを削除できてしまう場合があります。
- ・Marketing Cloud から削除されたファイルが Digital Asset Management から削除されません。
- ・ボードで PowerPoint ファイルを共有できません。
- ・一部の .png ファイルは、カードにレンダリングできません。
- ・多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが低下する可能性があります。
- ・Search&Promote リンクが「組織と製品へのアクセス」ページから利用できません。
- ・Marketing Cloud でコンテンツが共有されていない場合、Creative Cloud コンテンツが一部のユーザーのフォルダーから削除されることがあります。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud はじめに](#)」を参照してください。

トップ

Adobe Mobile Services

Adobe Mobile Services により、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。現在は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

修正点および改善点

- Adobe Mobile Services ヘルプのランディングページは、次の URL に変更されました。
https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/mobile/
ブックマークしている場合は更新してください。
- アクセシビリティを向上させるために、コントラストが上がるようにインターフェイスの色が更新されました。
- オフライン対応のレポートスイートを作成する機能が追加されました。つまり、オフライン対応の（タイムスタンプ機能が有効化された）レポートスイートからコピーすると、新しいレポートスイートはオフライン対応になります。モバイルアプリテンプレートも、オフライン対応になります。
- ログの改善：初回ログイン時に、モバイルアプリケーションのレポート機能が有効になったレポートスイートが Adobe Mobile Services に自動的に追加されることについて、ログに表示されるようになりました。
- トレンドレポートの並べ替え順が正しくなかった問題を修正しました。
- iPad での目標地点の設定ページのレイアウトで発生していた問題を修正しました。
- ダウンロード計測用リンクの検証を改善し、「利用可能」のステータスを正しく表示するようにしました。
- ダウンロード計測用のトラッキングコードが Analytics 側で表示されなかった問題を修正しました。この修正により、*s.campaign* にダウンロード計測用追跡コードが自動的に設定されるようになりました。
- 新しいレポートスイートを作成したときに、リスト変数がコピーできなかった問題を修正しました。
- アカウントの設定ダイアログボックスの組織の検索で発生していた問題を修正しました。
- Windows 8 および 8.1 の Internet Explorer での中国語の自動検出を改善しました。
- eVar に依存するカスタム処理ルールがある場合に、ユーザーは eVar を無効にできなくなりました。
- Internet Explorer で、ストアアプリの検索リストをスクロールする際に発生していた問題を修正しました。
- Internet Explorer で、中国語および韓国語が正しく表示されていなかった問題を修正しました。
- 初回起動コホートでの並べ替えで発生していた問題を修正しました。
- ダウンロード計測用リンクで、スペースがプラス記号（+）としてエンコードされていた問題を修正しました。
- iPad で発生していた原因不明のクリックの問題を修正しました。
- 通知リストの表示と動作に関するマイナーな問題を修正しました。

詳しくは、「[Mobile の新機能](#)」を参照してください。

トップ

Dynamic Tag Management

注意: Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。最新および過去のリリースノート、ヘルプ、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

2014 年 8 月 8 日

機能	説明
Marketing Cloud ID サービス	Marketing Cloud ID サービスをツールとして追加できるようになりました。 詳しくは、 Marketing Cloud ID サービス （ <i>Dynamic Tag Management</i> ヘルプ）を参照してください。

修正点および改善点:

- Dynamic Tag Management ヘルプのランディングページは、次の URL に変更されました。
https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/dtm/
ブックマークを更新してください。
- Analytics アカウントを以前のバージョンに戻すと 404 エラーが発生する問題を修正しました。
- 承認者が承認可能な項目を確認しながら以前のバージョンで詳細を表示しようとする、適切なセクションが展開できなかった問題を修正しました。
- Adobe Analytics ツール設定で Cookie の Visitor Namespace を指定できるようになりました。
- Dynamic Tag Management 全体で使用されるコードエディターがアップグレードされ、非常に長いコードのサポートを含む追加機能が提供されます。
- Analytics ルール UI で指定したイベントが、`s.t()` を明示的に実行した場合、データ収集の一部として送信できなかった問題を修正しました。
- 強制的に小文字に変換するオプションが Google ユニバーサルアナリティクスで機能しなかった問題を修正しました。
- データ要素用の CSS セレクターで指定されたとおりに定義された属性を持たない DOM 要素を指定した場合、デフォルト値が返されなかった問題を修正しました。
- Analytics ツールを以前のバージョンに戻しても、そのアカウントのすべての要素が元に戻らず、ツールの古い設定と新しい設定が混在してしまっていた問題を修正しました。

Analytics

Adobe Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics](#) の新機能
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [DataWarehouse](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement](#) およびモバイル SDK

Analytics の新機能

機能	説明
Data Warehouse セグメントでの「一致」および「一致しない」のサポート	Data Warehouse では、セグメント定義で「一致」および「一致しない」をサポートするようになりました（Reports & Analytics および Ad Hoc Analysis では、既にサポートされています）。
配信レポートマネージャーに追加されたレポートファイル名	配信レポートマネージャーに、「 ファイル名 」列を追加できるようになりました。

Reports & Analytics

修正点

- 次のページレポートを Excel または CSV でダウンロードすると、正しいデータが表示されていなかった問題を修正しました。PDF および Word では、正しいデータが表示されていました。
- **マーケティング / マーケティングチャネル / マーケティング チャネル概要レポート**を Excel 形式でダウンロードできなかった問題を修正しました。
- ユーザーがダッシュボードを削除しても、定期配信レポートが配信され続け、さらに予定レポートマネージャーに表示されていなかった問題を修正しました。
- ダッシュボードの管理の**コピー**で共有ダッシュボードをコピーする場合、コピーされたダッシュボードで、元のダッシュボードのスケジュールが継承され、元のダッシュボードからは失われていた問題を修正しました。

- ・セグメント化：サブコンテナの除外が、Internet Explorer で赤く表示されなかった問題を修正しました。
- ・リスト変数がデータ抽出レポートで使用できなかった問題を修正しました。
- ・ユーザーがトラフィック関連レポートへのアクセス権を持っていたとしても、クロス集計を使用できなかった問題を修正しました。
- ・発行ウィジェットで、正しいデータ範囲を表示していなかった問題を修正しました。
- ・レポートスイート選択の検索フィールドが、特定のレポートスイートに対して動作していなかった問題を修正しました。
- ・ダッシュボードにセグメントを適用した後、「保存」ボタンが使用できなかった問題を修正しました。
- ・配信レポートマネージャーに配信レポートが表示されなかった問題を修正しました。
- ・配信**レポートマネージャー / ログ**を表示内で検索すると、フィルターは選択したデータ範囲を遵守せず、デフォルトで 2014 月 5 月から 7 月に戻ってしまう問題を修正しました。
- ・デバイスタイプレポートで、Amazon Kindle Fire HD が正しく識別されなかった問題を修正しました。このデバイスは、現在は正しくレポートされます。
- ・デバイスタイプレポートで、一部の Android 4.4.2 スマートフォンが Linux OS としてレポートされていた問題を修正しました。これらのデバイスは、現在は正しくレポートされます。

[トップ](#)

Report Builder

修正点

- ・レポートに今日のデータを含めた場合、一部のタイムゾーンが正しく更新されなかった問題を修正しました。レポートスイートのタイムゾーンに基づいて更新されるようになります。
- ・ブックマークとダッシュボードを取得すると、Report Builder の認証が遅くなっていた問題を修正しました。ブックマークとダッシュボードの取得をリクエストウィザードのステップ 1 に移動することで、この問題を解決しました。ユーザーがブックマークとダッシュボードをクリックした場合にのみ、ブックマークとダッシュボードが読み込まれるようになりました。
- ・いくつかのリクエストを含む一部のワークブックを更新すると、エラーが発生していた問題を修正しました。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis

修正点

- 本日レポートで、一部のタイムゾーンが正しく更新されなかった問題を修正しました。この修正により、本日レポートは、期待どおりに更新されます。
- マーケティングチャネルのインスタンス指標が Ad Hoc Analysis の左側のウィンドウに表示されなかった問題を修正しました。現在はインスタンス指標が正しく表示されるようになっています。
- プロジェクトに名前を付けて保存機能が、以前のバージョンで動作していませんでした。現在は修正されました。

Data Warehouse

修正点

- リファラーレポートが内部リファラーを正しくレポートしていなかった問題を修正しました。
- 通貨指標で訪問レベルの分類を使用して Data Warehouse レポートを実行すると、間違ったデータを表示していた問題を修正しました。

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

1.4

- バージョン 15 ではプラグインのレポートは存在しないため、ブラウザープラグインの追跡（p クエリーパラメーター）は削除されました。
- ダウンロード用 zip に Audience Management モジュールが追加されるようになりました。

JavaScript H コード（レガシー）

H.27.3

- 今後追加される機能をサポートするために、内部変更されました。

Marketing Cloud 訪問者 ID サービス

1.3.1

- 訪問者の認証状態を追跡するために、setAuthState メソッドが追加されました。
- cookieDomain 設定変数が追加され、自動的に識別できないドメイン用に cookie が設定されたドメインを指定できるようになりました。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

トップ

Social

Adobe Social 3.3.3 リリースの新機能および修正点です。

機能	説明
Social の新しいユーザーインターフェイス	Social 3.3.3 リリース（14/08/22）では、新しいユーザーインターフェイス（UI）が導入されます。 詳しくは、 新しい Social のインターフェイスの変更 （ <i>Adobe Social</i> ヘルプ）を参照してください。
新しいドキュメント URL	Social ドキュメントは、次の場所に移動されました。 https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/social/ ブックマークしている場合は更新してください。

機能	説明
新しいトレーニングビデオ	<p>14 個の新しいトレーニングビデオが追加され、古いビデオが削除されました。</p> <p>新しいビデオは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規ユーザーオリエンテーション：Adobe Social ・ 新規ユーザーオリエンテーション：発行 ・ 新規ユーザーオリエンテーション：コンテンツカレンダー ・ 新規ユーザーオリエンテーション：モデレート ・ 新規ユーザーオリエンテーション：Analytics ・ 新規ユーザーオリエンテーション：ソーシャルキャンペーン ・ 会話の監視と対応方法 ・ プロパティと投稿一覧の取り込みとカスタマイズ方法 ・ 失敗した投稿のトラブルシューティング方法 ・ ソーシャルキャンペーンの設定方法 ・ ソーシャルキャンペーンプロパティの取り込みとカスタマイズ方法 ・ Social アカウントの再認証方法 ・ リスニングルールの作成方法 ・ モデレートフィードの作成方法 <p>Social トレーニングビデオを参照してください。</p>
統合モデレート	<p>好感度を調整：モデレートフィードからの投稿の好感度を調整できるようになりました。</p> <p>モデレートフィードをストリーミング：モデレートフィードをストリーミングして、フィードを新しいコンテンツで自動的に更新できるようになりました。</p> <p>機械翻訳を表示： Social UI で表示している言語以外の言語でフィードを作成する場合、または、異なる言語の投稿を既存のモデレートフィードに表示している場合、各投稿のタイルにある「翻訳を表示」をクリックして、投稿のテキストの機械翻訳を表示できます。</p> <p>フィード内検索： 虫眼鏡アイコンをクリックして、検索ボックスにコンテンツを入力することで、各モデレートフィードを検索します。</p>

修正点

上記に説明した新機能および機能強化に加えて、Social 3.3.3 には、パフォーマンス、拡張性、操作性および信頼性を向上させることに重点を置いた修正点があります。これらの領域において、570 件以上に及ぶバックエンドの修正および機能強化が行われています。次に、お客様から報告された重要な問題を解決するために加えられた修正を示します。

- ・ モデレートの概要ダッシュボードの書き出しファイルが強化され、「アクション時間」および「コンテンツ時間」列にタイムゾーンが追加されるようになりました。
- ・ アカウントトークンが無効になっていることが原因で、YouTube データがプロパティレポートおよび投稿レポートに表示されなかった問題を修正しました。
- ・ 投稿レポートの書き出しファイルにフィルター設定が反映されなかった問題を修正しました。
- ・ 投稿一覧レポートを書き出すと、書き出しに成功していてもエラーメッセージが表示されていた問題を修正しました。
- ・ 多数の投稿結果をリクエストする場合、ソーシャルバズレポートの書き出しに失敗していた問題を修正しました。
- ・ ソーシャルキャンペーンレポートとキャンペーンの詳細レポートの間で売上に相違があった問題を修正しました。
- ・ Social の様々なレポートの間でメンションの数に相違があった問題を修正しました。
- ・ 関連付けられたキャンペーンを含む Facebook 投稿の追跡コードが SAINT に送信されなかった問題を修正しました。
- ・ コンテンツカレンダーを使用して顧客が追加した内部メモが保存されなかった問題を修正しました。
- ・ コンテンツカレンダーで設定したフィルターおよびタグが、ブラウザを更新するとリセットされていた問題を修正しました。
- ・ コンテンツカレンダーのフィルタリングに、ユーザーのタイムゾーンが反映されるようになりました。
- ・ LinkedIn 投稿を地域情報でターゲティングする際に発生していた UI の書式の問題を修正しました。
- ・ 投稿およびコンテンツカレンダーで、日本語、繁体字中国語、簡体字中国語、または韓国語が続くハッシュタグ（#）を挿入すると、予期しない文字が表示される問題を修正しました。
- ・ モデレート通知電子メールメッセージが失敗する問題を修正しました。
- ・ エスカレーションが解決済みとマークされても、エスカレーションステータスが要求済みのままになっていた問題を修正しました。

- ・ 非アクティブなルールが非アクティブページ（設定 / ルール / 非アクティブタブ）に表示されなかった問題を修正しました。
- ・ 電子メール通知を 最小に設定していても、ドラフト投稿が作成されると、電子メール通知が顧客に送信されていた問題を修正しました。
- ・ 顧客がこのテンプレートを表示リンクをクリックして、Social にログインし、投稿用に新しいテンプレートを使用できますという電子メールメッセージを受け取った後、空白のページが表示される問題を修正しました。
- ・ Facebook 管理者のいない Facebook ページが Social の Facebook ページ（設定 / Facebook ページ）に表示されなかった問題を修正しました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Standard

このリリースには、次の新機能および機能強化が含まれています。

機能/強化された機能	説明
Target Classic との HTML オファアの同期が強化され、文字制限が増加。	コンテンツの下に作成された HTML オファアの文字制限が引き上げられ、Target Classic に同期された HTML オファアの 256 KB の制限に一致するようになりました。
エクスペリエンスエディターでエラーが発生した場合のユーザーエクスペリエンスの向上。	ページ上の DOM 構造が変更され、セレクターを分断すると、エクスペリエンスエディターにメッセージが表示されます。

修正点

- ・ アクティビティ間で移動するとレポートグラフが生成されなかった問題を修正しました。
- ・ ユーザーが 目標と設定ページの **リンク** を選択をクリックしても、選択されたリンクが選択済みとしてマークされていなかった問題を修正しました。
- ・ 概要ページで新しいアクティビティを有効にしても、アクティビティ一覧に表示されなかった問題を修正しました。
- ・ クリック追跡のためのリンクをユーザーが選択できなかった問題を修正しました。
- ・ オファアレベルのレポートに、重複したオファアが表示されていた問題を修正しました。

- mbox 要素を挿入できなかった問題を修正しました。
- リンククリックのコンバージョンが動作していなかったエラーを修正しました。
- target="_blank" 関数を無効にするクリック追跡のコンバージョンエラーを修正しました。
- クリック追跡でページ外をナビゲートしていた問題を修正しました。

トップ

Target Classic

Target Classic のこのメンテナンスリリースには、サードパーティ ID に対するプロフィールデータストアのサポート、REST API の強化、お客様から報告されたバグ修正など、大幅な更新が含まれます。また、このリリースには、エッジキャッシュの一貫性に対する重要な機能強化も含まれ、これにより、お客様から報告された継続中の問題を修正します。

機能および拡張機能

機能/拡張機能	説明
A/B キャンペーン用の新しい REST API	新しい A/B キャンペーン API が追加されました。
rawBox 呼び出し用の mboxTrace のサポートの改善	mboxTrace 用のポップアップウィンドウが追加されました。
API 認証	プロフィールの更新、プロフィールの一括更新、プロフィール取得 API のための認証が追加されました。
上昇率と信頼性のバーの表示の改善	AOV および RPV 用の上昇率と信頼性のバーは、少なくとも 30 のコンバージョンおよび 30 の非コンバージョンが「テスト」列および「ターゲット」列の両方にある場合にのみ表示されます。

修正点

このメンテナンスリリースには、次の修正が含まれています。

- Target Standard のグラフが、レポートのデフォルト設定を変更したユーザーに表示されなかった問題を修正しました。
- ページの <Head> セクションの外に mbox.js 参照が表示されていた問題を修正しました。

- *bullseye_api* が Target Classic の履歴に表示されていた問題を修正しました。 *bullseye_api* は「システム」に変更されました。
- IE 9 および 11 で、 *mbox.js* を含めるために Adobe Analytics のトラッキングが動作していなかった問題を修正しました。
- 郵便番号を含む GeoTargeting が動作していなかったエラーを修正しました。
- IE で、成功指標レポートの CSV ファイルのダウンロードが動作していなかった問題を修正しました。
- ターゲティングオプションの末尾の空白が原因でデータがレポートに表示されなかった問題を修正しました。現在は、空白はターゲティングオプションからトリミングされます。
- 「販売額」列にマウスポインターを重ねると表示される信頼区間のエラーを修正しました。
- ドイツ語のブラウザーで、ヘルプメニューが表示されなかった問題を修正しました。

トップ

Media Manager

Adobe Media Manager の新機能および修正点です。

Adobe Media Manager は、検索、表示およびソーシャル広告に対する変更の影響を正確に予測します。キャンペーンの管理や自動化に役立ち、他の影響の大きいイニシアチブのためにリソースが解放されます。

- Data Integration Library (DIL) が更新され (バージョン 4.9)、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。
- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

トップ

Campaign

Adobe Campaign の新機能および修正点です。

Adobe Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。顧客の習慣や好みによって特定されたエクスペリエンスを利用して、顧客が欲しいものを予測できるようになりました。

製品ドキュメントについては、「[Adobe Campaign のドキュメント](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager および Scene7 の新機能および修正点です。

Adobe Experience Manager は、Web サイトの作成、管理、開発および公開を可能にする、エンタープライズ Web コンテンツ管理システムです。

製品ドキュメントについては、以下を参照してください。

- リリースノート：「[Adobe Experience Manager 6.0 リリースノート](#)」
- ヘルプホーム：[Adobe Experience Manager ヘルプホーム](#)
- Scene7 Publishing System：「[Scene7 Publishing System リリースノート](#)」

[トップ](#)

重要：このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Analytics: 新しいナビゲーションメニュー。**Social:** ソーシャルバズレポートおよびモデレート機能強化。**Recommendations 14.8.** 一般的な修正。

ご案内: 「[Adobe Priority Product Update](#)」（英語）では、メンテナンスリリースにて追加されるソリューションの新機能および修正内容の情報をメールでお届けしております。購読をご希望の場合は、以下のサイトにて必要事項をご記入ください。

リリース日: 2014 年 9 月 19 日

- [2014 年の主な機能](#)
- [Marketing Cloud とコアサービス](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

2014 年リリースの主な機能

2014 年にリリースされた Marketing Cloud の主な機能です。

ソリューション	機能	リリースノート
Marketing Cloud	オーディエンスライブラリ : セグメントの操作と同様に、オーディエンスを作成、編集および管理できます。この機能は、Master Marketing Profile の一部として、Audience Services を利用します。	2014 年 5 月
	Exchange Marketplace : 各種の連携ツールの検索、参照、選択、支払いおよびダウンロードを行えます。	2014 年 5 月
	アカウントへのリンク : ユーザーは、各ソリューションアカウントを Adobe ID にリンクまたはマッピングすることで、Marketing Cloud にアクセスできます。	2014 年 2 月

ソリューション	機能	リリースノート
Analytics	統合セグメント : Analytics インターフェイス全体およびレポートスイート全体でセグメントを作成、管理、および使用するようになりました。	2014 年 5 月
	Report Builder 5.0 : 新しいセグメントの管理、パスレポート、Reports & Analytics で作成されたダッシュボードおよびブックマークレポートを参照できるようになりました。	2014 年 5 月
Social	Social 3.3 : グローバルレポートスイートのサポート; 統合モデレーターの機能強化。	2014 年 5 月
Target	<p>名前の変更: <i>Target Advanced</i> は、<i>Target Classic</i> に名前が変更されました。Adobe Marketing Cloud の Target Advanced カードは、<i>Target Classic</i> ワークフローに変更されました。</p> <p>自動パーソナライゼーション: より良いデジタルエクスペリエンスを実現するために、エクスペリエンスのパーソナライズとコンバージョン率の向上を推進する高度な機械学習アルゴリズムです。</p>	2014 年 6 月
Media Manager	Master Marketing Profile の統合: Data Integration Library (DIL) を使用するのではなく、Adobe Analytics から Audience Management に直接データを送信します。	2014 年 8 月
	プロフィールの結合 : 認証済みアカウントからのプロフィールと匿名デバイスを単一のプロファイルに結合して、セグメント化とターゲット化をより詳細なものにします。	2014 年 9 月
Campaign v6.1	Campaign v6.1 : Adobe Experience Manager との統合、配信マーケティングキャンペーン、標準レポートの文字体裁、その他。	2014 年 7 月

ソリューション	機能	リリースノート
Experience Manager v6.0	<p>Adobe Experience Manager（AEM）v6.0 リリースは、組織における Web エクスペリエンス管理（WEM）のための総合アプリケーションスイートです。</p> <p>AEM のヘルプは、次の新しい場所に移動されました： docs.adobe.com。</p>	2014 年 5 月
ヘルプとコミュニティ	<p>ヘルプホーム：新しいヘルプドメインは、 https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/home/ です。ブックマークしている場合は更新してください。 （コンテンツは、1 年を通じてソリューションごとに移行されます。そのため、一部のコンテンツについては、以前のドメインで確認できる可能性があります。）</p>	進行中

以前のリリースについて詳しくは、[以前のリリースノート](#)を参照してください。

Marketing Cloud とコアサービス

Adobe Marketing Cloud とコアサービスの新機能および修正点です。

- [Marketing Cloud のインターフェイス](#)
- [Mobile Services 2.0](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Marketing Cloud 14.9.1

Adobe Marketing Cloud のコラボレーションおよび共有インターフェイスの新機能および修正点です。

修正点および改善点

- marketing.adobe.com に移動した場合のログイン操作が、アドビの Creative Cloud ログインと一致するようになりました。
- 組織の管理ページでのアカウントのリンク操作が、各ソリューションで一致するようになりました。

既知の問題

- ユーザー管理で行ったグループおよび権限付与の変更は、新しくログインした後でのみ有効になります。

- PDF からカードを作成してボードに共有することができない場合があります。
- ボードへのアセットのアップロードで問題が発生する場合があります。
- 古くなったアセットに関するエラー通知を受信する代わりに、そのアセットを削除できてしまう場合があります。
- ボードで PowerPoint ファイルを共有できません。
- 一部の .png ファイルは、カードにレンダリングできません。
- 多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが低下する可能性があります。
- Search&Promote リンクが「組織と製品へのアクセス」ページから利用できません。
- Marketing Cloud でコンテンツが共有されていない場合、Creative Cloud コンテンツが一部のユーザーのフォルダーから削除されることがあります。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud はじめに](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Adobe Mobile Services

Adobe Mobile Services により、アプリ用の各ソリューションが Adobe Marketing Cloud 上で統合されます。今回は、Adobe Analytics および Adobe Target ソリューションのアプリ分析およびターゲット化機能とのシームレスな統合を提供します。詳しくは、[Adobe Mobile サービスのドキュメント](#)を参照してください。

修正点

- 一部の顧客が正常にログインできなかった問題を修正しました。
- 更新されたヘルプは、https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/mobile/ にリンクされています。
- ログインページに表示される背景画像に小さな変更が加えられました。

詳しくは、「[Mobile の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Dynamic Tag Management

Dynamic Tag Management は毎週アップデートされます。最新および過去のリリースノート、ヘルプ、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Analytics

Adobe Analytics の新機能および修正点です。

- [Analytics の新機能](#)
- 修正点:
 - [Reports & Analytics](#)
 - [Report Builder](#)
 - [Ad Hoc Analysis](#)
 - [Data Workbench \(Analytics Premium\)](#)
 - [DataWarehouse](#)
 - [クリックストリームデータフィード](#)
- [AppMeasurement およびモバイル SDK](#)

Analytics の新機能

機能	説明
新しいナビゲーションメニュー	すべてのレポートにすばやくアクセスできる新しく使いやすいレポートメニューです。詳しくは、 Adobe Analytics ナビゲーションの変更 を参照してください。【既知の不具合】「お気に入り」レポートの名称を日本語にする場合に一部ブラウザで不具合が生じることがあります。
一貫した名前の付いたセグメント演算子	Reports & Analytics および Ad Hoc Analysis で、セグメントを作成する際に使用される演算子が一貫した名前になりました。

Reports & Analytics

修正点

- キーワードを検索 - すべてのレポートレットで、レポートスイートに設定されたベース通貨セットと異なる通貨がレポートされていた問題を修正しました。
- 2つのレポートスイート上のサイト階層レポートにアクセスしたユーザーが2つのレポートスイートを切り替えられなかった問題を修正しました。アクセス拒否エラーが表示されていました。
- フォールアウトレポートからセグメントを作成する際に発生していた問題を修正しました。コンテナが訪問（親レポート）から訪問者に変更されました。
- Ad Hoc Analysis で作成され、次に Reports & Analytics でコピーされたセグメントで発生していた問題を修正しました。
- 選択した日付範囲で、ヒット、訪問および訪問者の正しい数が表示されるように、セグメントビルダーのセグメントプレビューを修正しました。

- セグメントビルダーの国のリストにルーマニアが2回表示されていた問題を修正しました。
- iPad または iPad mini のリアルタイムレポートで、時間セクターが機能していなかった問題を修正しました。
- 英語以外の言語で、メニューのカスタマイズが保存できなかった問題を修正しました。
- Version 15 アップグレード日をまたぐレポートのページ名で階層レポートを分類した場合に、データが適切に並べ替えられなかった問題を修正しました。
- 時間ごとにレポートされる直帰率の正確性を向上するように、直帰率指標を含む時間別レポートの問題を修正しました。これは、時間別以外の直帰率のレポートには影響しませんでした。
- データ比較機能を使用すると、参照ドメインレポートに表示される合計売上高が変更される問題を修正しました。
- Target 統合のための Analytics で、アクティビティのコンバージョンの合計数が Analytics で間違ってレポートされる問題を修正しました。Target Standard では、合計は正しくレポートされていました。
- 一部の指標の2分類値が0としてレポートされる問題を修正しました。
- リファラータイプレポートと参照ドメインレポートで、リファラータイプのインスタンスが異なるようにレポートされていた問題を修正しました。これらの2つのレポート間でインスタンスが正しくレポートされるようになったので、リファラータイプレポートの配分設定は、参照ドメインの設定と一致するようになりました。
- Version 15 アップグレード日をまたぐ日付範囲のレポートで、ページでの平均滞在時間が正しくレポートされていなかった問題を修正しました。

[トップ](#)

Report Builder

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

Ad Hoc Analysis

修正点

- 次ページのフローレポートで、繰り返しインスタンスをカウント設定を「いいえ」から「はい」に繰り返しアイテムが表示されていませんでした。
- サイト分析レポートとページレポートでレポートされる直帰率に相違があった問題を修正しました。

- Reports & Analytics で「次の語句のいずれも含まない」演算子を使用してセグメントを作成する際に発生していた問題を修正しました。セグメントビルダーのプレビューで、このセグメントが Ad Hoc Analysis と互換性があるものとして表示されました。しかし、セグメントは、Ad Hoc Analysis で見つかりませんでした。

Data Workbench

このリリースでは更新はありません。

その他のリリース情報については、「[Data Workbench 6.2 の更新](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Data Warehouse

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

クリックストリームデータフィード

このリリースでは更新はありません。

[トップ](#)

AppMeasurement およびモバイル SDK

JavaScript 版 AppMeasurement

1.4.1

- tagContainerMarker 変数が追加されました。これにより、区切りのダッシュ文字と共にバージョン文字列に追加される最大 4 文字を指定して導入できます。これは、Dynamic Tag Management で使用されます。

```
1. // JavaScript
2. s.tagContainerMarker = "D1.0";
3.
4. // Data Collection request
5. //.../b/ss/myrsid/1/JS-1.4.1-D1.0/s43317392037311?...
```

この 4 文字は、英数字とピリオドなど、URL ファイルパスで許可される文字に制限されます。

- H コードの 2 重タグのあるページで、強制のリンクトラッキングが有効の場合（Webkit ブラウザーのデフォルト）、自動リンクトラッキング（ダウンロードおよび出口）中に発生していたループを修正しました。また、同様のループを防ぐために、自動リンクトラッキングに

一般的な保護を追加しました。この保護は、同じオブジェクトに対する 10 秒に 1 回の繰り返しクリックの自動リンクトラッキングに限定されます。この保護は、自動リンクトラッキングにのみ適用されるので、手動リンクトラッキング (s.tl) 呼び出しは制限されません。別のオブジェクトへのクリックも、この保護の影響は受けず、トラッキングされます。

- 遅延が必要な場合のクリックされたオブジェクトの処理を修正しました。
- s.t がリンク onclick 関数から呼び出されて、訪問者 API が必要な値をまだ持っていない場合、ページビューカウントが倍になる問題を修正しました。

JavaScript H コード (レガシー)

H.27.4

- tagContainerMarker 変数が追加されました。これにより、区切りのダッシュ文字と共にバージョン文字列に追加される最大 4 文字を指定して導入できます。これは、Dynamic Tag Management で使用されます。

```
1. // JavaScript
2. s.tagContainerMarker = "D1.0";
3.
4. // Data Collection request
5. //.../b/ss/myrsid/1/JS-1.4.1-D1.0/s43317392037311?...
```

Marketing Cloud 訪問者 ID サービス

1.3.2

- タイムアウトを処理する際のフォールバックのメカニズムによって、無効な Marketing Cloud 訪問者 ID が生成されていた可能性のあった問題を修正しました。

その他のプラットフォームにおける AppMeasurement

次に示すプラットフォームにおける AppMeasurement のリリース履歴については、[AppMeasurement のリリース履歴](#)を参照してください。

- JavaScript
- iOS
- Android
- Flash-Flex
- OSX
- Windows Phone、Xbox、Silverlight および .NET
- BlackBerry
- Java
- PHP
- Symbian

Adobe Social 3.3.4 リリース（2014年9月19日）の新機能および修正点です。

新機能および拡張機能

機能	説明
ソーシャルバズレポートの機能強化	ソーシャルバズレポートには、次の機能強化が含まれています。 画像ボタン ：投稿フィードで画像を表示または非表示にします。 再生/一時停止ボタン ：リアルタイムモードで投稿フィードを表示するか、フィードを一時停止して個別の投稿を検査します。 リツイートフィルター ：リツイートフィルターオプションを使用して、投稿フィードのリツイートを表示または非表示にします。
モデレーターの機能強化	Facebook 投稿を表示しない ：個別の投稿を削除する代わりに Facebook ページで非表示にします。 クイックアクションボタン ：モデレーターフィードのクイックアクションボタンがシンプルになりました。各投稿またはツイートについて、最も頻繁に使用されるボタンがテキストの下に表示されます。それほど頻繁に使用されないボタンには、その他ドロップダウンリストをクリックすることでアクセスできます。

修正点

上記に説明した新機能および機能強化に加えて、Social 3.3.4 には、パフォーマンス、拡張性、操作性および信頼性を向上させることに重点を置いた修正点があります。これらの領域において、300 件以上に及ぶバックエンドの修正および機能強化が行われています。次に、お客様から報告された重要な問題を解決するために加えられた修正を示します。

- Social にログインする際に、一部のユーザーが「サービスエラー」を受け取ることがあった問題を修正しました。
- Social にログインした後、ユーザーが指定したホームページが表示されなかった問題を修正しました。
- LinkedIn 投稿からデータが収集されなかった問題を修正しました。
- ソーシャルバズレポートの表示名レポートレットで発生していた表示の問題を修正しました。

- ・ソーシャルバズレポートで、好感度を調整しようとする、エラーメッセージが表示されていた問題を修正しました。
- ・ソーシャルバズレポートで、プラットフォームによって投稿数が追加され、その数字を指標の合計数と比較すると、指標の数値が一致しなかった問題を修正しました。
- ・ダウンロードされたレポートで、リンク - クリックのレポートが一致しなかった問題を修正しました。
- ・一部のユーザーの投稿者テンプレートが読み込めない問題を修正しました。
- ・コンテンツカレンダーで投稿に成功したと示されていても、ビデオが添付された Facebook 投稿に失敗することがある問題を修正しました。
- ・投稿およびコンテンツカレンダーが強化され、iPhone から投稿された画像の上下が逆の場合に警告が表示されるようになりました。以前は、プレビューパネルでデバイスが自動的に画像を回転していたので、画像が適切な向きかどうかを判断するのが困難でした。
- ・投稿またはコンテンツカレンダーを使用して画像、ビデオまたはリンクを追加または編集した後、投稿で再承認を求めることができなかった問題を修正しました。
- ・安全でない、または虐待的なコンテンツが原因で Facebook 投稿に失敗した場合、正しくないエラーメッセージが表示されていた問題を修正しました。
- ・コンテンツカレンダーで、ブラウザーを更新した後、選択したフィルターを保存できなかった問題を修正しました。
- ・投稿で、ユーザーがツイートでスペースに続いて「M」の文字を入力すると、エラーメッセージが表示されていた問題を修正しました。投稿がこのテキストを誤って Twitter コマンドとして認識していました。
- ・短縮 bit.ly URL がトラッキングコードを保持できないことがあった問題を修正しました。
- ・ソーシャルプロパティがドラフト投稿から削除された場合、削除された投稿通知が送信されていた問題を修正しました。
- ・理由が設定されているのに、対応が設定されていない場合、ユーザーがモデレートで投稿を承認申請できない問題を修正しました。
- ・ユーザーがページをリロードしない限り、再アクティブ化した後、非アクティブページに非アクティブなリスニングルールが表示されていた問題を修正しました。
- ・リスニングルールのデータをバックフィルした後、Social で「無効な日付 - 日付が無効です (backfill)」が表示されていた問題を修正しました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Standard（2014 年 9 月 20 日）

このリリースには、次の機能および機能強化が含まれています。

機能/拡張機能	説明
JavaScript の挿入および編集を許可	エクスペリエンスエディターで、アクションメニューから「HTML を編集」を選択すると、カスタム JavaScript を編集および挿入できる機能が追加されました。
自動オーディエンスインポート	ユーザーがオーディエンスリストを開いたとき、インポートされたオーディエンスが10 分以上経っている場合、オーディエンスはバックグラウンドで自動的にインポートされます。
Target Classic と同期できる以上にHTML オファアのサイズが増加	以前の 64 KB 制限から 256 KB に増加しました。

このリリースには、次の修正が含まれています。

- Firefox でビデオオファアが適切に配信されなかった問題を修正しました。
- リンクを編集を元に戻しても Visual Experience Composer で元に戻したものとして表示されなかった問題を修正しました。
- 自動パーソナライゼーションのエクスペリエンスエディターで、変更したビデオオファアが変更したものとして表示されなかった問題を修正しました。
- アクティビティの競合ページが Google Chrome で空白のページとして表示されなかった問題を修正しました。

Target Classic（2014 年 9 月 16 日）

このリリースには、次の機能および機能強化が含まれています。

機能/拡張機能	説明
レコメンデーションのサポートの強化	ウィジェットオファアの mboxTrace サポートが追加され、ウィジェットオファア提供に関する監視が追加されました。

修正点

このメンテナンスリリースには、次の修正が含まれています。

- ・キャンペーンレベルのターゲティングが UI に反映されない欠陥を修正しました。
- ・テストングでプロファイルスクリプトをオフにできる場合に、形式が正しくない IP アドレスが使用されていた問題を修正しました。

Recommendations 14.8（2014 年 9 月 11 日）

このリリースで強化された機能は次のとおりです。

強化された機能	説明
CSV ダウンロードのパフォーマンスが改善されました。	1 つのアルゴリズムのみ返された場合、アルゴリズム名と環境 ID の詳細が含まれます。
レポートスイートデータソースの親和性アルゴリズム用に、代替レコメンデーションが含まれます。	この機能強化により、代替レコメンデーションが提供されなかった問題が修正されます。

[トップ](#)

Search&Promote 8.16.0

新機能

- ・ガイド付き検索 3（GS3）での検索結果のキャッシュ - このカスタム機能を設定して、お使いのアカウントでできるようにするには、Adobe テクニカルアカウントマネージャーにお問い合わせください。
- ・頻繁に変更されるフィールドの垂直更新。コンテンツのインデックスを完全に再作成することなく、メタデータフィールドのセットのすべての値をすばやく更新する機能が追加されました。

この機能は、インデックスコネクタを使用する Adobe Search&Promote アカウントでのみ使用できます。このカスタム機能を設定して、お使いのアカウントでできるようにするには、Adobe テクニカルアカウントマネージャーにお問い合わせください。

修正点および改良点

- ・> 文字列を含む XML フィードを解析するインデックスコネクタが修正されました。
- ・最少のドキュメント数が強制される場合のインデックスコネクタSFTPフィードを修正しました。
- ・Microsoft Excel へのレポート書きだしで、UTF8 をサポートするようになりました。
- ・ガイド付き検索：ファセットのコンパイルが遅かった問題を修正しました。
- ・属性ローダー：データの集計でキーが重複していた問題を修正しました。

- 個別のルールをライブにプッシュする際の、間違ったビジネスルールの実行命令を修正しました。
- ガイド付き検索によって、間違ったファセットの元に戻すリンクが生成されていた問題を修正しました。
- 新しいリモートコントロール操作が追加され（sp_lines=N）、現在実行中のインデックスコントロールの進捗状況と状態をチェックできます。
- インデックスコネクタの増分中に削除した情報を取得する際に、認証情報を送信する必要があります。
- 変更ログレポートで、手動インデックス作成処理を開始したユーザーを特定できるようになりました。
- キーワードレポートを書き出す際に、レポートのキーワードが 500 未満に制限されることはなくなりました。
- インデックスコネクタの HTML を除去設定が、常にチェック済みとして表示されていた問題を修正しました。
- 共通**フレイズ**機能で、検索結果が一致しなかった問題を修正しました。
- ルールリストの概要で、属性名の表示が切り詰められていた問題を修正しました。
- 個別のビジネスルールをライブにプッシュすると、すべてのビジネスルールがライブにプッシュされていた問題を修正しました。

トップ

Media Manager

Adobe Media Manager の新機能および修正点です。

Adobe Media Manager は、検索、表示およびソーシャル広告に対する変更の影響を正確に予測します。キャンペーンの管理や自動化に役立ち、他の影響の大きいイニシアチブのためにリソースが解放されます。

- Data Integration Library（DIL）が更新され（バージョン 4.9）、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。
- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

トップ

Campaign

Adobe Campaign の新機能および修正点です。

Adobe Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。顧客の習慣や好みによって特定されたエクスペリエンスを利用して、顧客が欲しいものを予測できるようになりました。

製品ドキュメントについては、「[Adobe Campaign のドキュメント](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager および Scene7 の新機能および修正点です。

Adobe Experience Manager は、Web サイトの作成、管理、開発および公開を可能にする、エンタープライズ Web コンテンツ管理システムです。

製品ドキュメントについては、以下を参照してください。

- リリースノート：「[Adobe Experience Manager 6.0 リリースノート](#)」
- ヘルプホーム：[Adobe Experience Manager ヘルプホーム](#)
- Scene7 Publishing System: 「[Scene7 Publishing System リリースノート](#)」

[トップ](#)

重要：このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

dynamic tag management - 更新対象製品: Mobile Services Fall リリース、アナリティクスプレミアムの新機能、Social 3.3.5、Target Classic。

「[Adobe Priority Product Update](#)」（英語）では、メンテナンスリリースにて追加されるソリューションの新機能および修正内容の情報をリリースの 1 週間前にメールでお届けしております。購読をご希望の場合は、以下のサイトにて必要事項をご記入ください。

リリース日: 2014 年 10 月 17 日

最終更新日: 2014 年 10 月 29 日 ([Dynamic Tag Management](#))

- [2014 年の主な機能](#)
- [Marketing Cloud とコアサービス](#)
- [Analytics](#)
- [Social](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

2014 年リリースの主な機能

2014 年にリリースされた Marketing Cloud の主な機能です。

ソリューション	機能	リリースノート
Marketing Cloud	Marketing Cloud オーディエンス : セグメントを処理する場合と同様に、オーディエンスを作成、編集、管理できます。オーディエンスを共有して、Analytics、Target、Audience Management などのソリューションで使用できます。	2014 年 5 月
	Exchange Marketplace : 各種の連携ツールの検索、参照、選択、支払いおよびダウンロードを行えます。	2014 年 5 月

ソリューション	機能	リリースノート
	アカウントへのリンク : ユーザーは、各ソリューションアカウントを Adobe ID にリンクまたはマッピングすることで、Marketing Cloud にアクセスできます。	2014 年 2 月
Analytics	統合セグメント : Analytics インターフェイス全体およびレポートスイート全体でセグメントを作成、管理、および使用するようになりました。	2014 年 5 月
	Report Builder 5.0 : 新しいセグメントの管理、パスレポート、Reports & Analytics で作成されたダッシュボードおよびブックマークレポートを参照できるようになりました。	2014 年 5 月
Social	Social 3.3 : グローバルレポートスイートのサポート; 統合モデレーターの機能強化。	2014 年 5 月
Target	製品名称の変更: <i>Target Advanced</i> は、 <i>Target Classic</i> に名前が変更されました。Adobe Marketing Cloud の Target Advanced カードは、 <i>Target Classic</i> ワークフローに変更されました。	2014 年 6 月
Media Manager	Master Marketing Profile との統合 : Data Integration Library (DIL) を使用するのではなく、Adobe Analytics から Audience Management に直接データを送信します。	2014 年 8 月
	プロフィールの結合 : 認証済みアカウントからのプロフィールと匿名デバイスを単一のプロフィールに結合して、セグメント化とターゲット化をより詳細なものにします。	2014 年 9 月
Campaign v6.1	Campaign v6.1 : Adobe Experience Manager との統合、配信マーケティングキャンペーン、標準レポートの文字体裁、その他。	2014 年 7 月

ソリューション	機能	リリースノート
Experience Manager v6.0	<p>Adobe Experience Manager（AEM）v6.0 リリースは、組織における Web エクスペリエンス管理（WEM）のための総合アプリケーションスイートです。</p> <p>AEM のヘルプは、次の新しい場所に移動されました： docs.adobe.com。</p>	2014 年 5 月
ヘルプとコミュニティ	<p>ヘルプホーム：新しいヘルプドメインは、 https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/home/ です。ブックマークしている場合は更新してください。 （コンテンツは、1 年を通じてソリューションごとに移行されます。そのため、一部のコンテンツについては、以前のドメインで確認できる可能性があります。）</p>	進行中

以前のリリースについて詳しくは、[以前のリリースノート](#)を参照してください。

Marketing Cloud とコアサービス

Adobe Marketing Cloud とコアサービスの新機能および修正点です。

- [Marketing Cloud のインターフェイス](#)
- [Mobile Services](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Marketing Cloud 14.10.1

Adobe Marketing Cloud のコラボレーションおよび共有インターフェイスの新機能および修正点です。

機能	説明
ユーザー権限を編集	<p>ボードの所有者は、特定のボードのユーザー権限を編集できるようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボード上で、「設定」をクリックします。 2. 各所有者の横の「所有者」、「閲覧者」または「エディター」を指定します。

修正点

- PDF からカードを作成したり、ボードにカードを共有すると、エラーメッセージが返されていた問題を修正しました。

既知の問題

- ボードへのアセットのアップロードで問題が発生する場合があります。
- 一部の .png ファイルは、カードにレンダリングできません。
- ユーザー管理で行ったグループおよび権限付与の変更は、新しくログインした後でのみ有効になります。
- PDF からカードを作成してボードに共有することができない場合があります。
- 古くなったアセットに関するエラー通知を受信する代わりに、そのアセットを削除できてしまう場合があります。
- ボードで PowerPoint ファイルを共有できません。
- 多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが低下する可能性があります。
- Search&Promote リンクが「組織と製品へのアクセス」ページから利用できません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud はじめに](#)」を参照してください。

トップ

Adobe Mobile Services Fall 2014

Mobile Services Fall 2014 リリースでは、アプリ内メッセージの機能とレポートが追加されました。

機能	説明
----	----

機能	説明
アプリ内メッセージ	<p>アプリ内メッセージは、ユーザーの行動と特徴に基づいて、リアルタイムに配信されます。サポートされるメッセージのタイプは、カスタムおよびテーマ、フルスクリーン、ネイティブアラート、ローカル通知です。メッセージの表示条件は、SDK によって既に計測されている Analytics データを組み合わせで指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SDK v4.2 が必要です。 • メッセージが承認されると、自動的にアプリに発行されます。 • メッセージパラメーター（traits、trigger、schedule）の条件が一致すると、メッセージが表示されます。 • メッセージは、HTML や画像の URL でも指定できます。オフライン時に表示された場合の対策として、アプリバンドルに保存する代替イメージも指定できます。 • 表示されたメッセージは、合計表示回数、クリックスルー率などのレポートを提供します（以下に説明）。 • カスタムメッセージにテンプレートを使用できます。これにより、独自のアプリ内メッセージを簡単に作成できます。 <p>詳しくは、Mobile Services ヘルプの「アプリ内メッセージ」を参照してください。</p>

機能	説明
アプリメッセージレポート	<p>メッセージングパフォーマンス指標: アプリ間プロモーション、合計ユーザー数、表示回数、およびクリックスルーを表示します。任意のメッセージについてのレポートを実行できます。KPI テーブルを使用して、アプリメッセージで重要なことを確認できます。</p> <p>アプリ内メッセージ名: ユーザー、メッセージ表示回数およびメッセージクリックスルー別の、最も人気のあるメッセージのランクレポートです。表示されたことのないメッセージは、このリストには表示されません。</p> <p>メッセージのベースライントラッキングが組み込まれています。メッセージが表示されて、ユーザーがその表示を消すかクリックスルーすると、Adobe Analytics は、データを自動的に収集します。</p> <p>このレポートは、アプリ内メッセージ名のランクリストに基づいて表示されます。名前は、メッセージ ID の分類です。メッセージ名を変更すると、データが遡って更新されます。</p> <p>注意: これは分類レポートなので、更新されたメッセージがレポートに反映されるまで数時間かかる場合があります。</p>
目標地点リストのリモート配信	<p>SDK 4.2 を使用すれば、目標地点を更新するためにアプリの更新をストアに申請する必要がなくなります。</p> <p>目標地点の設定ページで、「保存」をクリックして目標地点リストへの変更をパッケージ化し、次に、公開中のアプリ用に（アプリの SDK をダウンロード）の設定ファイルを更新します。また、アプリが更新された SDK とリモート目標地点 URL の設定を使用している限り、保存するとユーザーデバイス上のアプリの地点のリストも更新されます。</p>

モバイル SDK 4.2 ドキュメント

- [iOS](#)
- [Android](#)

修正点

- アプリの削除機能に影響する、アプリの概要ページの削除エラーを修正しました。
- タイトル という名前が 件名 に変更されました（Feedback ページについて）。
- SDK でパッケージ化された場合に、設定ファイルを読み取り可能にできなかった問題を修正しました。

- ・ 概要 KPI スパークラインおよび合計が空白のカードとして表示される問題を修正しました。
- ・ 言語を変更すると、製品がローカライズされるようになりました。
- ・ アクションインスタンスでわかりやすい名前が表示されなかった問題を修正しました。

トップ

Dynamic Tag Management

2014 年 10 月 29 日にリリースされた Dynamic Tag Management の新機能です。

機能	説明
Adobe Target の統合	<p>Adobe Target ツールが更新され、Dynamic Tag Management による自動実装が可能になりました。</p> <p>設定については、Adobe Target の設定を参照してください。</p>
Google ユニバーサルアナリティクスプレミアム機能を有効にする	<p>ツール内に、Google ユニバーサルアナリティクスのプレミアム機能のチェックボックスを追加しました（一般グループ）。このオプションにより、ディメンションと指標の最大値が 20 から 200 に増えます。</p>

修正点および改善点

- ・ トラッキングサーバーの値が Dynamic Tag Management によって自動的に決定され、Adobe Analytics ツールで誤った値が設定される場合があった問題を修正しました。
- ・ 復元されたデータ要素の名前に「(Restored)」が付いていると、そのデータ要素の以前の参照が壊れる問題を修正しました（この値は、データ要素を復元した際に既存のデータ要素と名前が競合する場合にのみ追加されるようになりました）。
- ・ クリックイベントでイベントベースのルールをトリガーする際に発生していた問題を修正しました。クリックイベント時に HREF のないアンカータグにリンクのアクティブ化の遅延があると、このバグによりブラウザーが強制的に空の HREF の場所を表示しようとしていました。
- ・ Analytics ツールへの変更が拒否され、その後復元された場合に、Analytics ツールで設定されたグローバル変数が Dynamic Tag Management で保存されなくなっていた問題を修正しました。
- ・ ライブラリ生成プロセスのパフォーマンスが大幅に改善されました。これにより、特にピーク時の実稼働環境で変更が表示されるまでの待ち時間が短くなります。
- ・ 大量のデータが表示されている場合に、会社の管理者がアクティビティログを CSV にエクスポートできなかった問題を修正しました。

- CSS セレクターベースのデータ要素にカスタム HTML データ属性を使用できるようになりました。

最新および過去のリリースノート、ヘルプ、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Analytics

注意: 次の Adobe Analytics 機能は、このリリースでは更新はありません。

- Reports & Analytics
- Report Builder
- Ad Hoc Analysis
- Data Warehouse
- クリックストリームデータフィード
- AppMeasurement
- Web サービス

Analytics Premium の新機能

機能	説明
最適なアトリビューション	<p>最適なアトリビューションは、機会学習アプローチにより、コンバージョンにつながる様々なレベルの顧客インタラクションを特定し、適切なレベルのアトリビューションを各イベントに割り当てます。</p> <p>最適なアトリビューションにより、成功コンバージョンイベントが発生する前の期間の接点を評価してから、Data Workbench アルゴリズムを使用して、マーケティングキャンペーンおよび内部ワークフローに特有の結果を含むデータに基づいてアトリビューションモデルを構築します。</p>

機能	説明
Master Marketing Profile との統合	<p>Data Workbench で作成されたリッチな顧客セグメントを Adobe Marketing Cloud と共有します。Master Marketing Profile の統合により、Adobe Marketing Cloud およびその他の Adobe Analytics に含まれる製品では、Data Workbench で作成されたリッチなオーディエンスセグメントを活用できます。</p> <p>この機能を利用するには、Marketing Cloud を設定および実行する必要があります。Master Marketing Cloud の統合により、クラスタリングおよび変更スコアなどの予測機能を実行して、セグメントをより大規模な Adobe Marketing Cloud やその他の製品（Adobe Target、Adobe Experience Manager など）に広げることができます。</p>
セグメントの書き出し形式オプション	<p>ファイル操作を追加することなく、他の機能と直接統合するための、業界標準の形式オプションがセグメントに追加されました。これにより、よりシームレスなワークフローとより迅速な分析を実現します。</p>
Clustering 2.0	<p>優先クラスター生成処理の中心を見つけるためのより高速なアプローチを使用する、新しい KMeans++ アルゴリズム（KMeans は現在サポートされています）が含まれます。また、これにより、バランスクラスターオプションを使用して、一定の割合（60、70、80%）でのクラスターの最大サイズを設定して、クラスターのバランスをとることができます。</p>
トレンドライン	<p>非常に見やすく解釈しやすいデータの描写を提示します。</p>
回帰分析グラフ	<p>分析ワークフロー内でのある要素から別の要素の直接の影響を比較する機能を提供します。</p>
円グラフの更新	<p>円グラフの視覚化が更新され、凡例で識別されるデフォルトのカラーを使用したり、カラーチャートに基づいてカラーを設定できます。</p>
弦の視覚化	<p>弦の視覚化により、相関行列の別の表示を提供します。</p>
クエリー文字列のグループ化	<p>カスタム eVar、prop および変数に多くのフィールドがある場合、ログの処理中に名前と値のペアを構築して、レポートでフィールドを組み合わせることができます。</p>

機能	説明
待ち時間	時間ディメンションと加算ディメンション（例：日、月）の両方の選択を可能にします。
キーボードショートカット	Data Workbench の新しいキーボードショートカットにより、メインワークトップウィンドウと個別のワークスペースを矢印キーを使用して移動できます。さらに、ワークスペースのツールバーがワークトップウィンドウに表示されるようになりました。

モバイル SDK

[Adobe Mobile Services Fall 2014](#) の機能で、iOS および Android のモバイル SDK のバージョン 4.2 を利用できるようになりました。詳しくは、次を参照してください。

- [iOS](#)
- [Android](#)

トップ

Social

Adobe Social 3.3.5 リリース（2014 年 10 月 17 日）の新機能および修正点です。

機能	説明
新しいキャンペーンパラメーター	<p>Adobe Analytics で表示可能なキャンペーンとソーシャルエンゲージメントデータを結び付けるための 3 つの新しい URL パラメーターが追加されました。</p> <p>投稿の URL に自動的に追加されるキャンペーントラッキングコード（adbsc）に加えて、Social も 3 つのパラメーターを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • adbid: 投稿のネイティブ投稿 ID（例えば、Twitter によって割り当てられたネイティブ ID）。 • adbpr: 投稿のプロパティ ID（例えば、Twitter アカウントの ID）。 • adbp1: 投稿のプラットフォーム識別子の省略形（例えば、tw）。

機能	説明
リスニングルールの強化	ユーザーが誤って大量のデータをバックフィルできないようにする保護機能が追加されました。

修正点

上記に説明した新機能および機能強化に加えて、Social 3.3.5 には、パフォーマンス、拡張性、操作性および信頼性を向上させることに重点を置いた修正点があります。これらの領域において、525 件以上に及ぶバックエンドの修正および機能強化が行われています。次に、お客様から報告された重要な問題を解決するために加えられた修正を示します。

- ・ダウンロードされた投稿レポートに関する 2 つの書き出しの問題を修正しました。最初の問題は、2 つのリンクが指定されている場合でも、書き出しでは 1 つの Facebook 投稿リンクのみ表示されていました。2 番目の問題は、Google+ 投稿リンクが別々の行に表示されず、各リンクが 1 行に表示されていました。
- ・ダウンロードされた投稿レポートがフィルター設定を実行できなかった問題を修正しました。
- ・投稿の「タグ」でテンプレートをフィルタリングする際にエラーが発生する問題を修正しました。
- ・投稿の「投稿のタイプ」でテンプレートをフィルタリングする際にエラーが発生する問題を修正しました。
- ・投稿のタグの type-ahead、auto-fill 機能が期待どおりに機能していなかった問題を修正しました。
- ・多くのページ数へのグループ投稿が失敗していた問題を修正しました。
- ・投稿で、ハッシュタグを使用する際に発生していた問題を修正しました。候補が提供されず、投稿でのハッシュタグの表示が失敗します。
- ・bit.ly リンクで、割り当てられたキャンペーンがあるにもかかわらず、公開された投稿にキャンペーントラッキングコードを追加できなかった問題を修正しました。
- ・Facebook プライベートメッセージのコンバージョンの最初のメッセージがコンテンツの詳細ページに表示されなかった問題を修正しました。
- ・統合モデレートで、拡張されたリツイートが文字数制限を超える場合にリツイートの URL が正しく表示されなかった問題を修正しました。

トップ

Target

Target の新機能および修正点です。

Target Classic

機能	説明
ホワイトリストに登録されたホストによる mbox 呼び出し元の制限	<p>mbox 呼び出しを Target に送信するために認証されたホスト（ドメイン）を指定します。呼び出しを生成するその他のすべてのホストは、コメントアウト認証エラーの応答を得ます。</p> <p>デフォルトでは、mbox 呼び出しを含むホストは、Target の「実稼動」ホストグループに登録され、アクティブで承認済みのすべてのキャンペーンへのアクセス権を持ちます。これが期待された手法でない場合は、代わりに mbox を呼び出し、Target キャンペーンコンテンツを受け取る資格のある特定のホストを記録できます。複数のホストをリストに記載できます。それぞれホストグループページの独自の行に記載されます。</p> <p>すべてのホストは、ホストグループリストに引き続き表示されます。ホストグループは、依然としてこれらのホストのグループ化に使用され、ホストが承認済み／未承認のキャンペーンを確認できるかどうかなど、異なるレベルをそれぞれに割り当てることができます。</p>
サードパーティ ID のサポートの追加	<p>Adobe Target は、mbox PCID および Marketing Cloud グローバル訪問者 ID に加えて、サードパーティ ID をサポートするようになりました。これによって、組織は、独自の顧客 ID でユーザーを特定し、これらの ID を既存の PCID や Marketing Cloud グローバル訪問者 ID に結び付けることができます。この新しい機能は、下位互換性があるので、サードパーティ ID、mbox PCID および Marketing Cloud グローバル訪問者 ID の様々な組み合わせを使用して、プロファイルを検索できます。</p>
Marketing Cloud グローバル訪問者 ID のサポートの追加	<p>サードパーティ ID および mbox PCID に加えて、Adobe Target は、Marketing Cloud グローバル訪問者 ID をサポートするようになりました。Marketing Cloud グローバル訪問者 ID により、Adobe Marketing Cloud 内のソリューション全体でプロファイルデータを共有できます。この機能は下位互換性があるので、サードパーティ ID、Marketing Cloud グローバル訪問者 ID または mbox PCID を任意に組み合わせプロファイルを検索できます。</p>

修正点

- "" またはキャリッジリターンが適切なターゲティング値として扱われていた問題を修正しました。

- API のみの設定（キャンペーンからのアクセスは禁止）がキャンペーン編集ページに表示されていた問題を修正しました。
- 1:1 レポートの結果情報を修正しました。
- キャンペーン編集ページの mbox リストから非アクティブ化された mbox を削除しました。

Media Manager

Adobe Media Manager の新機能および修正点です。

Adobe Media Manager は、検索、表示およびソーシャル広告に対する変更の影響を正確に予測します。キャンペーンの管理や自動化に役立ち、他の影響の大きいイニシアチブのためにリソースが解放されます。

- Data Integration Library（DIL）が更新され（バージョン 4.9）、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。
- [Audience Management のリリースノート](#)。
- Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

[トップ](#)

Campaign

Adobe Campaign の新機能および修正点です。

Adobe Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。顧客の習慣や好みによって特定されたエクスペリエンスを利用して、顧客が欲しいものを予測できるようになりました。

製品ドキュメントについては、「[Adobe Campaign のドキュメント](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager および Scene7 の新機能および修正点です。

Adobe Experience Manager は、Web サイトの作成、管理、開発および公開を可能にする、エンタープライズ Web コンテンツ管理システムです。

製品ドキュメントについては、以下を参照してください。

- リリースノート：「[Adobe Experience Manager 6.0 リリースノート](#)」
- ヘルプホーム： [Adobe Experience Manager ヘルプホーム](#)
- Scene7 Publishing System: 「[Scene7 Publishing System リリースノート](#)」

[トップ](#)

重要： このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:

5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386



Marketing Cloud リリースノート

Dynamic Tag Management、Mobile Services および Target のマイナーアップデートです。今月は Analytics および Social の更新はありません。

ご案内: 「[Adobe Priority Product Update](#)」 (英語) では、メンテナンスリリースにて追加されるソリューションの新機能および修正内容の情報をメールでお届けしております。購読をご希望の場合は、[サイト](#)にて必要事項をご記入ください。

リリース日: 2014 年 11 月 14 日

- [2014 年の主な機能](#)
- [Marketing Cloud とコアサービス](#)
- [Analytics](#)
- [Target](#)
- [Media Manager](#)
- [Campaign](#)
- [Experience Manager](#)

2014 年リリースの主な機能

2014 年にリリースされた Marketing Cloud の主な機能です。

ソリューション	機能	リリースノート
Marketing Cloud	Marketing Cloud オーディエンス : セグメントを処理する場合と同様に、オーディエンスを作成、編集、管理できます。オーディエンスを共有して、Analytics、Target、Audience Management などのソリューションで使用できます。	2014 年 5 月
	Exchange Marketplace : 各種の連携ツールの検索、参照、選択、支払いおよびダウンロードを行えます。	2014 年 5 月
	アカウントへのリンク : ユーザーは、各ソリューションアカウントを Adobe ID にリンクまたはマッピングすることで、Marketing Cloud にアクセスできます。	2014 年 2 月

ソリューション	機能	リリースノート
	Mobile Services - 2014 年秋: アプリ内メッセージおよびアプリメッセージのレポート。	2014 年 10 月
Analytics	統合セグメント : Analytics インターフェイス全体およびレポートスイート全体でセグメントを作成、管理、および使用するようになりました。	2014 年 5 月
	Report Builder 5.0 : 新しいセグメントの管理、パスレポート、Reports & Analytics で作成されたダッシュボードおよびブックマークレポートを参照できるようになりました。	2014 年 5 月
Social	Social 3.3 : グローバルレポートスイートのサポート; 統合モデレーターの機能強化。	2014 年 5 月
Target	製品名称の変更: <i>Target Advanced</i> は、 <i>Target Classic</i> に名前が変更されました。Adobe Marketing Cloud の <i>Target Advanced</i> カードは、 <i>Target Classic</i> ワークフローに変更されました。	2014 年 6 月
Media Manager	Master Marketing Profile との統合 : Data Integration Library (DIL) を使用するのではなく、Adobe Analytics から Audience Management に直接データを送信します。	2014 年 8 月
	プロフィールの結合 : 認証済みアカウントからのプロフィールと匿名デバイスを単一のプロファイルに結合して、セグメント化とターゲット化をより詳細なものにします。	2014 年 9 月
Campaign v6.1	Campaign v6.1 : Adobe Experience Manager との統合、配信マーケティングキャンペーン、標準レポートの文字体裁、その他。	2014 年 7 月

ソリューション	機能	リリースノート
Experience Manager v6.0	<p>Adobe Experience Manager（AEM）v6.0 リリースは、組織における Web エクスペリエンス管理（WEM）のための総合アプリケーションスイートです。</p> <p>AEM のヘルプは、次の新しい場所に移動されました： docs.adobe.com。</p>	2014 年 5 月
ヘルプとコミュニティ	<p>ヘルプホーム：新しいヘルプドメインは、 https://marketing.adobe.com/resources/help/ja_JP/home/ です。ブックマークしている場合は更新してください。 （コンテンツは、1 年を通じてソリューションごとに移行されます。そのため、一部のコンテンツについては、以前のドメインで確認できる可能性があります。）</p>	進行中

以前のリリースについて詳しくは、[以前のリリースノート](#)を参照してください。

[トップ](#)

Marketing Cloud とコアサービス

Adobe Marketing Cloud とコアサービスの新機能および修正点です。

- [Marketing Cloud のインターフェイス](#)
- [Mobile Services](#)
- [Dynamic Tag Management](#)

Marketing Cloud 14.11.1

既知の問題：

- 古くなったアセットに関するエラー通知を受信する代わりに、そのアセットを削除できてしまう場合があります。
- 一部の .png ファイルは、カードにレンダリングできません。
- ボードへのアセットのアップロードで問題が発生する場合があります。
- ユーザー管理で行ったグループおよび権限付与の変更は、新しくログインした後でのみ有効になります。
- 管理者がアカウントの設定で行った変更を確認するには、ログアウトしてから再度ログインする必要があります。
- ボードで PowerPoint ファイルを共有できません。

- 多くのユーザーが同時に使用すると、Marketing Cloud インターフェイスのパフォーマンスが低下する可能性があります。
- Adobe Experience Manager から Creative Cloud への同期が機能していません。

製品のヘルプについては、「[Adobe Marketing Cloud はじめに](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Adobe Mobile Services

修正点:

- 共通フィルターでの日本語テキストの文字化けが修正されました。
- （「アプリを管理」にある）最終更新日のテキストが常に今日の日付で表示される問題が修正されました。
- 一部のヨーロッパのロケールで、アプリ内メッセージのプレビューが見えなくなる問題が修正されました。
- iOS デバイスでログインする際の自動修正機能が解除されました。

[トップ](#)

Dynamic Tag Management

機能	説明
Dynamic Tag Management における Adobe Media Manager との統合が次の点で強化されました。	<ul style="list-style-type: none">• 最新（v3）の Media Manager タグのデフォルト配信• データ要素ベースの SKU のサポート• 不要なビーコンの抑制• 小規模な機能強化

最新および過去のリリースノート、ヘルプ、およびドキュメントの更新については、「[Dynamic Tag Management の新機能](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Analytics

2015 年 1 月 30 日以降、現在のバージョンの Adobe Report Builder のみが Adobe Analytics に接続されます。以前のバージョンでは接続できなくなります。この変更は、この日に行われる多数のセキュリティ機能の強化に伴うものです。1 月 30 日までに、すべてのユーザーがバージョン 5.0.50

以降 (2014 年 10 月 21 日リリース) に更新する必要があります。最新バージョンにアップグレードする方法については、[Report Builder のアップグレード](#)を参照してください。

Target

Adobe Target の新機能および修正点です。

Target Classic

このマイナーリリースは、主にサーバーの安定性に焦点を当てています。このパッチの一部としての新機能はありません。

Recommendations

このリリースで強化された機能は次のとおりです。

強化された機能	説明
「オールオアナッシング」のテンプレート作成動作をアルゴリズムレベルで無効にするオプションが追加されました。	以前は、推奨項目の数がテンプレートで定義された「スロット」の数より少ない場合は、テンプレートが html に変換されませんでした。この「オールオアナッシング」の動作を、アルゴリズムレベルで設定できるようになりました。 既存のレコメンデーションの作成 / 更新 API の変更に加え、テンプレートの部分的なレンダリングを有効にするチェックボックスを追加しました。
バックアップレコメンデーションをアルゴリズムレベルで無効にできます。	レコメンデーションへのバックアップの追加をアルゴリズムレベルで無効にできる機能が追加されました。以前は、クライアントレベルでのみ使用可能でした。 新しいフィールドの値は、現在のクライアントレベルの設定の値に基づいて設定されます。

テンプレートの部分的なレンダリングおよびバックアップレコメンデーションの無効化に関するカスタムアルゴリズムの更新は、カスタムアルゴリズム API を介して設定する必要があります。

`&disableBackup=[true|false]&allowPartialTemplate=[true|false]`

[トップ](#)

Search&Promote 8.17.0 (2014 年 10 月 31 日リリース)

新機能

- ・シミュレーターのデバッグ - 各ユーザーの表示可能な検索結果の配置に関する追加情報を提供します。
- ・ビジネスルールのタグ - ビジネスルールに固有のラベルでタグ付けする機能が追加されました。これにより、指定したラベルに一致するルールをフィルタリングできます。

修正点および改善点

- ・垂直方向の更新ベースの再ランキング - 高速化したインデックスの再ランキングによって、実際の Web トラフィックのエクスペリエンスをより正確に把握できるようになりました。
- ・言葉 / 文字と言語で「**アポストロフィを無視**」および「**ハイフンを無視**」を有効にすると、オートコンプリートによってクエリーデータからアポストロフィおよびハイフンが期待どおりに削除されるようになりました。
- ・プロセスモニターで Apache プロセスを再起動できるようになりました。
- ・ビジネスルールに **ファセット項目を表示アクション**が実装されました。
- ・ランキングの重みを調整ページで、「**ルールと関連性のバランス**」の設定を 1% ずつの増分で調整できます。
- ・Kindle Fire の Silk ブラウザーのユーザーエージェントで、Apache がクラッシュしていた問題を修正しました。
- ・インデックスエラーを修正しました。

トップ

Media Manager

Adobe Media Manager の新機能および修正点です。

Adobe Media Manager は、検索、表示およびソーシャル広告に対する変更の影響を正確に予測します。キャンペーンの管理や自動化に役立ち、他の影響の大きいイニシアチブのためにリソースが解放されます。

- ・Data Integration Library (DIL) が更新され (バージョン 4.9)、Adobe Marketing Cloud の訪問者 ID が使用されるようになりました。Visitor Service バージョン 1.2.1 以降を使用する必要があります。
- ・[Audience Management のリリースノート](#)。
- ・Advertising Management のヘルプが、製品のヘルプ / ヘルプコンテンツで利用できるようになりました。

トップ

Campaign

Adobe Campaign の新機能および修正点です。

Adobe Campaign は、オンラインおよびオフラインのマーケティングチャネルにわたって 1 対 1 のメッセージを届けるために直感的で自動化された方法を提供します。顧客の習慣や好みによって特定されたエクスペリエンスを利用して、顧客が欲しいものを予測できるようになりました。

製品ドキュメントについては、「[Adobe Campaign のドキュメント](#)」を参照してください。

[トップ](#)

Experience Manager

Experience Manager および Scene7 の新機能および修正点です。

Adobe Experience Manager は、Web サイトの作成、管理、開発および公開を可能にする、エンタープライズ Web コンテンツ管理システムです。

製品ドキュメントについては、以下を参照してください。

- リリースノート：「[Adobe Experience Manager 6.0 リリースノート](#)」
- ヘルプホーム：[Adobe Experience Manager ヘルプホーム](#)
- Scene7 Publishing System: 「[Scene7 Publishing System リリースノート](#)」

[トップ](#)

重要：このページの内容は、毎月のリリースで変更される場合があります。定期的にアクセスして、最新情報を確認してください。

Copyright © 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

本ドキュメントを利用した場合、[利用条件](#)および[オンラインプライバシーポリシー](#)に同意したものと見なされます。

Adobe Systems Incorporated products and services are licensed under the following Netratings patents:
5,675,510, 5,796,952, 6,115,680, 6,108,637, 6,138,155, 6,643,696, and 6,763,386

